

- 實地臨檢ノ場所ニ於テ鑑定ヲ命スルカ如キハ臨檢處分上必要ノ所爲ナルヲ以テ臨檢ノ決定中ニ當然包含セルモノトス
- 豫審判事又ハ公判裁判所カ其裁判所ニ於テ管轄權ヲ有スル別異ノ被告事件ヲ併合スルコトヲ必要又ハ有益ト認メタルトキハ其所信ニ從ヒ併合審理ヲ爲スコトヲ得而シテ其事件ノ重罪事件ナルト將タ輕罪事件ナルトハ之ヲ區別スルノ要ナシ
- 事實裁判所カ事實發見ノ爲メ證據調ノ必要ヲ認ムルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得而シテ其證據決定ハ形式上之ヲ法廷ニ於テ言渡シ又ハ書面ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達告知スルコトヲ要セス
- 裁判所カ一旦審理ヲ終結シタル後其再開ノ必要ヲ認ムルトキハ職權ヲ以テ何時ニテモ之ヲ再開シ得ルモノトス而シテ其再開ヲ爲スニ付テハ別ニ形式上決定ヲ言渡スヘキ旨ノ法規アルコトナシ
- 被告事件ノ審理ヲ密行シ傍聽ヲ禁止スルハ例外ノ手續ニ屬スルヲ以テ傍聽禁止ノ必要アルトキハ公判開廷毎ニ其言渡ヲ爲スコトヲ要ス
- 證據調ノ申請ハ公廷ニ於テ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ故ニ公判開廷前書面ヲ以テ證人ノ喚問ヲ申請スルモノ之ニ對シ決定ヲ與フルノ要ナキモノトス

三元	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
九三二	七二四	二一六〇	二一六〇	二二六	二三五

〔第七十六條〕

- 司法官試補ニシテ檢事代理トナリ地方裁判所ノ公判ニ立會ヒタトルキハ其公判ハ正當ナル檢事ノ干與ナキモノナレハ裁判所ノ構成ニ瑕疵アルモノトス從テ其公廷ニ於ケル證人ノ供述ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供スルヲ得ス

〔第七十七條〕

- 公訴ニ附帶スル私訴ノ審判ハ公判ノ一部ナリ從テ其之ヲ審判スルニ當リ檢事ノ立會ナキトキハ其公判ハ判決裁判所ヲ構成セサル不法アリ
- 被告人ノ身體ヲ拘束シテ審理シタル裁判ハ不法ナリ

公廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束スルハ法律ノ許ササル所ナリ而シテ如此背法ナル審理ニ基ケル被告人ノ供述ハ法律上證據力ヲ有セス

- 罰金ニ該ルヘキ輕罪事件ニ付テハ公判始末書ニ被告ノ身體ニ拘束ヲ受ケタルコトナキ旨ノ記載ヲ要スヘキモノニ非ス
- 被告ニシテ保釋中ノ者ナルトキハ公判始末書ニ特別ノ記載ナキ以上ハ公判廷ニ於テモ拘束ヲ受ケサリシモノナルコト明カナリトス
- 一通ノ公判始末書ノ冒頭ニ被告人身體ノ拘束ヲ受クルコトナク出廷シ

二元	三元	三元	三元	三元	二元
四	六	二	二	三	三
七二	八一	二〇	二〇	五四	八

タル旨ノ記載アル以上ハ縱令開廷ハ數回ニ涉ルトキト雖モ其記載ハ全體ニ通スルモノトス

○公廷ニ設備セル箱ハ公廷取締ノ爲メ被告人ニ一定ノ席ヲ與ヘタルモノナリトス從テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルモノニ非ス

〔第七十八條〕

○刑事訴訟法第七十八條ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付キ何時ニテモ被告人ヲ勾引スルノ職權ヲ公判裁判所ニ認許シ其行使ニ付テ何等ノ制限ヲ設クルコトナシ故ニ裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ被告人ヲ勾引スルノ必要アルヤ否ヤヲ判斷シ其意見ニ從ヒテ行動スルノ全權ヲ有ス

〔第七十九條〕

〔第七十九條〕

○公判廷ニ於ケル證人訊問ハ公判審理ノ一部ナリトス從テ被告人及ヒ辯護人ノ申請ヲ容レ延期ヲ聽許シタル爲メ辯護人ノ出廷ナキニ拘ハラシ證人ヲ訊問シタルハ失當タルヲ免レヌ
○辯護人トシテ出廷シ被告ノ爲メニ辯論ヲ爲スニ當リ被告ヨリ何等ノ異議ヲ主張セサリシ場合ニ在テハ其届出ナキ場合ト雖モ被告ハ其辯護人ノ立會ヲ承諾シタルモノト認ム

三五	二〇	三六
三五	二二	二三〇
三五	二四	一三四
三五	二五	二五六
三七	二六	

○被告人闕席シタリトテ辯護人ヲ以テ辯護スルノ權利ヲモ拋棄シタルモノニ非ス從テ苟クモ辯護人ヲ選定シタル以上ハ辯護人ヲ呼出サスシテ審理ヲ爲スヲ得ス

○辯護人ノ選任ハ裁判長ノ職權ヲ以テスル場合ノ外被告人ノ意思ニ任スルモノトス從テ被告人ノ意思ニ拘ハラシ辯護人ノ單獨意思ヲ以テ辯護ヲ爲スコトヲ得ス

○刑事訴訟法第七十九條第一項ノ「辯論」ナル語ハ被告ニ對スル事實ノ審問證據調事實並ニ法律ニ關スル辯論等公判ノ審理中ニ爲ス訴訟手續ノミヲ包含スル狹義ノ辯論ヲ意味ス從テ公判審理後ニ爲ス判決言渡ハ其中ニ包含セサルモノトス

○辯護ノ委任ニ付テハ別ニ一定ノ形式ヲ要スヘキ規定ナケレハ苟クモ辯護人及ヒ被告ノ間ニ其合意存在スル以上ハ有效ニ委任ト受任トノ關係ヲ生シタルモノトス

〔第七十九條ノ二〕

〔第七十九條ノ二〕

○辯護人選定届ニ被告人ノ捺印ナキモノハ適式ノ辯護届ニ非ス
○官選辯護人ニシテ疾病其他ノ事故ニ依リ出廷スルコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ辯護士ニ代理ヲ委任スルコトヲ得而シテ其代理ヲ聽許スル

三五	二〇	三九
三六	八三五	
三六	一九七	
三九	六八九	
三二	二二	二二六

ト否トハ裁判長ノ職權ニ屬ス

○判決言渡ニハ辯護人ノ立會ヲ必要トセス從テ辯護人ニ對シ呼出狀ヲ發セシテ判決ヲ言渡スモ不法ニ非ス

〔第八十二條〕

○不當ノ行狀ヲ爲シタルカ爲メ裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタル被告人ト雖モ次ノ開廷日ニハ更ニ出頭セシムヘキモノトス（刑事訴訟法第八十二條第二項）從テ此場合ニ呼出狀ヲ發セサルカ爲メ被告人ノ出頭セサルニモ拘ハラズ判決ヲ言渡シタルハ不法ナリ

〔第八十三條〕

○刑事訴訟法第八十三條第二項後段ニ「但五日間辯論ヲ停止シ（中畧）タルトキハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ」トアルハ其前段「其他ノ疾病ニ罹ルトキハ痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲スヘシ」トアル文詞ヲ受ケタルモノニシテ疾病ニ罹リ五日間辯論ヲ停止シタル場合ノ規定ト解釋スヘキモノトス

（同左旨）

被告人疾病ニ罹リ五日間辯論ヲ停止シタルトキハ刑事訴訟法第八十三條ニ依リ新ニ辯論ヲ爲スヘキモノナレトモ證人訊問ノ爲メ審理ヲ停止シ再ヒ開廷スル場合ニ於テハ辯論ヲ更新ス

三二 六 五

三三 四 三六

三五 四 七〇

三六 九六三

ヘキ規定ナシ

辯論停止後ニ於ケル新辯論開始ノ法則（刑事訴訟法第八十三條第二項）ハ被告人ノ疾病ニ依リ五日間辯論ヲ停止シタル場合ニノミ適用スヘキモノニシテ疾病以外ノ事故ニ依リ辯論ヲ停止シタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○被告人カ公判中原因不詳ノ疾病ノ爲メ眩暈卒倒シタルニ因リ辯論ヲ停止シ爾後五日內ニ次回ノ公判ヲ開キタル場合ニハ刑事訴訟法第八十三條第二項ヲ適用スヘキモノニ非ス

○辯論停止ノ決定ヲ以テ辯論ヲ停止シタル事件ニ付キ更ニ公判ヲ開ク場合ニハ法律上何等ノ手續ノ規定ナケレハ苟クモ停止ノ原因消滅シタル以上ハ裁判所ハ何時ニテモ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シテ其裁判ニ取掛ルコトヲ得

〔第八十四條〕

○檢事ヨリ公訴ノ提起ナキ事件ヲ處斷シタルハ法律ニ背キテ受理スヘカラサルモノヲ受理審判シタル不法ノ裁判ナリ
○沒收處分ハ檢事ノ請求ヲ要スヘキモノニ非ス
○裁判所ニ於テ受理スヘキ被告事件ハ其訴名ニ拘束セラレヘキモノニ非ス
○檢事ハ文書偽造行使ノ訴名ヲ附シテ公訴ヲ提起シタルモ其事件中ニ

二七 一 三

二九 一 七

三九 一四六

四〇 九五

二六 二 五五
二七 二五五

文書偽造行使及ヒ詐欺取財ノ罪ヲ構成スヘキ事實アリト認定シタル場合ニ於テ其二罪ニ付キ相當ノ判決ヲ爲スハ事實裁判所ノ職權ニシテ固ヨリ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ下シタルモノト云フヘカラス

(同三三)

詐欺取財ノ罪アリトシテ公訴ノ起リタルトキ物件ヲ騙取シタルト認ムルモ證書ヲ騙取シタルト認ムルモ均シク是レ一事件中ノ事實ニ過キササルヲ以テ之ヲ認ムルハ事實裁判官ノ職權ニ屬ス則チ之ニ對シ公訴以外ニ渉ル不法ノ判決ナリト云フヲ得ス

○公判ニ於テ附帶ノ犯罪ヲ發見シタルトキハ直ニ審理判決スルヲ得ルモノニシテ其之ヲ審理スルニ付キ豫審ノ必要アル場合ノ外殊特ノ手續ヲ要スルモノニ非ス

○公判判事ハ附帶ノ犯罪ニ付キ訴ヲ受ケサルモ裁判ヲナスコトヲ得

○骨牌税法違犯事件ニ付キ稅務署長ノ告發ニ基キ裁判所カ審理ヲ爲シタル結果稅務署長カ違犯事件ニ付キ適用シタル法條ト裁判所カ同事件ニ付キ適用シタル法條トヲ異ニスルモ其事實ニシテ同一ナルトキハ之ヲ以テ告發以外ノ事實ニ對シ判決シタルモノト云フヲ得ス

○甲乙共謀シテ強盜傷人ノ罪ヲ犯シ尙ホ甲者ハ同一ノ場所ニ於テ直ニ竊盜ヲ爲シタルトキハ其竊盜罪ハ附帶ノ犯罪ナルヲ以テ裁判所ハ之ニ對

二六

二七

三二
三三
一

三六
三五八

シ起訴ナキニ拘ハラズ裁判ヲ爲スコトヲ得

三七

一八七

○官吏ノ職務ニ對シ數日ニ渉ル新聞ノ記事ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタル場合ト雖モ前後繼續セル意思ニ出ツルトキハ單一罪ヲ構成スルモノトス從テ最初ノ記事ニ對シ起訴アリタルトキハ裁判所ハ其後ノ記事ニ付テモ亦當然審判スルコトヲ得

三七

一七七

○豫審ニ繫屬シ未タ終結決定ヲ經サル被告事件ハ縱令公判判事ニ於テ附帶犯ナリト認ムルモ之ヲ處分スルノ權ナシ

三七

二四〇六

○一罪ニ對シテハ一ノ起訴アルノミヲ以テ足り之ヲ構成スル各箇ノ所爲ニ付キ各別ニ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス從テ檢事カ一ノ犯罪ヲ構成スル或所爲ノミヲ指摘シテ起訴ノ手續ヲ爲シタル場合ト雖モ裁判所ハ總テノ所爲ニ對シテ審理判決ヲ爲シ得ヘキモノトス

三六

三九三

(同三三)

檢事カ一罪中ノ一部ヲ指摘シテ起訴ノ手續ヲ爲シタル場合ト雖モ裁判所ノ審理ハ其犯罪ノ全部ヲ目的トシ該犯罪ヲ構成スル總テノ所爲ニ對シテ判決ヲ與フヘキモノトス從テ裁判所ノ審理判決カ檢事ノ指摘以外ノ所爲ニ渉ルモ其所爲ニシテ苟クモ實質上起訴ニ係ル犯罪ノ一部ヲ成ス以上ハ請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタル不法アリト云フヲ得ス

三六

三五三

○裁判所カ訴ヲ受ケサル事件ヲ審判スルハ不法ナリ
 ○第二審判決ノ認メタル事實ト起訴事實トノ間多少其範圍ニ廣狹アルモ
 同一ノ犯罪ニ關シ事實ノ認定ヲ同ウセサルニ止マルトキハ之ヲ以テ公
 訴ノ提起ナキ事實ヲ判決シタルモノト云フヲ得ス

〔第八十六條〕

○起訴ナキ事件ハ公訴不受理ノ判決ヲ爲スヲ以テ足レリトス其時効ニ權
 リタルヤ否ヲ審究スルヲ要セス
 ○公訴不受理ノ判決ハ公訴權ヲ消滅セシムルモノニ非ス
 ○公訴受理スヘカラスト裁判セラレタルトキハ其事件ニ附帶セル私訴ハ
 當然成立スヘキモノニ非ス
 ○豫審終結決定ノ確定シタルニ拘ラス其決定書ノ原本ニ瑕瑾アルヲ理由
 トシテ公訴不受理ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ
 ○公訴提起後ニ至リ法律ノ效力ニ變動アリタル爲メ新舊法ヲ比照シテ判
 決スル場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲナスコトアルモ公訴不受理ノ言渡ヲ
 ナスコトナシ
 ○官吏侮辱罪トシテ起訴セラレタル事件ニ對シ其事實ハ誹毀罪ヲ構成ス
 ヘキモノニシテ被害者ノ告訴ナキヲ理由トシ公訴不受理ノ申立ヲ爲シ

三九	二八六
四〇	二五七
二六	二二
二六	一九七
三〇	三
三二	八三
三二	四五

タルトキハ其公訴事實ハ官吏侮辱罪ナルヤ將タ誹毀罪ナルヤヲ審理シ
 右申立ニ判決ヲ下スヘキモノトス

○管轄違ニ因リ公判手續無効ニ屬スト雖モ其公判ニ於テ供述シタル證人
 ノ證言ハ證據力ヲ有ス(第七十六條一九年三卷五四頁參照)

○公訴不受理ノ申立アリタル場合ニ於テハ事件ノ本案ハ勿論俱ニ發セシ
 他ノ犯罪ニ付テモ其取調前直チニ判決ヲ爲スヘキモノトス

○公訴受理スヘカラサルノ言渡ハ本案ノ判決ナリ從テ第一審裁判所ニ於
 テ其言渡ヲ爲シタルトキハ未タ事實ノ審理ナシト雖モ法律ニ特別ノ規
 定アルニ非サレハ再ヒ同一事件ニ付キ判決ヲ爲サシムヘカラス而シテ
 刑事訴訟法第二百六十二條第二項ハ此場合ニ適用スヘキ法則ニ非ス
 ○既ニ公訴ノ提起アリタル事件ニ對シ更ニ公訴ヲ提起シタルトキハ公訴
 不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

○公訴不受理ノ申立ハ本案判決前ノ一ノ抗辯ニ外ナラス從テ本案ノ判決
 ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ナリト雖モ公訴提
 起前ニ發生シタル事由ニ基キ公訴不受理ノ申立アリタルトキハ裁判所
 ハ其事實ヲ審理シ相當ノ判決ヲ爲スヘキモノトス

○第一審裁判所カ豫審終結決定ニ因リ正當ニ公訴ヲ受理シタル以上ハ檢

三三	四	一
三三	五	四二
三三	六	二七
三三	一〇	五
三三	二	三
三四	二	三二

事カ其決定ヲ執行スル手續トシテ作リタル公判開廷請求書ニ不適法ノ點アリトスルモ公訴不受理ノ判決ヲ爲スヘキモノニ非ス

三六

四三三

○曩ニ強盜傷人事件トシテ起訴アリタル事件ニ對シ更ニ謀殺未遂及ヒ竊盜事件トシテ起訴セラレタル場合ニ於テ其事實ニシテ全ク同一ナルトキハ裁判所ハ公訴不受理ノ判決ヲ爲スヘキモノトス

三六

九九四

○公訴不受理ノ申立ハ一ノ判決ヲ求ムルモノナルヲ以テ苟クモ其申立書カ原院ニ提出セラレ居ル以上ハ公廷ニ於テ其申立ヲ爲シタルト否トニ拘ハラズ之ニ對シ審理判決ヲ爲ササルヘカラス從テ其申立ヲ看過シ直ニ本案ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリ

三六

一七三

○公訴不受理ノ申立ハ各審級ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナレハ縱令第一審ニ於テ其申立ヲ爲シタルモ控訴審ニ至リ更ニ之ヲ申立テサル以上ハ裁判所ハ此點ニ付キ判示スルノ責ナシ

三七

一八〇

○檢事又ハ被告人ニ於テ本案ノ判決前公訴不受理ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ判決ヲ以テ其當否ヲ判斷セサルヘカラス

三七

二四一

○辯護人カ辯論ノ進行中被告人ノ爲メニ公訴不受理ノ申立ヲ爲シタルトキハ被告人ノ申立トシテ其效力ヲ生スルモノトス

三七

二四二

○辯護人カ公廷ニ於テ起訴ハ不適法ナリトノ意見ヲ陳述シタルニ止マリ

特ニ其點ニ付テ公訴不受理ノ判決ヲ受クヘキ申立ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ起訴ノ當否ニ付キ殊ニ判決ヲ與フルノ責ナシ
○裁判所ニ於テ管轄違ヲ認ムルトキハ其裁判權ハ之ト同時ニ止息シ公訴不受理ノ判決ト雖モ之ヲ爲シ得サルモノトス
○公訴ノ目的タル所爲カ刑法上ノ犯罪ヲ構成セスシテ單ニ商法違反行爲ニ該當スルモ之ヲ以テ公訴不受理ノ理由ト爲スコトヲ得ス

『第八十七條』

○管轄違ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シ本案ノ判決ヲ待タス直ニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得トハ直近上級ノ裁判所ニ上訴スルヲ得ルノ謂ニシテ第一審ヨリ直ニ上告スルヲ得ルノ謂ニ非ス

二四

二

六五

○刑事訴訟法第八十七條ノ「直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得」トアルハ第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘク第二審ノ判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシトノ律意ニシテ第一審ノ判決ニ對シテ控訴又ハ上告ノ二者ノ選擇ヲ任ストノ謂ニ非ス

三七

四

三三九

○公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決ハ本案前ノ判決ナリ
○刑事訴訟法第八十七條ノ規定ニ從ヒ本案ノ辯論ヲ停止スルハ管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決ニ對シ控訴又ハ上告ヲ爲シタ

三七

三

三

ル場合ニ限ルモノトス

○刑事訴訟法第八十七條ハ管轄違ノ申立ヲ却下スルニハ必スシモ本案判決前之ヲ爲スヘシトノ律意ニ非ス從テ本案判決前ニ却下ノ言渡ヲ爲スト本案判決ト同時ニ之ヲ爲ストハ裁判所ノ職權ニ專屬ス

(同三三)

刑事訴訟法第八十七條ハ公訴不受理ノ申立ヲ却下スルニハ必スシモ本案判決前之ヲ爲スヘシトノ法意ニ非ス從テ被告カ其申立後本案事實ノ申立ヲ爲シ又ハ辯論ノ最終ニ其申立ヲ爲シタルトキハ本案判決ト同時ニ却下ノ言渡ヲ爲スモ不法ニ非ス

○裁判所ニ於テ公訴不受理ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ事件ノ模様ニ依リ進ンテ本案ノ審理ヲ爲シ又ハ訴訟進捗ノ利益ノ爲メ先ツ申立却下ノ判決ヲ爲シ得ルモノトス從テ本案ノ判決ト同時ニ却下ノ判決ヲ言渡スモ不法ニ非ス

(第九十條)

『第九十條』

○同一ノ被告ニ對スル相牽聯スル二箇ノ事件ニ付キ第一ノ事件ニ對シ證人トシテ爲シタル供述ハ直チニ第二ノ事件ニ對シ證言ト爲スコトヲ得

(第九十條)

『第九十條』

○公判廷ニ於ケル證人ノ陳述ハ單ニ公判始末書ニ記載スルニ止マリ豫審

ニ關スル法則(刑事訴訟法第二百一十一條)ヲ履踐シ別ニ調書ヲ作成スルヲ要セス

(同三三)

公判廷ニ於テ訊問スル證人ノ供述ハ公判始末書ニ記載スヘキモノニシテ別ニ調書ヲ作成スヘキモノニ非ス從テ之ヲ讀聞カスヘキ必要アルコトナシ而シテ刑事訴訟法第九十條ハ證人ニ關スル豫審ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタルモノニシテ其規定ヲ適用スヘキコトヲ命ジタルモノニ非ス

公判廷ニ於テ訊問スル證人ノ供述ニ付テハ別ニ調書ヲ作成スルヲ要セス
公判廷ニ於ケル證人ノ訊問ハ直ニ其供述ヲ採用スヘキモノニシテ其供述ハ單ニ公判始末書ニ記載スルニ止マリ別ニ調書ヲ作成スルヲ要セス

○公判開廷ニ先タチ證人訊問ノ囑託ヲ爲シタルハ不法ナリ

○豫審判事カ既ニ或事件ニ付キ證人ト被告人トノ身分關係ヲ問查シタル以上ハ之ト併合審理セル他ノ事件ニ付キ更ニ問查ヲ爲スノ要ナシ

○公判裁判所ハ鑑定ヲ他ノ裁判所ニ囑託スルコトヲ得ス

(第九十一條)

『第九十一條』

○事實裁判所カ證人訊問ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所自ラ該證人ヲ訊問スルト若クハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ之ヲ訊問セシムルトハ其職權ヲ以テ定メ得ヘキ便宜ノ處分ニ屬ス從テ被告人ハ其當否ヲ論

三三 四 三

三七 五三

三四 五 五

三六 八〇

三四 三 四七

三〇 二 三

二九 二九 四 五一

三〇 一 二八

三九 一三七 一四六

(第九十二條)

争シテ上告ノ理由トスルヲ得ス

『第九十二條』

○刑事訴訟法第九十二條ハ檢事被告人及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出スヘキ證人ニ關スル手續ヲ定メタルモノニシテ證人喚問ニ關スル裁判所ノ職權ヲ制限シタルモノニ非ス

○刑事訴訟法第九十二條ハ公判開廷前ニ於テ證人喚問ノ決定ヲ爲シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ開廷中檢事ノ請求ニ依リ喚問ノ決定ヲ爲シ直ニ其取調ヲ爲ス場合ニ適用ヘキモノニ非ス

○證人ノ氏名目錄ヲ開廷一日前相手方ニ送達(刑事訴訟法第九十二條)スルハ反證準備ノ爲メタルニ過キス而シテ相手方ニ於テ必要アラハ證人ヲ訊問スルニ際シ之ニ對シ異議ヲ唱フルコトヲ得ヘキヲ以テ該氏名目錄ノ送達ナシト雖モ既ニ爲シタル證人訊問ハ有效ナリ

(第九十三條)

『第九十三條』

○證人呼出ノ手續ニ違法ノ措置アリトスルモ其證人出廷ノ上陳述ヲ爲スニ付キ異議ナキトキハ之ヲ取調フルモ違法ニ非ス且又刑事訴訟法第九十二條ニ從ヒ證人ノ氏名目錄ヲ相手方ニ送達スルコトナクシテ證人ヲ取調フルモ其相手方ニ於テ異議ナキトキハ其取調ハ有效ナリ

三九 二八六

三九 四

三三 五

三五 二〇二

三六 八九七

○刑事訴訟法第九十三條ハ一ノ訓示の規定ニ過キサレハ縱令同條ノ手續ニ違背スルモ其證人ノ供述ハ尙ホ斷罪ノ資料タル效力ヲ失フコトナシ

(同五三)

證人ハ互ニ言語ヲ接スヘカラス又供述前辯論ニ立會フヘカラス云云ノ法則(刑事訴訟法第九十三條)ハ一ノ訓示法ナルヲ以テ同條ノ規定ニ違背スルモ其證人ノ陳述ハ無効トスヘキモノニ非ス

三六 九〇六

三四 一 二六

(第九十四條)

『第九十四條』

○陪席判事裁判長ニ告ケテ被告人ヲ訊問スル法則(刑事訴訟法第九十四條第二項)ハ專ラ審理上ノ秩序ヲ保維スル主趣ニ出テタルモノナルヲ以テ告ケスシテ被告人ヲ訊問スルモ裁判長之ヲ默許シタルトキハ其訊問ハ不法ニ非ス

○訴訟關係人ハ辯論ニ必要ナル事項ヲ分明ナラシムル爲メ證人ノ訊問ヲ裁判長ニ求ムルコトヲ得ヘシ然レトモ其必要ナリヤ否ヤヲ判別シテ許否ヲ決定スルハ裁判長ノ職權ニ屬ス

(第九十五條)

『第九十五條』

○裁判所カ不實ノ供述ヲ爲シタル證人又ハ鑑定人ヲ取押ヘ勾引狀ヲ發シ

三〇 九 一二五

三二 二 五四

豫審判事ニ送致シタル場合(刑事訴訟法第九十五條)ニハ別ニ檢事ノ起訴アルヲ要セス豫審判事ハ直チニ豫審處分ヲ爲シ得ヘキモノトス

(同三三)

證人又ハ鑑定人ニシテ故意ヲ以テ不實ノ供述ヲ爲シタルトキハ裁判所ニ於テ豫審判事ニ送致スヘキモノニシテ別ニ檢事ヨリ起訴ノ手續ヲ爲スヲ要セス從テ豫審判事ハ直ニ豫審處分ヲ爲スコトヲ得

證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ者ト思料シ之ヲ取押ヘテ勾引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致シタルトキハ直チニ公訴ノ提起アリタルモノニシテ別ニ檢事ノ起訴ヲ要スルモノニ非ス

○公判裁判所ニ於テ發覺シタル偽證ニ付テハ公訴ノ提起ヲ要セス裁判所カ檢事ノ請求ニ因リ合議ノ上被告ニ對シ合狀ヲ發シ豫審判事ニ送致スヘキ旨ノ決定ヲ爲シタルトキハ公訴ノ提起アリタルト同一ノ位地ニ在ルモノニシテ送致ハ決定ノ執行ニ過キス且此場合ニ送致書ヲ作成スヘキ規定ナキヲ以テ其送致書ニ不適式ノ點アルモノ之ヲ受理シ豫審ヲ爲シタルハ違法ニ非ス

○送致書ニハ裁判長一名ノ署名捺印アルノミナルモ公判始末書ニ裁判長ハ合議ノ上證人ノ供述ハ不實ニシテ故意ニ出テタルモノト思料スルヲ以テ檢事ノ請求ニ依リ勾引狀ヲ發付シ豫審判事ニ送致スルノ決定ヲ言

三三 一〇 七四

二八 三 二〇〇

三三 六 三三

三五 二 二元

渡シタル旨ノ記載アル以上ハ公判裁判所カ該事件ヲ送致シタルコト明カナルヲ以テ其送致ハ有效ナリトス

○公判裁判所ニ於テ證人ニ偽證罪アリト思料シ事件ヲ豫審判事ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲シ公廷ニ於テ宣言シタル以上ハ之ト同時ニ公訴ノ提起アリタルト同一ノ效果ヲ發生ス而シテ其送致ハ決定ノ實行ニ過キサレハ必スシモ直接ニ裁判所ノ名義ヲ以テスルノ要ナシ

○公判裁判所カ公判ニ於テ現ニ偽證ノ事實ヲ認知シタル以上ハ被嫌疑者ノ在廷スルト否トニ拘ハラス有效ニ公訴提起ノ職權ヲ行使スルコトヲ得

(同三三)

刑事訴訟法第九十五條ノ特別手續ハ偽證又ハ偽鑑定アリタル訟廷ニ限り之ヲ行フコトヲ得ルモノナルモ虛偽ノ供述ヲ爲シタル者カ其訟廷ヲ退去シタルト否トハ同條ニ依リ裁判所ニ付與シタル權能ニ消長ヲ來スコトナシ

○公判ニ於ケル裁判所書記カ刑事訴訟法第九十五條第二項ニ從ヒ證人ノ供述録取書ヲ豫審判事ニ送致スルニハ必スシモ其直接ノ送達アルヲ要セス而シテ公判書記ニ於テ之ヲ檢事局ニ送致シ檢事局ヨリ豫審判事ニ送致スルハ一般ノ慣行手續ナリ

三六 一六五

三七 五六七

三九 九一四

三五 二 一一六

三四 五 七九

〔第九十七條〕

○公判廷ニ於テ證人訊問ノ際刑事訴訟法第九十七條ニ依リ被告人ヲ退廷セシムルニハ裁判所ノ決定ヲ要スルモノトス然レトモ公判始末書ニ其決定ヲ爲シタル記載ナキノ故ヲ以テ決定ヲ爲ササリシモノト云フヲ得ス

○裁判所カ刑事訴訟法第九十七條第二項ノ規定ニ違反シ退廷セル共同被告人ニ相被告ノ供述事項ヲ告知セサルハ不法ナレトモ公判始末書其モノハ之レカ爲メ全然無効ニ歸スヘキモノニアラスシテ唯タ其退廷中相被告カ爲シタル供述ノ部分ノミ共同被告人ニ對シテ無効ナルニ過キス

〔第九十八條〕

○縱令被告ニ於テ異議ナカリシトスルモ公廷ニ顯出セサル書類即チ原院自ラ審査セサル所ノ物ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法タルヲ免レ

○事實並ニ證據ノ取調ヲ爲スニ當リ已ニ審理シタル事項ニ付キ其取調結了ノ後檢事ノ附帶控訴アルモ更ニ被告人ヲ訊問シ證據調ヲ爲スヲ要セス

三五	六	一
二九	一	八
二七	四	七
三	五	七

○被告人及ヒ其辯護人ハ裁判所ノ許シタル範圍内ニ於テノミ反證ヲ提出スルコトヲ得ルモノトス

○參考人喚問ノ申請ヲナシタルニ決定ヲ與ヘサルモ反證提出ノ告知ニ對シ申立ルコトナキ旨ヲ言明シタル以上ハ喚問ノ申請ハ自ラ之ヲ拋棄シタルモノト認ム

○被告人ハ利益ノ爲メ反證ヲ提出スルコトヲ得ヘシト雖モ之ヲ制限シ之ヲ許否スルハ裁判官ノ職權ニ屬ス

○被告ノ利益トナルヘキ證據ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知スルノ法則(刑事訴訟法第九十八條)ハ被告ノ辯護權ヲ全カラシムルノ旨趣ニ外ナラス從テ告知以前ニ於テ被告人自ラ利益ノ證據ヲ提出シタル以上ハ更ニ之ヲ告知スルノ必要ナシ

(同主旨)

反證提出ノ告知ヲ爲ササルモ現ニ反證ヲ提出シテ辯護ヲ爲シタルトキハ上告ノ理由ト爲スニ足ラス

○證據取寄許可ノ決定ヲ爲シタル後裁判所ニ於テ更ニ其必要ナシトシ其決定ヲ取消シ公判ヲ終了スルハ不法ニ非ス

○證據調ノ申請ニ對シ之ヲ聽許スル旨ノ決定ヲ爲シタル後同一ノ申請ニ

三	五	二
三	四	六
三	二	七
三	八	二

對シ再ヒ同一ノ決定ヲ爲スモ其結果ハ同一ニ歸スルヲ以テ違法ニ非ス
 ○第一審公判ニ於テ證人ノ證言ニ對シ被告ニ意見ヲ問ハサリシモ第二審
 公判ニ於テ其證言ヲ朗讀シ被告ニ辯解ヲ爲サシメタルトキハ之ヲ採テ
 罪證ニ供スルモ不法ニ非ス

○取調終リタル毎ニ云云(刑事訴訟法第九十八條)ノ法則ハ訓示的ノ規
 定ニ過キス從テ既ニ朗讀シタル證憑書類ノ數個ニ付キ一時ニ被告ノ意
 見ヲ問フモ違法ニ非ス

(同主旨)

證人參考人等ノ陳述ニ對シ逐一被告人ノ意見ヲ聽クヲ要セス

○刑事訴訟法第九十八條ハ公判ノ辯論ニ付キテ遵守スヘキ審理手續ヲ
 規定シタルモノトス而シテ受命判事ノ證人參考人ノ訊問ハ公判ノ證據
 調ニ非サルヲ以テ其供述ニ付キ被告人ノ意見ヲ徵シ辯解ヲ爲サシムル
 ノ要ナシ

○事實裁判所ニ於ケル證據調ニ關スル違法ハ其證據調ヲ無効ナラシムル
 ニ止マリ訴訟手續ノ全部ヲ無効ナラシムヘキ重要ナル訴訟手續ノ違背
 ヲ構成スルコトナシ從テ第一審裁判所ノ爲シタル證據調ニ違法ノ點ア
 ルモ訴訟手續ノ違背ヲ理由トシテ其判決ヲ取消スコトヲ得ス

三四	九
三四	二
三四	二
二六	三
二六	八九
三五	七
三五	六二
三六	四八七

○被告事件ニ於テ爭トナリタル法律上ノ問題ヲ解決スル爲メニ依據スヘ
 キ資料ニ付テハ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ手續ヲ踐
 行スヘキモノニ非ス

○證人訊問ノ終リタル後被告ニ意見ノ有無ヲ問查シタル以上ハ刑事訴訟
 法第九十八條ノ手續ハ完全ニ踐行セラレタルモノトス而シテ其問查
 ノ當時證人ノ在廷シタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○訴訟記録トハ訴訟ニ關スル一切ノ記録ヲ包含スルモノニシテ必スシモ
 法律ノ規定ニ從ヒ作成シタルモノニ限ルニ非ス

○被告人カ利益ノ證據ヲ提出シ得ル旨ノ告知ハ證據調中一回之ヲ爲スヲ
 以テ足ル從テ各箇ノ證據ニ付キ各別ニ之ヲ告知スルノ要ナシ

○裁判所カ各證憑ノ取調終リタル毎ニ反證提出ノ告知ヲ爲シ證據調全ク
 終了シタル以上ハ爾後被告人ニ於テ相被告ニ不利ナル事實關係ヲ陳述
 スルモ更ニ相被告ニ對シテ反證提出ノ告知ヲ爲ササルヘカラサルモノ
 ニ非ス

○裁判所カ辯護人ノ申請ニ因リ民事記録ノ取寄ヲ許可スル決定ヲ爲シ該
 記録ヲ取寄セタルモノ之ヲ公判廷ニ顯出シテ取調ヲ爲ササルトキハ證據
 調ノ手續ニ於テ失當ヲ免レサルモノトス

三七	一六一
三七	三三七
三六	二
三六	三二六
四〇	三〇五
四〇	五四八

- 沒收スヘキ物件ハ證據物件ト異ナリ或ハ記録ニ依リテ其存在ノ確定セ
ルモノアリ或ハ法廷ニ提出スルコトヲ得サルモノアリ從テ必スシモ法
廷ニ於テ逐一之ヲ被告人ニ示スノ要ナシ
- 證據物件ヲ總括シテ被告人ニ示シ其辯解ヲ徵スルハ不法ニ非ス
- 押收ニ係ル證據書類ノ全部ヲ證據トシテ採用シナカラ單ニ一部ノミヲ
示シテ辯解ヲ徵シタルニ止マリ全部ニ及ハサルハ證據調ノ法則ヲ適用
セサル不法アリ
- 刑事訴訟法第九十八條第二項ノ規定ハ被告人ニ對シ不利益ナル證據
ハ之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムヘキ旨趣ナリトス從テ利益ノ證據ハ
之ヲ被告人ニ示シテ辯解セシムルノ必要ナシ
- 被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシメサル證據ヲ採テ斷罪ノ料ニ供シタル判
決ハ不法ナリ
- 被告人ニ示シ又ハ讀聞ケテ辯解ヲ爲サシメサル回答書ヲ罪證ニ供シタ
ル裁判ハ不法ナリ
- 鑑定書ヲ朗讀スルト被告人ニ示ストハ其鑑定書ノ如何ニ因ルモノトス
從テ筆跡ニ關スル場合ニ於テ朗讀ヲ爲サスシテ之ヲ被告人ニ示シタル
ハ相當ナリ

三五	三四	三四	三三	三〇	三〇	三〇
四	二	二	八	六	四	二
三七	一九	五	一六	二	四〇	六

- 偽造ノ告訴狀及ヒ告發狀ハ證據物件ナリトス從テ證據調ヲ爲スニ當リ
テハ被告人ニ之ヲ示スヲ當然トス
- 被告人ニ示シテ辯解ヲ求メサル證據ヲ採リテ斷罪ノ資料ト爲シタル判
決ハ不法ナリ
- 公廷ニ於ケル證人ノ供述ニ對シテハ其事件ノ共同被告人ヲシテ辯解ヲ
爲サシムヘキハ當然ナリ
- 圖畫筆蹟若クハ印影等ノ如キ朗讀シ得ヘカラサルモノ又ハ朗讀スルモ
證據ノ旨趣ヲ了解シ得ヘカラサルモノハ之ヲ被告人ニ示スヲ以テ適當
ノ方法トス

(同五七)

鑑定書ヲ被告人ニ示シ他ニ尙ホ反證アラハ提出シ得ル旨ヲ告知シタルトキハ特ニ意見ヲ促サ
サルモ違法ニ非ス

- 證據金品目錄ハ人ノ供述又ハ意見ヲ記載シタル調書ト異ナリ單ニ手續
上金圓若クハ物品ノ存否ヲ表示セルモノニ過キサレハ證據調ヲ行フ場
合ニハ之ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシムルヲ以テ足レリトス

(同五八)

被告事件ニ關シ又ハ其事件ニ牽聯シタル被告事件ニ關シ作成セラレタル文書ハ凡テ證據書類

三五	三五	三九	三九	三六	三五
五	四				五
八	三七	一九七	四一五	八五六	三八九

ナリ犯罪證明ノ具トシテ押收セラレ若クハ領置セラレタルモノハ文書タルト物品タルトナ間
ハス凡テ證憑物件ナリ而シテ證憑物件ハ其文書タル場合ト雖モ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシ
ムルノ外朗讀ノ要ナキモノトス

○證據物タル證書ハ之ヲ被告人ニ示シ辯解セシムルヲ以テ足り特ニ之ヲ朗讀スルノ要ナシ
ナルトス從テ該記録ハ之ヲ被告人ニ示シ辯解セシムルヲ以テ足り特ニ之ヲ朗讀スルノ要ナシ
○證據物タル證書ハ之ヲ被告人ニ示シ辯解セシムルヲ以テ足り特ニ之ヲ朗讀スルノ要ナシ
ナルトス從テ該記録ハ之ヲ被告人ニ示シ辯解セシムルヲ以テ足り特ニ之ヲ朗讀スルノ要ナシ

〔第九十九條〕

○辯護人選定ノ爲メ延期ヲ申請スルハ公判手續ノ異議ト云フヲ得ス從テ
檢事ノ意見ヲ聽カスシテ決定ヲ與フルモ不法ニ非ス

○刑事訴訟法第九十九條ニ所謂辯論トハ同法第二百四條第一項及ヒ第
二百二十條第三項ノ辯論ト同一義ニシテ事實ノ審問證據ノ取調並ニ事
實及ヒ法律適用ニ關スル當事者ノ辯論等公判ノ審理ニ關スル訴訟手續
ヲ指稱セルモノトス從テ該手續終了ノ後ニ申立テラレタル公判手續ノ
異議ニ付テハ裁判ヲ與フルノ要ナシ

〔第二百條〕

○共犯ヨリ生シタル損害ハ職權ヲ以テ連帶ノ賠償ヲ命スルコトヲ得ス
○數項目ニ分チタル請求金額ノ合計ニ付テ一分ヲ至當ト爲シタルトキハ

三五	一八
三九	三〇
三九	六八
二六	一三
二四	二〇
三六	二七

其項目ヲ指定スヘシ他ノ部分ニ對シテモ項目ヲ指示シテ當否ヲ判決ス
ルコトヲ要ス

○名譽ノ毀損アリタルトキハ即チ既ニ損害ノ生シタルモノトス故ニ之ニ
對シ名譽回復ノ爲メ新聞紙廣告料ヲ請求スルトキハ廣告ノ當否ヲ判決
シ若シ之ヲ相當ナリトスルトキハ廣告費用ノ金額定マラサルトキト雖
モ賠償ノ義務アルコトヲ言渡ササルヘカラス之ヲ後日ノ支拂即チ未來
ノ損害ト云フテ斥クルコトヲ得ス

○私訴ノ判決ヲ爲スニ法條ヲ適用スヘシトノ規定ナキニ因リ之ヲ適用セ
サルハ相當ナリ

○私訴判決ニ付テハ採用シタル證據ノ内容ヲ判文ニ明示スルヲ要セス
○私訴ノ審判ニ付テハ民事訴訟法ニ則ルヲ要セス從テ相手方ニ於テ申立
サル證據ト雖モ之ヲ採用シテ判決ノ資料ニ供スルコトヲ得

○被告事件ノ公訴判決ニ關係ナク且其判決ヲ受ケタルモノニ非サル私訴
ノ被告人ニ對シ公訴判決ノ事實證據ニ依リ明確ナリト説明シ其事實證
據ヲ明示セスシテ判決シタル私訴ノ裁判ハ不法ナリ

○公訴ニ附帶シテ裁判所ニ繫屬シタル私訴ハ上級裁判所ニ於テ公訴判決
ヲ取消シ若クハ破毀シタルカ爲メニ其繫屬ヲ離ルヘキモノニ非ス從テ

二四	一七
二五	二六
二六	二七
三三	二七
三五	二八
三六	二八

裁判所ハ公訴判決ノ破毀セラレタル場合ト雖モ其移送ヲ受ケタル裁判所ノ判決ヲ待ツコトナク私訴ニ對シテ審判ヲ爲ササルヘカラス
○民事原告人カ犯罪行爲ヲ原因トシテ提起シタル私訴請求ニ付テハ民法ノ規定ニ依リ其當否ヲ判定スヘキモノトス從テ公訴判決ノ確定シタル場合ト雖モ其理由ニ拘束セララルヘキモノニ非ス

(同主旨)

民事原告人ノ私訴ヲ裁判スルニ當リテハ民法ノ法則ニ遵據スヘキモノニシテ公訴判決ノ理由ニ拘束セララルヘキモノニ非ス

○私訴判決ニ於テ公訴判決ノ證據理由ヲ援用スルハ不法ニ非ス

(同主旨)

公訴ノ審理ニ際シ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ規定ニ從ヒ既ニ證據調ノ手續ヲ踐ミタルモノハ私訴ノ審理ニ付キ別ニ證據調ヲ爲ササルモ之ヲ私訴判決ノ證據ト爲シ得ヘキモノトス

○損害ノ有無及ヒ其程度ハ被害者ニ就キ之ヲ觀察セサルヘカラス從テ被害者數人アル場合ニハ單ニ損害ノ全額ヲ判定スルモ未タ以テ各人ノ損害ヲ回復セシムルノ效ナキモノトス

○公訴ノ確定裁判ノ理由ハ私訴ノ裁判ヲ羈束スヘキ旨ノ規定ナケレハ私訴判決ノ理由カ豫審終結決定又ハ公訴判決ノ理由ト相容レサル所アル

モ之カ爲メニ其判決ヲ目シテ不法ナリト云フヲ得ス

○裁判所ハ公訴ノ訴訟手續ニ依リ集取シタル材料ヲ以テ私訴ノ當否ヲ判斷シ得ヘキモノトス從テ私訴ノ判決ニ公訴判決ノ理由ヲ引用スルハ違法ニ非ス

(同主旨)

公訴ニ附帶セル私訴ナレハ其判決ノ理由ニ公訴判決ノ理由ヲ援引スルモ違法ニ非ス
公訴私訴ハ相牽聯スヘキモノナルヲ以テ私訴判決ノ理由ヲ署記シテ公訴判決ニ讓ルモ違法ニ非ス

○商標主カ商標侵害ノ犯罪ヲ原因ト爲シ損害賠償ノ私訴ヲ提起シタル場合ニ裁判所カ被告ニ商標公報ノ公示ヲ知ラサル過失アリトシ損害ノ賠償ヲ命スルモ之ヲ以テ請求ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス

○公訴判決ノ認メタル犯罪事實カ私訴請求ノ原因タル以上ハ其事實ニ付テハ唯公訴判決ヲ援用スルノミヲ以テ足り私訴判決ニ於テ特ニ之ヲ確定スルノ要ナシ

○私訴ノ判決ニ必要ナル事實カ公訴判決ニ於テ既ニ確定セラレタル場合ニハ裁判所ハ原告人ノ立證ヲ竣タス其公訴事實ヲ以テ私訴判決ノ基本ト爲スコトヲ得

三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

〔第二百一〕

〔第二百一條〕

- 訴訟費用負擔ノ言渡ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ特ニ法律ノ理由ヲ明示スルノ要ナシ
- 有罪ノ判決ヲ爲シタルトキハ控訴ノ理由アリタルト否トニ拘ハラズ訴訟費用ハ其全部ヲ負擔セシム
- 證人ノ旅費日當ハ其證言ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルト否トニ拘ハラズ有罪ノ判決ヲ受ケタル被告人ヲシテ裁判費用トシテ全部若クハ幾分ヲ負擔セシム
- 共犯人公判前ニ死亡シ公訴消滅シタルトキハ公訴裁判費用ハ生存者ニ於テ其全部ヲ負擔スヘキモノトス
- 裁判所自ラ爲シタル手續ノ不法ヨリ生シタル費用ハ之ヲ相手方ニ負擔セシムルコトヲ得ス
- 被告人數名アル場合ニ於テ公訴裁判費用ニ關シ其負擔ノ割合ヲ定ムルハ事實承審官ノ職權ニ屬ス
- 第二審判決ノ一部ヲ破毀スル場合ニハ單ニ割合ヲ以テ分擔ヲ命シタル訴訟費用ハ大審院ニ於テ之ヲ分割スルコトヲ得ス
- 證人タル資格ナキ者ニ對シ證人トシテ宣誓ヲ爲サシムルモ其供述ハ罪

二六	二六	二九	二九	三〇	三三
二	二	一〇	一〇	八	五
二四	二四	一	一	一〇	八四

證ニ供スルコトヲ得ス然レトモ其者ノ旅費日當ハ有罪ノ判決ヲ受ケタル被告人ヲシテ全部若クハ幾分ノ負擔ヲ爲サシム

○ 共犯事件ノ訴訟費用ヲ以テ共犯者中ノ一名ニ全部ノ負擔ヲ命スルモ不法ナリトセス

〔同法〕

茲ニ甲乙ノ被告人アリ甲ハ有罪ニ決シ乙ハ無罪ニ決ス此場合ノ公訴費用ハ總テ甲ノ事件ニ對シ生シタルモノナレハ甲ニ於テ其全部ヲ負擔セサルヘカラス決シテ其一半ヲ國庫ニ於テ負擔スヘキモノニ非ス

○ 訴訟費用額ハ判決執行ニ至リ訴訟記録ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得從テ判決ニ於テ其額ヲ明示スルノ要ナシ

〔同法〕

公訴裁判費用ノ負擔ヲ言渡ニハ其金額ヲ明示スルノ必要ナシ

○ 訴訟費用ノ幾部ヲ負擔セシムヘキ旨ノ言渡ナキ以上ハ其負擔ハ全部ナリトス

○ 控訴セサル相被告ハ一審判決確定ト共ニ該判決ニ基キ當然一審ニ於テ生シタル裁判費用ヲ負擔ス故ニ二審判決カ一審ノ相被告ニ對シ裁判費用ノ負擔ヲ定メサルモ控訴被告ニ何等利害ヲ生スルコトナシ從テ控訴

三三	三三	三三	三七	三四	三一
一一	一一	一一	四	四	九
一五	一五	一五	四七二	二九	四七

判決ニ於テ控訴被告ニ對シ公訴裁判費用全部ノ負擔ヲ言渡スモ不法ニ非ス

三四 一〇 四二

○重キ前發ノ罪ニ付キ既ニ刑ノ言渡ヲ受ケ居ルカ爲メ後發ノ餘罪ヲ論セサルニ過キサルトキハ刑事訴訟法第二百一條ニ所謂被告人有罪トナリタル場合ニ該當ス從テ公訴裁判費用負擔ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

三五 一 三六

○相被告ニ對スル件名ヲ併記シタル呼出狀ニ依リ召喚シタル證人ノ費用ト雖モ其證人ノ審問ニシテ相被告ノ事件ニ關係ナカリシトキハ其費用ハ審問ヲ必要トセシ事件ノ被告ノミニ於テ負擔スヘキモノトス

三五 五 一五二

○相被告ト連帶負擔セシムヘキ裁判費用ナルモ相被告ニ其半額ノ負擔ヲ命シタル第一審判決ノ確定シタル場合ニ於テ他ノ被告ニ對シ他ノ半額ノ單獨負擔ヲ命シタル第二審判決ハ相當ナリ

三五 六 三三

○被告事件ノ一部分ニ對シ無罪ヲ言渡シタル場合ト雖モ有罪ヲ言渡シタル他ノ一部分ト共ニ一事件トシテ取調ヲ爲シタルモノナルトキハ被告人ヲシテ其裁判費用ノ全部ヲ負擔セシムルモ違法ニ非ス

三七 一三二

(同(三頁))

證據調ノ結果被告事件ノ一部無罪トナルモ其證據調ニシテ有罪トナリシ部分ニモ關係ナ有スル場合ニ於テハ被告人ニ其費用ノ全部ヲ負擔セシムルト一部ヲ負擔セシムルトハ事實承審官ノ職權ニ屬ス

三三 四 六

被告事件カ一部無罪トナリ一部ハ有罪トナリタル場合ニ於テ訴訟費用ノ全部ヲ被告人ニ負擔セシムルト其一部ヲ負擔セシムルトハ裁判所カ事情ニ從ヒテ定メ得ヘキ所ナリトス

三七 一〇六

○私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノニ非ス〔同一判例二八年二卷一〇三頁〕

二九 三 二二

○公訴ノ被告人トシテ呼出ヲ受ケ裁判所ニ出頭スヘキ地位ニ在ル者ハ自ラ往復旅費ヲ支辨セサルヘカラス從テ其被告人ニ對シ私訴ヲ提起シタル者ハ縱令敗訴スルモ往復旅費ヲ賠償スルノ責ナシ

三七 二四五

○裁判所カ私訴ニ付キ特ニ審問ヲ開始セル場合ニ於テ當事者在廷シタルトキハ敗訴者ハ勝訴者ニ對シ毎回ノ出廷ニ付キ私訴事件ニ要セシ日當トシテ法定ノ金額ヲ支拂フノ義務ヲ負フモノトス而シテ其審問ハ公訴ノ審理ニ引續キテ之ヲ開キタルヤ若クハ更ニ期日ヲ定メテ之ヲ開キタルヤハ問フ所ニ非ス

三七 二四五

○被告人カ民事原告人ニ對シ期日ニ出廷シタルコトヲ主張シ之ヲ基礎トシテ賠償ノ請求ヲ爲ストキハ證據法ノ原則ニ從ヒ先ツ其事實ヲ疏明セサルヘカラス從テ裁判所ハ其事實上ノ主張ヲ眞實ト認ムヘキ憑據ナケレハ原告人ニ不利ナル事實ヲ認定シ得サルモノトス

三七 二四五

○第二審ニ於テ第一審ノ判決作成ノ方式ニ缺點アリト爲シ之ヲ取消シタル場合ト雖モ其取消カ民事原告人ノ過失ニ基因セルモノニ非サルトキハ私訴ニ關スル費用ハ敗訴ノ被告ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス

○裁判所カ刑法附則ノ規定ニ依リ證人ニ支給スヘキ旅費日當額ヲ定メ實際之ヲ支給シタル以上ハ被告ニ對シ其費用ノ負擔ヲ命スルコトヲ得而シテ其支給費額ヲ定メタル手續若クハ之ヲ受領シタル手續ノ如キハ必スシモ記録ニ於テ之ヲ明確ニスルノ要ナシ

第二百一

第二百一

○物件還付ノ言渡ハ必スシモ本案ノ判決ト同時ナルヲ要セス

(同三)

沒收ニ係ラサル物品ノ處分ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ公訴ノ裁判ト同時ニ言渡ス限ニ在ラス且其所有者ハ何時ニテモ還付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

沒收ニ係ラサル物件ハ何時ニテモ本人ヨリ還付ノ請求ヲ爲シ得ルモノニ付キ本案ト共ニ還付ノ言渡ヲ爲ササルモ違法ニ非ス而シテ還付ノ言渡ハ法條ヲ適用セサルモ上告ノ理由トナラス

差押物件ヲ還付スルノ言渡ハ刑罰ニ非サルヲ以テ刑名宣告ト共ニ之ヲ爲ササルモ違法ニ非ス

○沒收又ハ還付ノ言渡ハ現存セサル物件ニ對シ爲スヘキモノニ非ス

○還付品ノ言渡ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ特ニ法條ヲ明示スルヲ要セス

○刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者ニハ正當ノ占有者ヲモ包含ス

三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
三〇一	三〇一	三〇一	三〇一	三〇一	三〇一	三〇一	三〇一	三〇一	三〇一
六五五	六五五	六五五	六五五	六五五	六五五	六五五	六五五	六五五	六五五

○凡拾得シタル物件ハ所有者ノ不詳ナル場合ニアリテモ仍ホ且所有者ニ還付スルノ言渡ヲナスモ不法ニ非ス

○假下ハ假ノ下付ニシテ保管ヲ命シタルモノナリ

○刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者トハ物件ノ所有者ノミナラス其差出人ヲモ指シタルモノトス

○手形ノ裏書ノ一部カ騙取ニ係ル場合ト雖モ手形其物ハ不可分のモノナルヲ以テ一通ノ手形ヲ分割シテ各自ニ還付スルカ如キハ執行上到底不能ノ事ナリトス從テ手形ノ裏書ノ部分ハ甲ニ其他ノ部分ハ乙ニ還付スト言渡シタル判決ハ不法タルヲ免レス

○沒收スル物件ノ存在ト其沒收スヘキ事由トカ審理上明白ナル場合ニ在テハ縱令其物件ハ公廷ニ現ハレサルモノ之ニ對シ沒收ノ言渡ヲ爲スヲ妨ケス

○刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者トハ汎ク押收物件ノ所持者ヲ指稱スルモノニシテ眞ノ所有者ノミニ限定シタル法意ニ非ス從テ沒收ニ係ラサル押收品ニ付キ差出人ニ還付スト判決シタルハ相當ナリ

○刑事裁判所カ被告ハ行政裁判所ノ判決ニ因リ山林ノ給付ヲ受ケタル事實ヲ認メ乍ラ該判決ヲ無視シ贓物犯人ノ手ニ存スルモノトシテ直ニ其

二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一五二	一五二	一五二	一五二	一五二	一五二	一五二	一五二	一五二	一五二

還給ヲ命シタルハ不法ナリ

○司法警察官カ被告ノ手裡ニ存在セル贓物ヲ押收シ假ニ之ヲ被害者ニ下付シタルトキハ裁判所ハ刑法第四十八條ノ規定ヲ適用シ現在ノ贓品トシテ假下ノ儘被害者ニ還付スル旨ヲ言渡ササルヘカラス從テ此場合ニ刑事訴訟法第二百二條ヲ適用シタルハ違法ナリ

(反對)

沒收ニ係ラサル押收品アルトキハ裁判所ハ刑事訴訟法第二百二條ニ從ヒ還付ノ言渡ヲ爲スヘク司法警察官ノ爲シタル假還付處分ノ有無ニ拘ハルヘキモノニ非ス

○裁判所カ被告事件ニ關シ押收物件ナキニ拘ハラス還付ノ言渡ヲ爲シタル場合ト雖モ被告ノ利害ニ何等ノ關係ナケレハ被告ハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

○第一審裁判所カ甲乙二名ノ共同被告ニ對シ甲者關席ノ儘有罪ノ判決ヲ下シ同時ニ押收品ヲ還付スルノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ乙者上訴セサルトキハ押收品還付ノ裁判ハ同人ニ關シテ確定スルモノトス從テ甲者ニ對スル第一審ノ對席判決及ヒ第二審判決ニ於テハ更ニ還付ノ裁判ヲ掲クルノ要ナシ

○犯罪ノ用ニ供セラレタル物件ニシテ被告人ノ所有ニ係ルモノト雖モ被

害者ニ於テ留置權ヲ有スル以上ハ該物件ハ之ヲ被害者ニ還付スヘキモノトス

○事實裁判所カ被告事件ノ證據物トシテ領置シタル民事訴訟記録ハ之ヲ

押收ノ證據書類若クハ物件ト稱スルモ不當ニ非ス

○人ヲ恐喝シテ金圓ノ贈與ヲ受ケタル者カ其占有中之ヲ押收セラレタル場合ト雖モ被害者ニ於テ贈與ノ意思表示ヲ取消ササル以上ハ該金圓ハ差出人タル被告ニ還付スヘキモノトス

○刑事訴訟法第二百二條ニ所謂所有者トハ所有權者及ヒ占有者ヲ指示セルモノトス從テ發信人受取人等不明ナル郵便物信書等ノ押收品ニ付キ之ヲ所有者ニ還付スト判決シタルハ相當ナリ

○人ヲ誣告スルノ方法トシテ檢事局ニ提出セル告發狀ハ犯罪供用ノ物件ニ非サルノミナラス同局ニ於テ之ヲ受理スルト同時ニ官ノ所有ニ歸スルモノトス從テ該書面ハ之ヲ檢事局ニ還付スヘキモノニシテ沒收スヘキモノニ非ス

(第二百三條)

『第二百三條』

○財産脱漏ノ爲メニ債權者ノ蒙ムルヘキ損害アルコトヲ示シタル以上ハ其額ノ多少ヲ問フコトヲ要セス

二四

四〇

四〇

三元

三元

三元

一

一〇八六

一〇一

一三六九

二九九

二六二

三元

三元

三元

三元

三元

一一三

七一九

六五五

五二〇

二五九

- 判文ニ唯證據物件ト記シテ其物件ノ何タルヲ明示セサルモノハ違法ナリ
- 尋問ノ事實ト認定ノ事實ト符合セサルモ不法ニ非ス
- 刑ヲ適用スルニ法律ノ理由ヲ付スヘキハ勿論ナレトモ刑法ノ總則ニ至テハ一一之ヲ明示スルヲ要セス
- 法律上事實ノ理由ヲ付スヘキ規定アルハ犯罪構成上必要ノ點ニ止マリ不必要ノ點ニ對シテハ之ヲ付セサルモ違法ニ非ス
- 贓物牙保ノ罪ハ其賣主買主雙方ノ間ニ介立シテ賣買ヲ遂ケシムルニ因テ成立スルモノナレハ牙保罪ノ成立ニ付テハ果シテ其賣買ヲ遂ケタルコトヲ明示セサルヘカラス
- 誹毀罪ニハ必ス特定ノ被害者ナカルヘカラサルヲ以テ特ニ指定シタルモノナキニ拘ハラズ之ヲ誰某ナリトセンニハ必ス其理由ヲ付セサルヘカラス
- 沒收ノ法條ヲ舉示セスシテ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シタルハ不法タルヲ免レス
- 判決文理由ノ部ニ「再犯ニ係ルニ付キ各本刑ニ一等ヲ加ヘ」云云トノミ記シ適用スヘキ法條ヲ示ササルニ於テハ何等ノ理由ニ依リテ再犯ニ一

二四	一	九六
二四	一	九六
二四	二	九六
二四	二	九六
二五	一	九六
二六	一	九六
二六	二	九六

- 等ノ重キヲ加フルカノ理由明カナラス乃チ刑事訴訟法第二百三條第一項ノ規定ニ背キ理由ヲ明示セサル不法ノ判決ナリ
- 被告ニ前發罪アル場合ニ於テハ刑法第二百條ヲ適用シテ處分セサルヘカラス然ルニ之ヲ不問ニ措キ判文ニ其理由ヲ示ササルハ不法ノ裁判ナリ
- 凡テ誹毀罪ノ構成ハ故意アルヲ要ス故ニ新聞紙ノ發行人或ハ印刷人ニシテ其編輯人ト共ニ新聞紙上ニ人ヲ誹毀シタル者ト爲スニハ其編輯人ト共謀ニ出テタルヤ奈何ヲ審究明示セサルヘカラス則チ判文上之ヲ明示セサルモノハ理由不備ノ裁判ナリ
- 偽證罪ハ偽證シタル本事件罪ノ種類如何ニ依テ輕重ノ別アルモノナレハ判文ニ於テ其重罪輕罪若クハ違警罪中何レノ罪ニ屬スルヤヲ明示セサルヘカラス然ルニ偽證罪ニ對シ漫然刑法第二百十八條第二項ヲ適用シタルハ理由不備ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノトス
- 新聞紙記者カ縣知事ノ職務ニ對シ刊行ノ文書ヲ以テ之ヲ侮辱シタルモ發行人編輯人ニ在テハ必ス常ニ其新聞紙掲載ノ文詞ヲ了知スル者ナリト謂フヘカラス故ニ彼等共謀ノ上此文書ヲ新聞紙上ニ掲載シテ侮辱ノ意思アリタルコトヲ明示セサル裁判ハ事實理由ノ不備タルヲ免レス

二六	二	一三五
二六	二	一三〇
二七	一	一
二七	一	一
二七	一	一
二七	一	一
二七	一	一
二七	一	一

○二罪俱發ノ場合ニ於テ其二罪ニ付キ各法律ヲ適用シ其重キ一罪ノミニ付キ刑期ヲ明示シアレハ他ノ一罪ニ對シ刑期ヲ明示セサルトテ被告ノ利害ニ關係ナク又之ヲ明示スヘシトノ法規ナケレハ之ヲ以テ違法ノ裁判ト云フヲ得ス

○司法警察官ノ作リタリ檢證調書ヲ斷罪ノ資料ニ供スルニ付テハ決シテ本件ノ現行犯ナルコト並ニ其當時ニ在テ作成シタルモノナルコト等ヲ判決ニ明示スルヲ要セス

○餘罪ハ刑期ヲ判示スルノ必要ナシ從テ其減等ノ程度ヲ示ササルモ違法ニ非ス

○一村又ハ一部落ノ共有ニ係ル山林ノ如キハ其村落人民ノ協議ニ依ルニ非サレハ村民一己ノ資格ヲ以テ之ヲ伐採シ得ヘカラサルハ勿論ナリ故ニ原院カ被告ハ自分部落ノ共有ニ係ル山林中ノ杉ヲ伐採シタルノ事實ヲ認メ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ相當ニシテ事實ノ理由ヲ付セサルモノト云フヲ得ス

○原判文ニ明治二十四年上半年期ヨリ同二十六年下半年期ニ至ル間ニ在テ云云ト記シ犯罪ノ月日ヲ明示セサリキ然ルニ檢事ノ公訴ヲ提起シタルハ明治二十七年二月十三日ナルヲ以テ其明治二十四年上半年期トアル中ノ

二七

二五四

二七

二六九

二七

三六四

二六

六〇

所爲ハ公訴ノ時効ヲ得タルモノアルヤ否ヤヲ知ルニ由ナク隨テ原判決ノ當否ヲ鑑査スルコトヲ得ス要スルニ犯罪ノ月日ヲ明示セサルハ事實ノ理由ヲ付セサル違法ノ判決タルヲ免レス

○判決理由中ニ犯罪ノ事實ノミヲ記載シ其所爲ノ如何ナル法條ニ該當スルモノナルヤヲ示サスシテ刑ヲ言渡シタルハ裁判ニ理由ヲ付セサル不法アリ

○原判文ニ新聞紙ノ記事ノ惡意ニ出テタルコトヲ明記セサルモ其記事ニ特ニ注意點ヲ附シ官吏執務ノ體面ヲ毀損スルノ文詞ヲ掲載シテ侮辱シタルモノナルコトヲ説示シタルハ被告ノ惡意ニ出テタルヲ示シタルモノナルコト文詞上自ラ明カナリ而シテ被告兩名カ共謀ノ有無ニ付テハ判文前段ニ各自各別ノ犯意アリタルモノト爲シタル文詞ナク其末段ニ被告兩名ハ云云侮辱シタルモノナリト説示シタルハ兩名合意共同ノ行爲タルコトヲ示シタルモノナレハ之ヲ原院ハ「被告兩名共謀ノ上侮辱ノ意ヲ以テ本件記事ヲ掲載シタルモノナルヤ否ヤヲ審理説明セス」ト云フヲ得ス

○辯護士ハ金圓騙取ノ場所及ヒ時日ヲ明示セサルハ理由ヲ欠キタル違法ナリト論告スレトモ原判文中ニ「某ノ年月日ニ某ノ裁判所ニ某ノ訴訟

二六

三六

二六

二六〇

二六

六六

ヲ起シ云云某ノ年月日ニ某ノ判決ヲ受ケ某ノ年月日ニ云云二圓七十七錢ヲ騙取シタル者ナリトアルニ由リ騙取ノ場所及ヒ其時日ハ自ラ明白ナルヲ以テ本案犯罪ニ付テノ場所及ヒ時日ニ關スル理由ハ更ニ之ヲ詳記スルノ要ナシ

○訴訟費用額ハ判決執行ニ至リ定ムルコトヲ得ヘキモノナレハ判決ニ於テ其額ヲ明示セサルモ不法ナリト云フヘカラス

○犯罪ノ日時ノ明示ヲ欠キ再犯ナルヤ否ヤヲ知ル能ハサルトキハ理由ノ不備ナリトス

○詐欺取財罪ノ判決ニハ其目的タル物件ヲ明示スルヲ以テ足レリトス

○詐欺取財ノ未遂犯ヲ斷スルニ當リ特ニ刑法第三百九十七條ヲ援用セサルモ不法ニ非ス

○盜賊故買罪ハ其盜犯者及ヒ被害者ノ身分ニ依リ刑ニ輕重ヲ生セス從テ其氏名ヲ判文ニ表示スルノ要ナシ

○委託金費消罪ニハ犯罪ノ場所及ヒ日時ヲ明示スルヲ要セス

○私印私書偽造罪ハ使用行使ニ依リテ成立ス其結局ノ目的ヲ明示スルト否トハ判決ノ適否ニ關係ナシ從テ其明示ナキヲ理由トシテ一審判決ヲ取消スノ必要ヲ見ス

元	元	元	元	元	元	元	元
二	一	一	一	一	一	一	一
六	一五	一四	一六	一六	一三	一三	一三

○監守盜ハ犯罪ノ手段外面ニ現出スルモノニ非ス從テ其手段ヲ明示セサル判決ハ不法ニ非ス

○實行ノ日時場所方法ヲ詳記スル上ハ共謀ノ日時場所方法ヲ省畧スルモ理由不備ノ判決ニ非ス

○贓品數點アルトキハ悉ク品名ヲ明示スルヲ要セス單ニ品數ヲ明示スルヲ以テ足レリトス

○刑法第二百八條第二項ヲ適用シアル上ハ同第一項ヲ適用セサルモ不法ニ非ス

○贓金分配ノ多寡及其方法ハ詐欺取財ノ犯罪ヲ構成スル條件ニ非ス從テ之ヲ明示セサルモ違法ノ判決ニ非ス

○裁判ノ理由トハ判決主文ノ因テ生スル理由ニシテ證據取捨ニ就テノ理由ニ非ス

○代價ノ多少ハ盜賊故買罪ヲ成立スルノ要素ニ非ス從テ其代價ヲ明示セサル判決ハ不法ニ非ス

○數人共犯ノ事實ヲ認メ刑法ノ各正條ヲ適用シタル上ハ特ニ同法第四百四條ノ總則ヲ適用スルヲ要セス

○事實ノ理由ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル物件タルコトヲ認定セスシテ法

元	元	元	元	元	元	元	元
三	二	二	二	二	二	二	二
五	二〇	一八	一六	一四	一三	一三	一四

律ノ理由ニ至リ漫然刑法第四十三條第二項ヲ適用シ其物件ヲ沒收シタル判決ハ事實上ノ理由ヲ明示セサル不法ノ裁判ナリ

- 詐欺取財ニ著手シタル事實ノミヲ掲ケ其騙取ノ目的ヲ遂ケサリシ事實ヲ明示セスシテ輒ク刑法第三百九十條及ヒ同法第三百九十七條ノ擬律ヲ爲シタル判決ハ事實上ノ理由ヲ備ヘサル不法ノ裁判ナリ
- 還付ノ言渡ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ特ニ法律ノ正條ヲ明示スルノ必要ナシ
- 等ノ字ニ二義アリ行文列記ヲ總括スル其一ナリ列記以外ヲ包含セシムル其二ナリ

(反對)

證憑列記ノ部ニ等トアルハ其列記ノ證憑ヲ總括シタル謂ニシテ列記以外ノ證憑ヲ包含セス

- 供述ノ幾部トハ裁判上採容シタル供述ノ部分ヲ云フ
- 養嗣子離縁ノ事實アルモ戸籍ニ登録セラルル間ハ法律上離縁ノ效力ナシトス從テ之ヲ以テ離縁ト認定センニハ別ニ相當ノ理由ヲ付スルヲ要ス
- 陳述ノ幾部トハ被告ノ不利益トナル供述ノ部分ヲ指シタルモノトス
- 屋外ノ竊盜罪ハ贓額五圓内外ノ區別ニ依リテ法律ノ適用ヲ異ニス從テ

二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
三	三	四	三	四	三	四	三
九四	一六一	七	一七二	六〇	二九	一六	二九

其價格ヲ明示セサル判決ハ不法ナリ

- 陳供ノ幾部トアレハ證憑ヲ明示シタルモノニシテ特ニ其部分ヲ指定スルヲ要セス
- 死者名義ノ證書偽造ハ其作成ノ日附生存中ニ係ルヲ要ス從テ作成當時ニ於ケル死者生存ノ事實ヲ詳ニセサル判決ハ事實理由ニ不備アル失當ノ裁判ナリ
- 委託物費消費ニ付キ其受託ノ事實ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アルモノトス
- 加減例ノ如キ總則ハ必スシモ之ヲ判決書ニ掲クルヲ要セス
- 債務者ノ供託シタル金員ヲ或期間内債權者ニ預ケ置クヘキ示談ヲ爲シ債權者ニ於テ之ヲ取下ケ保管シタルトキハ該金ノ所有權ハ其授受ト同時ニ債權者ニ歸スヘキモノトス而シテ仍ホ其所有權ノ債務者ニ存スルコトヲ認メンニハ相當ノ理由ヲ付スルヲ要ス
- 偽造證書ノ性質ヲ明示セスシテ輒ク刑法第二百十條第一項ノ適用ヲナシタル判決ハ事實上ノ理由ヲ具備セサル不法ノ裁判ナリ

(同左)

私書偽造罪ヲ斷スルニ當リ其物體タル文書ノ性質ヲ明ニセサル判決ハ裁判ニ理由ヲ附セサル

二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
五	五	一	一	一	一	一	一
七	七	七	八六	八六	八三	四	四

不法アルモノトス

○被告人ヨリ第二審ニ提出シタル論點ハ控訴ノ一理由タルニ止マリ固ヨリ事件ト云フヘキモノニ非ス而シテ其理由ノ當否ハ一判斷ヲ與フルノ必要ナシ從テ之ヲ以テ請求ヲ受ケタル事件ヲ判決セサル不法アリト論スルヲ得ス

(同三三)

控訴ノ旨趣ハ判決書ニ記載スルヲ要セス

- 被告人ニ於テ證書ヲ偽造シタル事實明白ナルトキハ其執筆他人ニ係ルモ當然私書偽造罪ヲ成立ス從テ其筆者ヲ明示セサル裁判ハ不法ニ非ス
- 定量ヲ減シタル樹ヲ使用シテ利ヲ得タル罪ニ付テハ其被害者ノ何人ナルヤヲ明示スルコトヲ要セス又之ニ依テ獲得シタル金錢ノ員數等ハ犯罪ノ構成ニ關係ナキヲ以テ隨テ其事實ヲ判示スルノ必要アルコトナシ
- 盜賊故買罪ハ其贓品ノ性質如何ニ拘ハラス同一ノ制裁ヲ科スヘキモノトス從テ強盜贓ナルヤ竊盜贓ナルヤノ事實ヲ判示スルノ必要ナシ
- 初更トハ十二支ノ戌ノ時ヲ云フ
- 共謀ノ事實ヲ判示シタル以上ハ其手續ニ及フヲ要セス
- 繼續犯ノ時効ハ最終ノ日ヲ以テ起算點トス從テ其日時ヲ判示スルヲ以

二六	三	四〇
二九	五	七
二九	一	二四
二九	五	三
二九	五	五二
二九	五	五
二九	五	六
二九	五	七
二九	六	七
二九	六	七

テ足ル

- 物品ノ假下ハ犯罪事件ニ對スル贓物ノ假處分ナリ而シテ是等ノ事實ハ判文ニ明記スルヲ要セス
- 豫審終結決定以後ニ於テ豫審判事ノ作成シタル調書ハ豫審終結ニ關係アル調書ト見認ムルヲ得ス從テ斷罪ノ資料トシテ表示シタル豫審調書トハ其決定以前ニ係ル部分ヲ指シタルモノトス
- 官吏ノ職務分限ハ法令ノ定ムル所ナリ從テ官吏侮辱罪ヲ斷スルニ當リ特ニ其職責ヲ判示スルノ要ナシ
- 第二審廷ニ於テ第一審判決ノ刑ヨリ重ク處斷スルコトアルモ其第一審ノ刑輕キニ失シタリトノ理由ハ之ヲ明示スルヲ要セス
- 押收目錄ヲ比照シテ證據ノ物體標目ヲ知悉シ得ヘキ場合ニアリテハ符號ヲ代用シテ證據ニ掲クルモノヲ以テ證據ノ明示ヲ缺クモノトスルヲ得ス

(同三三)

沒收ノ刑ヲ宣告スルニ當リ符號ヲ用ヒテ物體ノ明示ヲ缺如スルモ押收目錄ニ依リ之ヲ識別シ得ヘキ場合ニアリテハ之ヲ以テ沒收ノ物體ヲ明示セサルモノトスルヲ得ス

○犯罪ノ手段方法ハ犯罪成立ノ要素ニ非スシテ事實認定ノ理由タルニ過

二九	六	五三
二九	七	五
二九	一〇	四〇
二九	一〇	七九
二九	二	二四
二九	二	二四
二九	二	二四
二九	二	二四
二九	二	二四
二九	二	二四

キス

○被告人ノ第一審判決ニ服從セサル所以ノ理由ハ之ヲ第二審判決ニ表彰スルヲ要セス

○判決理由ハ之ヲ判文ニ表明スルノ要ナシ

○賭具賭錢ヲ沒收スルニ當リ其物體員數ヲ判文ニ明示セサルモ訴訟記録ニ徴シテ知悉シ得ヘキ場合ニアリテハ判決ヲ執行スルニ妨ケナシ

○判決書ニ「被告人ハ禁錮監視ノ刑ニ處セラレタルニ拘ハラス仍ホ改心セス」ト掲ケタルハ前科ヲ示シタル意義ニシテ被告人ノ品行ヲ材料トシテ有罪ヲ推測シタル語辭ニ非ス

○判決書ニ「兩腕ノ幾部及ヒ手指ハ其機能ヲ失フニ至リタルモノナリ」トアルハ兩腕及ヒ手指ヲ廢疾ニ致シタル事實ヲ明示シタルモノトス

○官吏收賄罪ヲ構成スルニハ官吏其職務上ニ關シ囑託ヲ受ケタル事實アルコトヲ必要トス而シテ囑託ヲ受ケタル事實ニシテ其職權内ニ屬スルヤ否ヤノ理由ヲ明示セサル判決ハ不法ナリ

○身分詐稱罪ニ付キ其犯時ヲ明示セサル判決ハ不法ナリ

○移民保護法違反事件ニ付キ移民株式會社ノ社長ヲ處罰スルニ當リ其社長ノ資格ハ業務擔當社員ニ相當スルヤ又ハ取締役ニ相當スルヤ否ノ事

二九
二一
三六

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

實ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ

○裁判官ノ想像ヲ以テ漫ニ事實ヲ認定スルハ法律ノ許容セサル所ナリ

○監守盜事件ニ付キ特ニ其場所ヲ判示セサルトキハ執務ノ場所ニ於テ之ヲ犯シタルモノト認ム

○委託金費消事件ニ付キ特ニ其場所ヲ判示セサルトキハ被告人ノ住所ニ於テ之ヲ犯シタルモノト認ム

○囚徒逃走罪ハ多少ノ時間繼續スルモノトス從テ逃走ノ終リタル日時場所ヲ判示スルヲ以テ足レリトシ逃走ノ始マリタル日時場所ヲ判示スルヲ要セス

○恐喝取財罪ニ付キ恐怖ノ念ヲ生シタル原因ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ

○甲者乙者ノ依頼ニ應シ乙者足部ノ疼痛ヲ治療スルノ祈禱ヲ爲スト稱シ乙者ニ火傷セシメタル場合ニ於テ甲者ノ詐辯ヲ弄シタルニ基因スルモノナルヤ將タ乙者ノ祈禱ヲ迷信シタルニ基因スルモノナルヤ否ヤノ事實關係ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ

○裁判費用負擔ノ言渡ニハ法文ノ明示ヲ必要トセス

(同案四)

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

三〇

四六

三三

三三

三五

四五

五〇

二五

四

三三

三七

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

訴訟費用負擔ノ言渡ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ特ニ法律ノ理由ヲ明示スルノ要ナシ〔同一判例二八年二卷二四頁同年同卷二〇八頁〕

○混成酒税法違犯者ヲ處罰スルニ當リ其製造シタル混成酒ノ種類ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アリ

○登記取消申請ノ訴訟ニ付キ登記ノ無効ナル旨ヲ判示シタル以上ハ契約ノ效力ニ對シ別ニ理由ヲ説明スルノ必要ナシ

○刑事ノ判決ニハ原被雙方ノ主張抗辯及ヒ立證方法ヲ表示スルヲ要セス〔同一判例三二年七卷一頁〕

(同三三頁)

判決書ニ當事者ノ爭點ヲ表彰セサルモ認定上ノ事實理由ヲ説明セハ足ル

○代理人ノ出廷シタルノミニシテ被告人自身ノ出廷シタルコトナキニ拘ハラズ證據明示ノ部ニ「被告カ當公廷ノ供述」ト記載シタル判決ハ現在セサル證據ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アルモノトス

(同三四頁)

事實ノ認定ハ承審官ノ權内ニ屬スルモ存在セサル證據ヲ以テ架空ノ認定ヲ爲スコトヲ得ス被告ノ犯罪再犯已上ナルトキハ何等ノ犯罪ニ依リ何レノ裁判ニ於テ如何ナル刑ニ處セラレタルヤ其事實ヲ明示セサルヘカラス(三二年四卷一一八頁參照) 虛無ノ豫審調書ヲ斷罪ノ證據ニ供シタル裁判ハ不法ナリ

虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル判決ハ不法ナリ

○證據ハ各罪ニ付キ分別シテ之ヲ明示スルヲ必要トセス

(同三五頁)

證據ノ列記ハ總括シテ之ヲ爲セハ足ルモノニシテ各被告人又ハ各事項毎ニ一一之ヲ甄別シテ揭示スヘキ規定ナク又其必要ナシ

數個ノ犯罪ニシテ其年月日場所犯罪ノ性質被告被害者ノ異ナルコトハ判文上明カナレハ隨テ其證據ノ異ナルハ勿論ナレトモ原院ハ之ヲ同時ニ判決シタルカ故ニ其判決ニ供シタル證據ヲ便宜上類ヲ以テ之ヲ掲ケ某ハ其犯罪ノ證據ナリヤ否ハ調書又ハ公判始末書ニ徴シテ知ルヲ得ヘキニ付キ其順序ヲ追フテ表示セサルモ不法ニ非ス

一案件ニシテ數罪アルトキハ各罪ニ付キ其證據ヲ區分スルノ要ナシ 判決ニ採用セシ證據ハ之ヲ列記スルヲ以テ足ル必スシモ分記スルヲ要セス 數人共犯ノ場合ニ於テ各被告人ニ對スル證據ハ之ヲ區別スルノ必要ナク斷罪ノ資料ニ供シタルモノヲ明示スルヲ以テ足ル

○事實承審官ノ認定權ハ當事者ノ主張セシ爭點ニ拘束セララルヘキモノニ非ス從テ爭點以外ニ認定ヲ爲シタル場合ニ在テハ其主張ノ爭點ニ對シ逐一説明スルヲ必要トセス

○毒藥ノ性質及分量等ヲ明示セスシテ毒殺罪ニ問擬シタル判決ハ不法ナリ

○委託物ヲ入質シタル所爲ニ對シ其入質ノ當時返還ノ意思ナカリシコト

二六	三	三	三	三	三	二九
三	六	八	一	九	三	三
三	六	二六	一	七	一	二

二七	二六	二九	三二	三三	三三	二九
三二	三	三	一〇	三	三	三
三一	八六	七	四〇	一	二	八

- ヲ明示セスシテ委託物費消罪ニ問擬シタル判決ハ事實理由ヲ具ヘサル不法ノ裁判ナリ
- 再犯ヲ處斷スル場合ニ於テ初犯ノ刑ヲ受ケタル裁判所ノ名稱ヲ掲記セサルモ不法ニ非ス
- 證據ヲ排斥スル理由ハ之ヲ説明スルヲ必要トセス
- 證據ノ題目ヲ掲記シタルニ止マリ其證據カ犯罪ヲ證明スルニ足ルヘキ理由ヲ明示セサル判決ハ不法ナリ

(同主旨)

證據列記ノ部ニ「某被告事件ノ訴訟記録」トノミ記載シタル判決ハ證據ヲ明示セサル不法アリ
 證據列記ノ部ニ單ニ口頭辯論調書立證トアル部分云云ト掲記シタル判決ハ證據ヲ明示セサル不法アルモノトス
 證據明示ノ部ニ單ニ訴狀ノ謄本調書ノ謄本云云ト掲記シタルニ止マリ此等ノ文書カ犯罪ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ理由ヲ説示セサル判決ハ證據ニ依リ認メタル理由ヲ明示セサル不法アルモノトス

- 證據列記ノ部ニ單ニ豫審調書ト掲記シタルノミニシテ其之ヲ認メタル理由ヲ明示セサル判決ハ不法ナリ
- 鑑定書ニ負傷事實ノ記載アルコトハ自カラ明カナレハ判決書ニ鑑定書

三	三	三	三	三	三	三
九	五	五	三	六	六	四
二〇	一〇〇	九九	四五	三〇	二六	二七

ヲ援用スルヲ以テ足ルモノニシテ鑑定書記載事項ヲ重記スルヲ要スルモノニ非ス

- 刑事訴訟法ニハ被告ノ抗辯及ヒ其抗辯ニ關スル證據ヲ排斥スルノ理由ヲ明示スヘシトノ規定ナシ
- 證人ナルヤ將タ參考人ナルヤハ記錄ニ依テ自ラ明カナレハ之ヲ判文ニ詳記セサルモ不法ニ非ス

(同主旨)

判文ニ證人參考人等ノ名稱ヲ記載セサルモ各自ノ豫審調書ニ徵スレハ其區別分明ナルニ依リ之ヲ判示セサルモ違法ニ非ス
 判決書證據列記ノ部ニ單ニ某某ノ豫審調書トノミ記載シ證人參考人ノ區別ヲ掲ケサルハ證據ノ明示ヲ欠キタル不法ノ判決ニ非ス
 證人參考人ノ資格ハ訴訟記録ニ徵シテ明白ナレハ之ヲ判決文ニ明示セサルモ違法ニ非ス

- 被告ノ自白シタル事項ト豫審調書告訴狀ノ旨趣ニ符合スルトキハ其調書告訴狀ノ記載事項ヲ一摘示セサルモ其記載事項ハ自カラ明瞭ナルヲ以テ證據理由ノ明示ニ欠クル所ナシトス
- 法條掲記ノ位置其當ヲ得サルモ法律ノ適用ヲ誤リタルニ非サル以上ハ破毀ノ原由トナラス
- 犯罪ノ場所ハ之ヲ明示セサルヘカラス然レトモ之ヲ以テ刑事訴訟法第

三	三	二九	二六	二六	三	三	三
九	九	五	二	八	六	六	六
二〇	一	五五	一〇〇	三三	八四	七九	七九

二百三條ニ所謂罪トナルヘキ事實ナリトスルヲ得テ特ニ證據ニ依
リ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルヲ要セス

○主タル控訴ニ付キ第一審判決ノ不當ヲ認メ其理由ヲ明示シタル以上ハ
附帶控訴ニ付テモ理由アルコト自ラ明カナルヲ以テ更ニ其理由アルコ
トヲ説明スルノ必要ナシ

○甲者カ乙者ノ免許ヲ受ケテ調製販賣スル賣藥ヲ調製販賣シタル場合ニ
於テ果シテ乙者ノ許諾ヲ得テ調製シタルモノナルヤ否ヲ説明セサル判
決ハ理由不備ノ不法アリ

○米相場ノ高低ニ依リ勝敗ヲ決スルカ如キハ必スシモ博奕ニ限ルモノニ
非ス從テ米相場ノ高低ニ依リ勝敗ヲ決スル事實ヲ以テ賭博罪ニ問擬ス
ルニハ其手段方法ヲ明示セサルヘカラス

○情ヲ知リテ偽造兌換券ヲ收受シタルコトヲ明示シタル以上ハ特ニ其目
的ヲ説示セサルモ不法ニ非ス

○判決ニ犯罪ノ事實ヲ自白スト掲クルトキハ別ニ自白ノ旨趣ヲ掲ケサル
モ不法ニ非ス

○監守盜罪ノ構成ニハ官吏ニシテ法律上監守ノ職責アルコトヲ必要トス
從テ國稅事務ヲ管掌スル稅務署長ノ地方稅タル戶數割ヲ徵收シテ費消

三	三	三	三	三	三	三
九	一〇	四	四	四	一〇	九
三	六	五	四	五	六	三

シタル所爲ヲ監守盜罪ニ問擬スルニ當リ特ニ監守ノ職責アルコトヲ明
示セサル判決ハ理由不備ノ不法アルモノトス

(同案旨)

村長及收入役カ臨時寄託ヲ受ケタル金員ハ其性質ヲ明カニセスシテ直ニ法律上監守ノ責任ア
リト斷定スルヲ得ス故ニ村長及收入役ノ監守盜罪ヲ斷スルニ當リ其金員ノ法律上監守ノ責任
ヲ有スルヤ否ノ事實ヲ明示セサル判決ハ理由不備ノ不法アルモノトス

町村長又ハ助役ハ郡長ノ許可ヲ經スシテ收入役ヲ兼掌スルヲ得ス而シテ收入役ノ職員ニ際シ
助役ニ於テ收入役ノ事務取扱申金錢ヲ竊取シタル所爲ニ對シ其果シテ適法ノ兼掌ナリシヤ否
ヤノ事實ヲ判示セス輒ク監守盜罪ヲ以テ處斷シタル判決ハ理由不備ノ不法アリ

○過怠破産ノ決定ニ依リ犯罪ノ當時商人タリシコト確定シタル以上ハ該
決定ニ基キ商人ナリトシテ判決スルハ不法ニ非ス

○他人ノ所有ニ屬スル物件ナルコトヲ知テ之ヲ竊取シタルトキハ竊盜罪
ヲ構成ス從テ其所有者ヲ明示スルヲ必要トセス

○年齢ハ罪トナルヘキ事實ニ非ス從テ之ヲ認定シタル證據ヲ明示スルノ
必要ナシ

○刑ノ言渡ニ非サレハ法條ヲ適用セサルモ不法トセス

○他事件ノ鑑定書ト雖モ事實承審官ニ於テ證據ト爲スニ足ルモノト認ム
ルトキハ他事件ノ鑑定書ナルコトヲ明示シテ證據ニ供スルコトヲ得

三	三	三	三	二	二	三
七	一〇	八	七	一	一	七
三	二〇	八	七	一	一	七
四	八	八	一八	五八	九	一六

○明治十三年ノ徴兵ニシテ明治二十八年ニ於テ後備役ニ在ル事由ヲ明示セス輒ク後備兵ノ召集ニ應セサル所爲アリトシテ處罰シタル判決ハ事實理由ヲ明示セサル不法アルモノトス

○誣告教唆ノ所爲ニ對シ教唆罪ニ關スル法條ヲ適用セサル判決ハ法律ノ理由ヲ具備セサル不法アルモノトス

○證據ノ内容ヲ畧記スル場合ニ在リテハ少クトモ判文上如何ナル認定ヲ其證據ニ依リ爲シタルモノナルカヲ明示スルヲ要ス

○事蹟ナシトノ判定ヲ爲スハ其事蹟ノ見ルヘキ證據ナキニ因ル而シテ證據ナシトノ説明ハ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

○數個ノ犯罪行爲カ意思繼續ノ爲メ一罪ト爲ルハ變例ニ屬ス從テ意思繼續ノ事實ヲ認メサルトキハ特ニ判文ニ於テ之ヲ説明スルノ要ナシ

○刑法第三百九十五條ノ費消トハ返還ノ意思ナクシテ費消スルノ意義ナリ從テ刑事ノ判文上委託ノ金錢ヲ費消シタル旨ヲ記載セハ返還ノ意思ナカリシ意義ヲモ包含スルヲ以テ特ニ其意思ナカリシコトヲ表明スルノ要ナシ

○刑ノ言渡ヲ爲スニ當リ證據ニ依リテ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ明示スルハ其事實カ證據ヲ待テ始メテ明カナルヘキ場合トス從テ證據ヲ待タスシテ當然明カナル公知ノ事實又ハ事件ノ關係上毫末ノ疑ヲ存セスシテ審理ヲ經過シタル事項ニ付テハ特ニ其明示ヲ要セス

○議員ニ對スル犯罪ニ付テハ被害者カ議員タル證據ノ説明ヲ要セス

○判文上收賄ノ金員現存ノ事實ヲ認メシテ單ニ追徴ヲ言渡シアル以上ハ被告カ既ニ該金員ヲ費用セシコト自ラ明カナリトス從テ特ニ費用ノ事實ヲ示スノ要ナシ

○證書毀棄罪ハ其證書ノ他人ニ屬スルニ非サレハ構成スヘキモノニ非ス從テ該犯罪ヲ斷スルニ當リ其證書ノ何人ニ屬スルヤヲ説明セサル判決ハ不法ナリ

○刑事訴訟法第二百三條ハ證據ニ依リテ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ明示スヘキモノニシテ其證據タル所以ヲ證據ニ依リテ説明スルノ意義ニ非ス

(參照)

家資分散ノ際藏匿脱漏罪ノ構成ヲ認ムルニハ必ス家資分散ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス然ルニ其言渡ヲ明示セサルトキハ疑律ノ當否ヲ鑑査スルニ由シ無キヲ以テ理由ヲ附セサル裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノトス(刑法三百八十八條三四年九卷一二九頁參照)

○「チーバー」ト稱スル賭博開張ノ所爲アリト判示シ「チーバー」ノ何タル

二五 六 七九

三四 二 九 七九

三四 九 四三

三四 九 一 一

三三	一一	五三
三四	一	二三
三四	三	二六
三四	四	七
三四	六	六〇
三四	六	八一

三四	九	一
三四	九	一
三四	九	四三
三四	二	九
三四	二	七九
三四	二	九

ヤヲ明示セサル判決ハ不法ナリ

○森林竊盜(森林法第三十八條)ニシテ其贓額ヲ確定セサレハ罰金ノ範圍ヲ定ムルコト能ハサル案件ナルニ贓物ノ價格ヲ明示セスシテ罰金ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ

○取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタル者(取引所法第二十五條)トシ之ヲ處罰スルニ當リ如何ナル類似ノ方法ヲ以テ米賣買ノ取引ヲ爲シタルモノナルヤヲ詳示セサル判決ハ不法ナリ

○一審判決ニ誤記アルコトヲ判示スルニ當リ其理由ハ之ヲ明示スルヲ要セス

○合併審理ノ結果同時ニ數事件ヲ判決スル場合ニ其判文ヲ彼此引用シ再掲ノ煩ヲ避クルモノ二者相待テ犯罪ノ事實明確ナルトキハ事實理由ノ明示ヲ欠キタルモノニ非ス

○偽造貨幣行使罪ヲ斷スルニ當リ其貨幣カ果シテ貨幣トシテ人ヲ欺クノ程度ニ偽造セラレタルヤ否ヤハ事實裁判所ノ自由ナル心證判斷ニ委スヘキモノトス而シテ其心證斷罪ノ因テ生スル偽造ノ程度ハ之ヲ判示スルノ要ナシ

三五	三五	三五	三五	三五	三五
四	三	二	二	二	二
四	八九	一四五	一〇八	九五	五

○損害賠償請求ノ私訴ヲ受ケタル被告人カ其賠償ノ金額ニ付キ毫モ之ヲ

爭ヒタル形蹟ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ證據ニ依リテ之ヲ相當ト認メタル理由ヲ説明セサルモノ不當ニ非ス

○器物等ヲ毀壞シタル被告事件ニ付キ何人カ如何ナルモノヲ毀壞シタルカノ事實ヲ説明セスシテ共謀ヲ以テ論斷シタル裁判ハ不法ナリ

○酒造税法第三十一條ハ刑ノ併科ヲ規定シタル法條ナリトス從テ併科スヘキ案件ニ同條ヲ適用セサルトキハ法律ノ明示ヲ欠ク不法アリ

○判文法律適用ノ部ニ第一ニ刑法ヲ適用シ第二ニ戶籍法ヲ適用シ次ニ數罪俱發例及ヒ裁判費用ノ點ニ對シ法律ヲ適用スルニ當リ同法第何條トアリテ文理上戶籍法ヲ承ケタルカ如キモ其前ニ掲ケタル刑法ナル文字ヲ指シタルコト明カナルトキハ判文妥當ヲ欠クモ以テ原判決ヲ破毀スルニ足ラス

○委託物費消罪ハ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親族ナルトキハ其罪ヲ論セサルモノトス(刑法第三百九十八條)從テ被告ハ被害者ノ親族ナルコトヲ認メナカラ如何ナル親等ノ親族ナルカヲ明示セスシテ刑ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ

○寄託ヲ受ケタル箆笥中ヨリ物品ヲ取去リタル所爲ヲ斷スルニ當リ其箆

三五	三五	三五	三五	三五	三五
六	六	五	五	四	四
一六四	一四	一六九	九二	一八六	

筒ニ鎖鑰又ハ封印ヲ施シアリシヤ否ヤヲ判示セサル判決ハ其所爲竊盜罪ナリヤ委託物費消罪ナリヤヲ區別スルヲ得サルヲ以テ理由不備ナリトス

○私印偽造罪ヲ認定スルニ當リ常ニ必スシモ其偽造ノ日時場所方法ヲ判文ニ掲ケテ事實上及ヒ證據上ノ理由ヲ示スノ要ナシ
(同三三)

凡ソ私書偽造行使罪ハ之ヲ行使シテ初メテ其罪成立スルモノナルヲ以テ裁判ニ其行使ノ年月日等ヲ明示スルハ必要ナルモ偽造ノ年月日等ハ必スシモ之ヲ明示スルノ要ナキモノトス
偽造證書ハ行使ニ因テ犯罪ヲ構成スルモノナレハ行使ノ場所日時ヲ明示シタル以上ハ偽造ノ場所日時ヲ詳記スルノ必要ナシ(同一判例二八年一卷九九頁)

○判文ニ「博奕ヲ爲シ居リタル現場ヲ巡查ニ認メラレ且現場ニ在リタル骨牌ヲ押收セラレタルモノナリ」ト掲ケアル以上ハ巡查カ賭博ノ現行犯ヲ認メ現行犯ニ對スル手續ヲ盡シタル事實明カナルヲ以テ現行犯タルノ理由ニ於テ不備アルコトナシ

○殺傷ニ關シテハ刑法第三百九條ノ規定ニ依リ怒ヲ發シタル原由ノ如何ハ宥恕ノ有無ニ關スル重要ナル事實ナリトス從テ特ニ怒ヲ發シタル原由ノ不明ナル旨ヲ判示シ其原由ヲ明示セサル判決ハ理由不備ナリトス
○私訴判決ニ在リテハ必スシモ法律ノ條文ヲ明示スルヲ要セス從テ其責

三五	三五	三五	三五	三五
七	九	六	二	八
五九	九	六	二	五〇
七	二六	七	六	五〇

任ノ有無ニ付キ相當ノ理由ヲ説明スルヲ以テ足ルモノトス

○他人ヨリ委託セラレタル契約證書ヲ横領シ委託物ヲ費消シタリトノ案件ニ於テ判文ニ證書横領ノ事實ノミヲ說示シ其證書ノ内容ヲ明示セサルトキハ該證書カ果シテ其犯罪ノ物體トナリ得ヘキモノナリヤ否ヤヲ確認スルヲ得ス從テ該判決ハ事實理由ニ不備アルモノトス

○他人ノ特許ヲ得タル物品ヲ製造販賣シ特許權ヲ侵害シタル場合ニ於テハ反證ナキ限りハ製造販賣人ニ過失ノ責アリト推定スヘキモノトス從テ其過失ノ責任アリヤ否ヤノ事實ヲ確定スルニ當リ單ニ過失ノ認ムヘキモノナシト判示シ其理由ヲ判示セサル判決ハ理由不備ナリトス

○酒造税法ニ依レハ酒類ノ密造者ハ其造石税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處セラルヘキモノニシテ清酒ノ造石税ハ其酒精分ノ二十度以上ナルト以下ナルトニ依リ其税額ヲ異ニス從テ密造ノ酒精分ニ關スル明確ノ證左ナキ爲メ密造酒ノ酒精分ヲ二十度以下ノモノト認定シタル判決ハ相當ナリ

○詐欺取財ノ事實ヲ認定スルニ當リ既ニ時効ニ罹リタル偽造證書行使ノ事實ヲ認メタルモ其偽造證書行使ノ點ニ對シ法律ヲ適用シタルニ非サル以上ハ不法ニ非ス

三五	三六	三五	三六	三五
九	一〇	九	一〇	九
二〇	一〇	二六	一〇	一六
二〇	一六	二六	一〇	一六

○衆議院議員候補者ノ爲メ投票ヲ得ルノ周旋方ヲ依囑シ運動費トシテ金
錢ヲ供與シタル事實アルモ其金員ニシテ實際運動ノ爲メ要スル費用ヲ
支拂フモノナリトセハ犯罪ヲ構成セス之ニ反シテ運動費ノ名稱ヲ以テ
運動行爲ノ報酬トシテ授受シタルモノトセハ衆議院議員選舉法第八十
七條ニ該當ス從テ此點ヲ説明セスシテ同法條ヲ適用シタル判決ハ理由
不備ナリトス

三六

二二七

○前科ハ刑事訴訟法第二百三條ノ所謂罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ
證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルヲ要セス

三六

三二二

○刑事訴訟法上親告罪ニ付キ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ要スルハ公訴提
起ニ關スル一ノ要件タルニ過キスシテ犯罪構成ニ關スル要件ニ非ス從
テ告訴アリタルヤ否ヤノ事實ハ之ヲ判文ニ掲クルノ要ナシトス

三六

四三九

○第二審裁判所カ豫審調書又ハ第一審公判始末書ノ證人ノ供述ヲ證據ト
シテ援用スル場合ニ於テハ其供述ヲ錄取シタル豫審調書又ハ公判始末
書ヲ證據トスル旨ヲ判示スヘキモノナルモ直接ニ其證人ノ供述ヲ證據
トスル旨ヲ判示スルモ敢テ違法ニ非ス

三六

四五六

○數人共犯ノ場合ニ在テハ其一人ノ行爲ニ對シ證據ヲ舉示スルハ即チ他
ノ共犯者ニ對スル證據ヲ舉示スルモノナリトス從テ他ノ共犯者ニ對シ

特ニ證據ヲ舉示セサルモ不法ニ非ス

三六

六〇三

○財産以外ノ損害賠償ノ數額ヲ考定スルハ専ラ事實承審官ノ職權ニ屬ス
從テ其判決ニハ損害要償ノ原因タル不法行爲ヲ認メ之ヲ認メタル理由
ヲ明示スルヲ以テ足り必スシモ其數額ヲ考定シタル理由ヲ説示スルノ
要ナシトス

三六

七四五

○監守盜罪ノ共犯人ヲ竊盜ノ罪ニ問フニハ監守者カ自己ノ手裡ニ保有セ
サル金品ヲ自己ノ占有ニ移シテ横領シタルノ事實ト共犯人カ其金品横
領ノ所爲ニ干與シタルノ事實トヲ具體的ニ判文ニ明示スルヲ要ス

三六

七五二

○受訴裁判所ハ常ニ必スシモ其訴訟ニ於テ當事者間ニ争トナリタル總テ
ノ點ニ對シテ判斷ヲ爲スノ職責ヲ有スルモノニ非ス從テ其事件ノ判決
ニ必要ナラサル争點ニ對シ一判斷ヲ爲スノ要ナシ

三六

七五九

○私印偽造行使罪ヲ斷スルニ當リ特ニ其印類ヲ調製シテ使用シタルモノ
ナリヤ若クハ既存ノ印類ヲ使用シタルモノナリヤヲ明確ニ判示セサル
判決ハ不法ナリ

三六

九九八

○事實裁判所ハ犯罪事實ヲ確定スルニ當リ常ニ必スシモ直接ニ犯罪事實
ヲ證スヘキ證據ノミニ依リテ事實ヲ確定スルコトヲ要セス從テ證據ニ
依リテ先ツ一ノ事實ヲ確定シ此事實ヨリ推理シテ間接ニ犯罪事實ヲ確

定スルコトヲ得然レトモ其事實カ公知ノ事實ニ非ス又證據ニ依リ之ヲ認メタルニ非サルトキハ裁判所ハ架空ニ事實ヲ確定シタルモノニシテ探證ノ法則ニ違背シタルモノトス

(同三三)

實體上證明ノ效力ナキモノヲ以テ形式上證據トシテ列記スルハ適法ノ處措ニ非ス

○官吏收賄罪ハ官吏カ其職務ノ執行ニ關シ人ノ請託ヲ容レ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル事實アルニ因テ成立ス從テ小學校圖書審査委員ニ選任セララルコトヲ豫想シテ賄賂ヲ授受シタル場合ニ於テ收受者カ該委員ニ選任セラレタル事實ヲ確定セサル判決ハ理由不備ノ不法アルヲ免レス

○府縣尋常師範學校長ニシテ小學校圖書審査委員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノトシ刑法ヲ適用シテ處斷センニハ必スヤ右校長カ審査委員會ノ開設ニ當リ其委員ト爲リタルコトヲ判示セサルヘカラス

○或職務ノ官職又ハ公職ナルヤ否ヤハ事實裁判所ノ認定ヲ竣テ確定スヘキ事實問題ニ非スシテ國ノ行政組織上自ラ定マルヘキ法律上ノ問題ナリトス從テ裁判所カ犯人ノ官公吏タル資格ヲ明示シタル以上ハ如何ナル理由ニ基キテ其職務ヲ官職又ハ公職ト認メタルヤハ之ヲ明示スルノ

必要ナシ

○被告カ警察署ニ不實ノ告訴狀ヲ差出シタル旨判示セル以上ハ特ニ其告訴狀ヲ受理シタル司法警察官ノ何人ナリシヤヲ説明セサルモ理由不備ノ違法アリト謂フヲ得ス

○財産權侵害ノ損害賠償ヲ求ムル私訴ニ對シ判決ヲ下スニ當リテハ損害ノ存在及ヒ賠償義務ノ外其要求セル賠償額ノ當否ヲモ證據ニ依リテ認定シ其證據ヲ掲ケテ理由ヲ明示スヘキモノトス

(同三三)

財産權ニ對スル損害ノ事實ヲ確定スルニハ損害ノ原因タル事實ノミナラス損害ノ數額ヲモ明示セサルヘカラス從テ其數額ヲ認メタル理由ヲ證據ニ因テ說示セサル判決ハ不法ナリ

○人ヲ制縛監禁シタル犯人ニ對シ刑法第三百二十三條ヲ適用スルニハ其制縛監禁ノ不法ナル事實關係ヲ具體的ニ明示スルノミヲ以テ足レリトシ犯人カ其行爲ノ不法ナルコトヲ認識シタル旨ヲ特ニ判示スルノ要ナシ

○衆議院議員選舉法第八十七條第一項第一號ハ選舉ニ關シ金錢物品等ノ供與ヲ受ケタル者カ選舉人又ハ選舉運動者ナル場合ニ限り之ヲ處罰スルモノトス故ニ供與ヲ受ケタル者ノ資格如何ハ犯罪構成ノ一要素ナル

三六

一四九五

三七

五一

三七

一〇五

三六

一五二

三七

一三三

三六

一〇五

三〇

九

一三

三六

一三〇

三六

一四二

ヲ以テ判決ニ其事實ヲ明示セサルヘカラス

○府縣視學官ハ小學校令第二十六條ニ依リ當然圖書審査委員タルヘキ資格ヲ有ス從テ其委員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタル行爲アリトシテ刑法第二百八十四條ヲ適用スルニハ特ニ審査委員ニ任命セラレタル事實ヲ判示セサルモ現ニ委員トシテ審査ノ事務ニ干與シタル旨ノ判示アルヲ以テ足レリトス

○賭博罪ニ付テハ被告カ偶然ノ事ニ依リ勝敗ヲ決スヘキ方法ヲ以テ金錢ヲ賭シタルコト及ヒ賭事ノ現行中犯罪發覺シタル事實關係ヲ判文ニ指摘スルヲ以テ足レリトシ其勝敗ヲ決スル方法如何ノ如キ詳細ナル事實ハ之ヲ掲載スルコトヲ要セス

○第一審判決ニ認定セラレタル事實ハ毫モ相違ナキ旨ノ自白ハ單獨ニテ何等ノ證明力ヲ有スルモノニ非ス故ニ控訴裁判所カ之ヲ證據トシテ事實ヲ認定スルニハ第一審判決ニ認定セラレタル事實ノ何タルヤヲ明示セサルヘカラス

○被告ニ於テ擅ニ受領シタル金錢カ其手裡ニ現存セルコト若クハ他ニ之ヲ支出シタルコトノ確證ナキト被告カ豫審中逃走シ居リタル事トニ因リテ該金錢費消ノ事實ヲ認定シタル判決ハ不法ナリ

三七

一八五

三七

一九六

三七

二二五

三七

二五七

三七

五三四

○戶籍ハ身分上ノ關係ヲ公示スヘキ公簿ナリトス故ニ裁判所ニ於テ之ニ反スル認定ヲ爲スニハ相當ノ理由ヲ明示セサルヘカラス

○數人ノ共毆ニ因ル創傷中最モ重キモノノ爲メ被害者カ疾病休業二十日以上ニ至リタルコトヲ判示セル以上ハ縱令判文ニ掲ケタル數箇ノ創傷中ノ何レカ其重傷ニ該當スルヤヲ說示セサルモ理由不備ノ違法アリト謂フヲ得ス

○宣誓ニ違反シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル證人ニ對シ偽證罪ヲ以テ處斷スルニハ證人カ被告事件ニ關係アル事實ニ付キ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ明示スルヲ以テ足レリトシ其陳述カ被告事件ノ有罪無罪ニ如何ナル關係ヲ有スルヤノ點ハ特ニ之ヲ説明スルコトヲ要セス

○酒精及酒精含有飲料税法第二條ニ依レハ如何ニ低度ナルモ既ニ酒精分ヲ含有スルモノタル以上ハ必ス一石ニ付キ十六圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課スヘキモノトス而シテ該金額ハ法律上一定セル最下額ノ造石稅ナルカ故ニ此稅額ヲ超エサルヘキ場合ニハ判決ニ酒精分ノ一定ノ度數ヲ示スノ要ナシ

○官署ノ處分ニ因リ差押物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル場合ニ於テ其差押カ債權者ノ委託ニ基ケルコトハ犯罪ノ構成要件タル事實ニ非サレ

三七

八七六

三七

八八二

三七

二〇九二

三七

一三七九

ハ特ニ事實上ノ理由トシテ之ヲ判決ニ明示スルノ要ナシ

三七

一四六二

○酒造税法ハ酒精分二十度ヲ以テ税額ヲ定ムル單位ト爲シ二十度ヲ下ルトキハ其度数ノ差ハ毫モ税額ノ高低ニ關係ナキモノトス故ニ被告力單位二十度以下ノ酒精分アル濁酒ヲ密造セシ旨ヲ判示シタル以上ハ特ニ證據ヲ擧ケテ其何度ナルヤヲ説明セサルモ不法ニ非ス

三七

一六三三

○犯人カ意外ノ障礙ニ因リテ目的ヲ達セサリシ事實ハ罪ト爲ルヘキ事實ニ非サレハ之ニ對シテ一證據ヲ明示スルノ要ナシ

三七

一六六九

○酒精及酒精含有飲料税法違反事件ニ於テ被告力製造セシ飲料中ニ包含スル純酒精ノ二十箇未滿ナル事實ヲ確定シタル以上ハ縱令其箇數ヲ精確ニ指示セサルモ不法ニ非ス

三七

一七三二

○刑事訴訟法第二百三條ニ所謂證據ニ依リテ罪ト爲ルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ明示スヘシトノ規定ハ必スシモ證據書類ノ文詞ノ全部又ハ一部ノ記載ヲ要スルノ法意ニ非ス從テ裁判所カ證據ニ付キ解釋シ得タル旨趣ヲ掲ケ之ニ依リテ犯罪事實ヲ認定シタル所以ヲ明カニスルモ同條ノ法意ニ背戾スル所ナシ

三七

一九七七

○移民保護法違反事件ニ於テ被告ノ渡航地ノ北米合衆國ナルコトヲ判文ニ明示シタル以上ハ同國中何レノ地ナルヤヲ詳示セサルモ不法ニ非ス

三七

二〇五七

○免許ヲ受ケスシテ製造シタル酒精ノ數量明確ナラサルカ爲メ法定ノ最低額ノ罰金ニ處スヘキ場合ニハ其酒精分ノ多寡ハ罰金ノ數額ニ何等ノ影響ヲ及ホササルヲ以テ特ニ之ヲ判示スルノ要ナシ

三七

二二六一

○町村ノ收入役カ其管掌ニ係ル歳入出決算表ヲ偽造シ且役場備付ノ金錢受取書ヲ毀棄又ハ變造シタル事實ヲ認メテ之ヲ管掌文書ノ偽造變造毀棄罪ニ問擬スルニハ被告カ當時收入役タリシ事實ハ犯罪構成ノ必要條件ナルヲ以テ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示セサルヘカラス

三七

二三五二

○被告カ往來妨害ノ行爲ニ著手シタルモ他人ノ詰責ニ遇ヒ其犯行ヲ遂ケサリシコトヲ明示シタル以上ハ其詰責カ犯行ヲ續行シ能ハサラシムヘキモノナルコトヲ詳示セサルモ理由不備ト云フヲ得ス

三七

二三九五

○移民取扱人タル許可ヲ受ケスシテ他人ノ渡航周旋ノ依頼ニ應シ若干ノ報酬ヲ得テ目的地ニ密航セシムヘキコトヲ承諾シ船員手帖ノ下付ヲ受ケ各外國汽船ニ乗込マシムヘキ手續ヲ爲シタルコトヲ判示セル以上ハ移民保護法第二十三條ニ所謂移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタル事實理由ニ不備アリト云フヲ得ス

三六

一三〇

○犯罪ノ場所ハ其犯罪ニ適用スヘキ法律ヲ定ムルノ標準ト爲ルト同時ニ其犯罪ノ裁判管轄ヲ定ムルノ作用ヲ爲スモノナレハ犯罪事實ノ摘示ニ

於テ全然場所ニ關スル記載ヲ缺如シタル判決ハ理由不備ノ違法アルモノトス

三

二五

○數人ヨリ包括的ニ金品ノ寄託ヲ受ケタル者カ同一意思ノ發動ノ下ニ之ヲ費消シタルトキハ其所爲ヲ包括シテ一ノ委託物費消罪ヲ構成スルモノトス故ニ此場合ニ於テハ受託者ト寄託者トノ箇箇ノ關係ハ具體的ニ之ヲ判文ニ掲クルノ要ナシ

三

二六

○裁判所カ有罪ノ心證ヲ採リタル根據ヲ判文ニ掲ケタル以上ハ犯罪ノ手段ニ過キサル事實ニ付キ特ニ之ヲ認メタル證據理由ヲ明示セサルモ違法ニ非ス

三

二九

○邸トハ家屋其他建造物ノ存スル構内ノ土地ヲ云フ從テ邸内ナル文字ハ建造物内ナル文字ト同義ニ解スルコトヲ得ス

三

四二

○賭場開張罪ニ付テハ被告人カ人ヲシテ賭博ヲ爲サシムル爲メ房屋ヲ供與シ賭博ヲ開催シタル事實ト賭博ノ開催者トシテ若干ノ利得ヲ受クヘキ設備ヲ爲シタル事實トヲ判文ニ摘示スルヲ以テ足り其以外ニ於ケル詳細ノ事實關係ハ必スシモ之ヲ掲載スルコトヲ要セス

三

一〇七五

○請求ノ目的物ニ付キ第三者ノ生シタルコトノミヲ説明シ其第三者ノ所有者ナルヤ將タ抵當權者ナルヤヲ明確ニ説明セサル判決ハ不法ナリ

三

一三九

○詐欺取財罪ヲ處斷スル場合ニ於テ被告カ某海軍經理部員ヲ欺罔シタルコトヲ判示シタル以上ハ特ニ其部員ノ何人ナルカヲ詳記シテ之ヲ證明セサルモ不法ニ非ス

三

一六

○商標權ニ關スル民事刑事ノ訴訟ヲ審理スル場合ニ於テハ司法裁判所ハ特許局ノ査定若クハ審決ノ旨趣ニ反シテ商標權ノ有無ヲ判定スルコトヲ得ス

三

五

○檢事カ一罪ヲ構成スル數箇ノ所爲ヲ分割シ數箇ノ犯罪アリトシテ公訴ヲ提起シタル場合又ハ一ノ犯罪ト其結果トシテ別罪ヲ構成セサル犯人ノ所爲トヲ指摘シ數箇ノ犯罪アリトシテ起訴ヲ爲シタル場合ト雖モ公訴裁判所ハ其現ニ認メタル犯罪行爲ヲ基本トシ一ノ判決ヲ以テ刑ヲ言渡セハ足ルモノニシテ各箇ノ所爲ニ付キ別別ニ判決ヲ爲シ且之ニ理由ヲ付スルノ必要ナキモノトス

三

一六一

○官文書偽造罪ニ對スル判決ニ於テ家老郡代ナル封建時代ノ有司ノ職名ヲ掲ケ其偽造ノ目的タル文書ヲ作成スル職務權限ノ所在ヲ明示シタル以上ハ理由不備ノ不法アリト云フヲ得ス

三

二五九

○刑法第三百九十五條前段ノ罪ハ委託ノ旨趣ニ反シ受寄ノ財物ヲ費消スルニ依リテ成立ス從テ寄託者カ受寄者ニ對シ委託金ノ使用ヲ承諾セサ

ル場合ニハ特ニ費消ノ目的物ノ不得替物タルコトヲ判示スルノ要ナシ
○村役場カ印鑑ヲ保管シ且村長之ヲ證明スルコトノ慣例ニシテ一般ニ認
メラレタル以上ハ裁判所ハ其慣例ノ存在ヲ判決ニ明示スルノ要ナシ

三九 四〇七
三九 四九三

○明治三十七年勅令第七十七號同三十八年法律第六十六號第一條ハ孰
レモ偽造變造物體ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造シタル事
實ヲ犯罪構成ノ一要素ト爲スカ故ニ其第四條ヲ以テ處斷スル場合ニ於
テモ亦被告ノ目的ハ偽造變造物體ヲ流通セシムルニ在リシコトヲ認定
セサルヘカラス

三九 五四九

○鹽專賣法施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ鹽ヲ所有スル者カ申告義務ニ違背
シタルトキハ其犯罪ノ場所ハ申告ヲ受クヘキ官廳ノ所在地ナリトス

三九 五六一

○或文書カ町村役場備付ノ公文書ナルヤ否ヤハ法律上ノ問題ナリトス故
ニ事實裁判所カ或文書ヲ以テ公文書ナリト認メタル場合ニハ其證據上
ノ理由ヲ説示スルノ必要ナシ

三九 八八八

○從犯ハ正犯ノ管轄裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナレハ正犯行爲ノ行ハ
レタル場所ヲ判示スルニ於テハ別ニ從犯行爲ノ場所ヲ示スノ要ナシ

三九 一一五九

(同主旨)

○正犯ノ實行シタル場所ヲ判示シタル以上ハ從犯ノ器具ヲ給與シタル場所ヲ判示スルノ要ナシ

三〇 七八

○犯人カ盜伐ノ木材ヲ以テ樟腦ヲ製造シタル所爲ハ盜伐罪ノ構成要件ニ
非スシテ加重ノ情狀タルニ過キサレハ其場所ヲ判示セサルモ違法ナリ
ト云フヲ得ス

三九 一一五九

(同主旨)

○贓物ヲ以テ物ヲ製造シタル事實ハ森林竊盜罪ニ於ケル加重ノ情狀ニ過キス從テ特ニ其製造ノ
場所及年月日ヲ判示スルノ要ナシ

三五 一八六

○日本勸業銀行以外ノ銀行カ割増金附債券ヲ發行シ得ルヤ否ヤハ犯罪構
成ノ要件タル事實ニ非サレハ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ依リ法令
ヲ指示シテ之ヲ斷定スルノ要ナキモノトス

三九 二八六

○犯罪ノ未遂ニ關スル事實ハ刑事訴訟法第二百三條ノ所謂罪トナルヘキ
事實ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ裁判所ハ證據ニ依リテ之ヲ認ムルノ要ナ
シ

三九 一一〇一

○裁判所カ各別ニ審理シタル二箇ノ公訴事件ノ判決ヲ一箇ノ判決書ニ基
キ併合シテ言渡スハ不法ニ非ス

四〇 三五五

○犯人カ被害者ヲ威嚇シ金圓ヲ交付セシメタル事件ニ付キ其威嚇ニ係ル
危害切迫セルモノト認ムル場合ニ於テハ犯人ノ用キタル手段カ其性質
上被害者ノ意思ノ自由ヲ束縛スヘキモノナルヤ將タ單ニ之ヲ畏怖セシ

ムヘキモノタルニ止マルヤノ事實關係ハ判文上具體的ニ之ヲ明示セサルヘカラス

四〇

三七〇

○毆打創傷罪ニ付キ犯人ノ與ヘタル創傷カ被害者ヲシテ疾病休業ニ至ラシメタル日時ノ二十日以上ナルヤ否ヤヲ明示セル上ハ其疾病休業ノ時期ヲ具體的ニ掲ケサルモ違法ニ非ス

四〇

四六〇

○偽造證書ヲ行使シタル場所日時ノ何レナルヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサザレハ縦令判決ニ其場所ヲ判示セサルモ單ニ此一事ヲ以テ破毀ノ理由トスルヲ得ス

四〇

六三〇

○委託金費消罪ヲ斷スルニ當リ被告カ集合セル多數ノ他人ヨリ金員ヲ委託セラレタルコトヲ判定説明シタル以上ハ委託者ノ誰タルヤヲ個人的ニ一一明示セサルモ不法ニ非ス

四〇

七〇三

○他事件ニ屬スル參考人豫審調書ヲ援用スルニ當リ單ニ參考人某ノ豫審調書ト掲ケ恰モ直接ニ當該事件ノ參考人トシテ訊問シタル調書ナルカ如ク記載シタル判決ハ不當ナリ

四〇

八四〇

○刑法總則ノ加減例ハ各犯罪行為ニ對スル各本條ノ刑ヲ加重減輕スルニ當リ其科スヘキ刑及ヒ刑期範圍ヲ定メタルモノトス從テ判文上該規定ニ照シテ刑ヲ加減シタルコト明カナル以上ハ特ニ法條ヲ揭示セサルモ

違法ニ非ス

四〇

二八七

○村長カ人ノ請託ヲ容レ村立小學校ノ新築工事ヲ請負ハシムルニ當リ報酬トシテ債務證書ヲ收受シタル事實ノミヲ掲ケ其處分ノ不正ナル事實ヲ明示セスシテ輒ク刑法第二百八十四條第二項ニ問擬シタル判決ハ不法ナリ

四〇

二〇四

○數人共謀シ金圓ヲ騙取センカ爲メニ偽造證書ヲ行使シタル事件ニ付キ裁判所カ共謀者中ノ行使者ヲ誤認シ又ハ行使者ノ或者ニ對シテ其行使ニ關スル證據説明ヲ缺如スルモ之ヲ以テ理由不備ノ違法アリト云フヲ得ス

四〇

二九四

○詐欺取財罪ニ付テハ被告カ他人ニ屬スル金品等ヲ騙取シタル事實ヲ判示スルヲ以テ足り其被害者ノ何某ナルヤハ必スシモ之ヲ判決ニ明示スルノ要ナシ

四〇

一三三

○私署證書偽造行使罪ヲ判定スルニハ被告カ偽造ニ係ル私署證書ヲ他人ニ對シテ行使シタル事實ヲ明示スレハ足り其行使ヲ受ケタル人ノ何某ナルヤハ必スシモ之ヲ判決ニ明示スルコトヲ要セス

四〇

一三三

○公訴ノ事實ヲ掲載セスシテ無罪ヲ言渡シタル判決ハ如何ナル事實ヲ以テ罪トナラスト認メタルヤヲ知ルニ由ナシ從テ其判決ハ不法ナリ

三五

二四〇

○事實裁判所カ犯罪ノ證據充分ナラストシテ無罪ヲ言渡ス場合ニ於テハ單ニ公訴ニ係ル犯罪事實ヲ明示シ其證據充分ナラスト判示スルヲ以テ足ル從テ犯罪ヲ構成スヘキ諸般ノ事實關係ヲ明示シ各箇ノ事實ニ對シ之ヲ認ムル能ハサル所以ノ理由ヲ説明スルノ要ナシ

(同主旨)

證據十分ナラサルヲ以テ無罪ヲ言渡ス旨ヲ明記シタル判決ハ刑事訴訟法第二百三條第二項ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲ爲スニ付キ其理由ヲ明示シタルモノトス

○一罪中罪トナラス又ハ罪ヲ論セサルモノアル場合ニ於テ他ノ部分ヲ有罪トシ之ニ對シテ法律ノ理由ヲ付シタル以上ハ其無罪ノ部分ニ付キ特ニ理由ヲ付スルノ要ナシ

○如上ノ事件ニ付キ檢事ヨリ男子ノミヲ教唆セルコトヲ指摘シ起訴シタル場合ニ於テ裁判所カ男女トモ之ヲ教唆シテ犯罪ヲ爲サシメタル事實ナシトスルトキハ單ニ男子ヲ教唆シタル罪責ナキ理由ヲ明示スルヲ以テ足リ女子ヲ教唆シテ犯罪ヲ爲サシメタル罪責ナキコトニ至ルマテ之ヲ說示スルノ要ナシ

(第二百四條)

『第二百四條』

○刑事判決ノ未タ確定セサル間ハ私訴事件ニ對シ攻撃スルコトヲ得サル

既判力ヲ有スルモノニ非ス

○判決書ニ住所身分職業ノ誤記アルモ人違ニ非サル以上ハ瑕瑾トナラス

○沒收ノ言渡ハ物件ヲ主眼トス

○判決ニハ主文及ヒ理由ヲ包含ス

○告訴ノ拋棄ニ因テ公訴權消滅シタル場合ト雖モ一旦正當ニ提起セラレタル公訴ノ處分ハ判決ヲ以テ之ヲ結局ス

○次ノ開廷日ニ判決言渡ヲナスヘシ(刑事訴訟法第二百四條)トノ法則ハ審理終結ノ日ニ直近シタル開廷日ノミニ言渡ヲナスヘシトノ意義ニ非ス

(同主旨)

訴訟事件錯雜ニ涉リ議決ニ思慮ヲ要スルトキハ辯論終結ノ後次ノ開廷日ニ判決ノ言渡ヲ爲ササルコトヲ得

錯雜ナル事件ハ必スシモ次ノ開廷日ニ判決ヲ言渡スヲ要セス從テ其遷延ヲ論難スル申立ハ上告ノ理由トナラス

煩雜ナル事件若クハ其他ノ事情アルトキハ即日又ハ次ノ開廷日ニ判決ヲ言渡ササルモ不法ニ非ス

刑事訴訟法第二百四條ニ所謂判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル即日又ハ次ノ開廷日ニ爲スヘキ規定ハ裁判官ニ對スル訓示法タルニ過キス從テ之ニ違背シタル判決ヲ以テ直チニ無効ナリト論

二六	二六	二四	三二	三〇	三〇	三〇	二六
二	二	一	五	一〇	九	八	一
二二八	二三四	二九	三二	四九	三三	三三	一〇一

三五	三五	三三	三〇	四〇
九	一〇	六	一〇	七六〇
一二三	二九	七四		

斷スルヲ得ス〔同一判例二八年三卷一九一頁〕

○判決ハ公廷ニ於テ言渡ヲナスニ非サレハ被告人ニ對シテ其效力ヲ生ゼス

○檢事ノ立會ナクシテ言渡シタル判決ハ不法ナリ

○更ニ審判ヲ開始シタルトキハ曩ニ爲シタル判決言渡期日ノ宣告ハ自カラ變更ス

○二箇ノ犯罪行爲カ實質上ノ一罪ナルトキニ於テ其中一箇ノ行爲カ罪トナラサル事實アル場合ハ唯其理由ヲ示スニ止マリ其點ニ對シ別ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス

〔同主旨〕

第一審ノ認メテ本案ノ犯罪行爲ナリト爲シタルモノハ即チ前キニ約束手形ヲ騙取シタル詐欺既遂罪ノ結果ニシテ本罪ノ餘波タルニ過キサルトキハ別ニ單獨ナル一罪ヲ成スヘキニ非サルカ故ニ原院カ詐欺未遂ノ點ニ付テ特ニ無罪ノ判決ヲ與ヘサルコソ當然ナレ
詐欺取財ヲ爲スニ因テ私書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實質上ノ一罪ナリ從テ詐欺取財ノ所爲ヲ無罪トスルモ之カ爲メ特ニ判決ヲ與フヘキモノニ非ス

○判決ノ言渡ニハ辯護人ノ立會ヲ要セス從テ其期日ノ變更ヲ通知スルノ要ナシ〔同一判例三〇年九卷一一七頁〕

〔同主旨〕

被告人カ辯護人ヲ用ユルハ辯論ノ爲メナルヲ以テ其裁判言渡ニ付テハ必スシモ辯護人ノ立會ヲ要セス
判決ノ言渡ニハ辯護人ノ立會アルヲ要セス

重罪事件ト雖モ判決ノ言渡ニハ辯護士ノ立會アルヲ必要トセス〔同一判例二九年三卷七五頁〕
辯護人ヲ用ユルハ辯論ノ爲メナリ從テ重罪事件ト雖モ判決言渡ニハ辯護人ノ立會ヲ必要トセス

○對席裁判ノ場合ニ在リテハ其宣告ノ期日ニ於テ被告人又ハ其代人ハ必ス出廷スルノ義務アリ

○同一裁判所ニ於テ判決言渡ヲ爲シタル後更ニ言渡ヲ爲スヲ得ス
〔反對〕

公廷ニ於テ裁判言渡ノ後被告人拘束ノ事實アルコトヲ發見シ直ニ其拘束ヲ解キ更ニ式ニ基キ裁判言渡ヲ爲シタル處措ハ違法ニ非ス

○判決ハ裁判所カ事件ニ對スル終局ノ斷定ニ付キ評決ヲ爲シ此評決ヲ表明スヘキ判決書ヲ作成スルト同時ニ成立ス而シテ判決言渡ハ判決以外ニ於ケル一ノ手續ニシテ判決ノ實體ヲ形成スルモノニ非サレハ必スシモ事件ノ審理評決ニ干與シタル判事ノ立會ヲ要セス

〔同主旨〕

判決ノ言渡ハ判決行爲タル評議及ヒ原本ノ作成ト異ナリ單ニ其公示方法タルニ過キサレハ審問ニ干與セサル判事ト雖モ之ニ干與スルコトヲ得

二六三

三二一

三二九

三四四

三三六

二七二

三二九

三四六

二六四

二九五

二九一

三〇四

三二二

三三二

三三七

三三七

三三七

裁判ナル行爲ト其裁判ヲ外部ニ表示スル行爲トハ之ヲ同一視スヘキモノニ非ス而シテ裁判ヲ爲ス判事ト其言渡ヲ爲ス判事トハ同一ナルコトヲ要スル旨ノ規定ナキヲ以テ裁判ニ干與セサル判事ト雖モ其言渡ニ干與スルコトヲ妨ケス

○裁判所カ休暇事件ノ判決言渡ノ爲メ其休暇部ノ成立ヲ休暇以後ニ延長スルモ違法ニ非ス

○判決ノ理由ヲ判決ノ言渡ト同時ニ朗讀セス又口頭ニテ其要領ヲ告知セサルハ刑事訴訟法第二百四條第二項ノ規定ニ違背シタル不法ノ判決ナリ

(反對)

判決言渡ノ時縱令主文ノミヲ言渡シ其理由ノ説明若クハ其要領ノ告知ナキモ既ニ判決原本ノ具備シアルヲ以テ被告ハ之ニ依リテ上訴ヲモ爲シ又刑ノ執行ヲモ受クルコトヲ得ヘケレハ一モ被告ニ於テ不利益ノ點アルコトナシ故ニ之ヲ以テ原裁判破毀ノ原由ト爲スコトヲ得ス

○原判文ニ「刑事訴訟法第二百六十一條二項ニ基キ原裁判中被告ニ關スル部分ヲ取消シ」ト記載シテ之ヲ取消シタルコトヲ判示シアレハ主文ト明記アル所ニ之ヲ記載セサルモ不法ノ判決ト云フヲ得ス

○判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リテ之ヲ爲スモノトス從テ既ニ判決主文ノ朗讀ニ因リ判決ノ言渡ヲ爲シタル以上ハ縱令判決原本ニ違法ノ點アリテ無効ニ屬スト雖モ爲ニ判決言渡ハ無効ニ歸スヘキモノニ非ス

○帳簿ニ詐欺ノ記載ヲ爲シ金員ヲ竊取シタル監守盜事件ヲ判決スルニ當リ其主文ニハ單ニ監守盜ノ點ハ云トアルモ帳簿偽造ト竊盜トヲ包含スルコト明カナルトキハ不法ニ非ス

(第二百五條)

『第二百五條』

○判決原本ニ判事ノ署名捺印ハアルモ官印ノ押捺及ヒ書記ノ署名捺印ナキトキハ法律ニ違背スルモノトス

○其事件ニ干與シタル檢事ノ氏名ヲ裁判書ニ記載セサルハ不法ノ判決ナリ

○公判始末書ト判決原本ト裁判宣告ノ目附ヲ異ニスルモ誤記タルコト明白ナルトキハ違法ニ非ス

○犯罪人ノ氏名ニシテ詳ナラサルトキハ之ヲ判文ニ明記セサルモ固ヨリ不法ニ非ス而シテ特ニ其無能力者タル事實ヲ掲ケサル以上ハ刑法上責任ヲ有スル能力者ナリト解釋スヘキハ當然ナリ

○認定シタル事實及ヒ適用スヘキ法則ヲ明示スルハ判決ノ形式ナリ

○認定シタル事實ニ對シ法則ニ規定シタル範圍内ニ於テ適當ノ刑ヲ當行スルハ判決ノ實體ナリ

○判決言渡ニ付キ判決書ト公判始末書ト齟齬スルトキハ公判始末書ニ憑

三四	二二	二四
二五	五	一四
二七	三	一六二
二六	一	一四八
二九	七	五一
三〇	一〇	八
三〇	一〇	八

據スヘキモノトス

○公訴私訴ノ判決書ハ之ヲ各別ニ作成スルヲ要セス

(同主旨)

公訴私訴同時ニ判決ヲ言渡ストキハ同一ノ判決書ニ併記スルモ不法ニ非ス

○審判ニ干與シタル判事ノ署名捺印ハ判決原本ノ要件ナリ

○判決書ニ審判ニ干與セサル判事ノ署名捺印アルモ何等ノ效力ヲ生セス

○私訴ノ判決ニ當事者ノ申立ヲ摘示スヘキノ規定ナシ

○公判始末書ニ記載シタル立會檢事ト判決書ニ記載シタル立會檢事トノ

氏名ヲ異ニスル判決ハ刑事訴訟法第二百五條ニ違背シタル不法アルモ

ノトス

○事件ニ干與シタル檢事ノ官氏名記載ナキ第一審判決原本ハ刑事訴訟法

第二百五條ニ違背シタルモノトス從テ其判決ハ第二審ニ於テ之ヲ取消

ササルヘカラス

○地方裁判所判事カ控訴院判事ノ代理ヲ爲シタル場合ニ於テ其判事カ控

訴院所屬ノ地方裁判所ノ判事ナルコトハ公知ノ事實ナルヲ以テ特ニ其

所屬裁判所ヲ判文ニ明記スルノ必要ナシ

○判決原本ニ判事ノ氏名ヲ重複ニ記載スルハ違法ニ非ス

三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二六	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
七四	四	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
八六	四	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

○法定代理人ハ民法上一種ノ代理人ナリト雖モ訴訟上法定代理人タル資

格ニ於テ之ヲ當事者トシテ表示スルモ妨ナシ

○判決書ニ原籍若クハ住所地ヲ肩書トシテ記載スルハ其人違ナキコトヲ

表明スル爲メナレハ人違ニ非サル以上ハ肩書ノ文字ニ相違アレハトテ

之カ爲メ原判決ニ瑕疵アリトスルヲ得ス

○刑事訴訟法第二百五條ノ「事件ニ干與シタル檢事」トハ審理又ハ判決言

渡ニ干與シタル檢事ノ謂ナリトス從テ判決原本ニ言渡ニ干與シタル檢

事ノ官氏名記載アル以上ハ審理ニ干與シタル檢事ノ官氏名記載ナキモ

違法ニ非ス

(同主旨)

判決ノ原本ニ記載スヘキ檢事ハ其事件ニ干與シタル檢事ニテ特ニ辯論ニ立會ヒタル檢事ニ限

ラス

判決書ニ其判決言渡ニ立會タル檢事ノ氏名ヲ記載シアル上ハ辯論ニ立會タル他ノ檢事ノ氏名

ハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

判決原本ニ言渡ニ立會ヒタル檢事ノ官氏名ヲ記載シタル上ハ辯論ニ立會ヒタル檢事ノ官氏名

ヲ記載セサルモ違法ニ非ス

○檢事ハ同一體ナルヲ以テ被告事件ノ審理判決ニハ單ニ檢事ノ立會アル

ノミヲ以テ足レリトシ其審理判決ニ干與シタル者ノ甲檢事タルト乙檢

三五	二六	二七	三五	三五	三五	三五	三五
三	二		九	三	二	二	二
二四	一〇〇	四九六	一五六	一	二九	二九	二九

事タルトハ事件ノ審理ニ何等ノ影響ヲ及ホサス從テ數名ノ檢事カ前後同一事件ノ審理ニ干與シタル場合ト雖モ單ニ其中一名ノ官氏名ヲ判決書ニ記載スルヲ以テ足ルモノトス

○判決原本ニハ其裁判ニ干與シタル裁判所書記ノ署名捺印アルコトヲ要ス從テ其署名捺印ナクシテ裁判ニ干與セサル裁判所書記ノ署名捺印シタル判決原本ハ不法ナリ

○判決原本ニハ事件ニ干與シタル裁判所書記ノ署名捺印ヲ要スト雖モ其署名捺印ハ判決言渡前ニ之ヲ爲スヘシトノ規定ナケレハ言渡後ニ於テ爲スモ不法ニ非ス

○判決言渡ニ干與シタル裁判所書記ト雖モ其事件ニ干與シタルモノナルヲ以テ判決原本ニ署名捺印スルコトヲ得

○判決原本中裁判所ヲ表示スヘキ場所ニ當院ナル文字ヲ使用スルモ此文字ハ形式上其裁判所ヲ指示スルコト能ハサルモノナレハ原本ノ形式要件ヲ欠ケル不法アリトス

○判決原本ニハ裁判ヲ爲シタル裁判所ヲ表示スルノミヲ以テ足ルモノナレハ更ニ其作成ノ場所ヲ記載スルコトヲ要セス

(同主旨)

三六	三五	三七	三七	三六	三五
一五五	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九
一五六	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九
二六五	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九

判決原本ニハ其作成ノ年月日及ヒ場所ヲ記載スルヲ要セス

判決原本作成ニ付テハ刑事訴訟法第二百五條ノ特別規定アリテ別ニ其作成ノ場所ヲ記載スヘシトノ規定ナキヲ以テ其記載ナキハ當然ナリ

判決原本ノ作成ニ付テハ刑事訴訟法第二百五條ニ特別ノ規定アリ而シテ該規定ヲ遵守スル以上ハ其作成ノ場所及ヒ年月日等ハ自ら明瞭ナルヲ以テ此等ノ點ニ付テハ重ネテ總則ノ規定ニ從フヲ要セス

○審理ニ干與セサル判事カ誤テ判決ニ署名シタル場合ニハ其判文ヲ作成スルノ權限アル判事ニ於テ該署名ヲ削除シ得ヘキハ當然ナリ

○原本ニ押印アル場合ニハ必ス謄本ニ於テ其事ヲ表示スヘキ旨ノ規定ナケレハ縱令謄本ニ其事ノ記載ナキモ之ヲ以テ該謄本ヲ無効トシ又ハ原本ニ押印ナシト推斷スルコトヲ得ス

○判決原本ニ署名捺印スヘキ書記ハ其事件ニ干與セシ者ナルヲ以テ足り必スシモ判決ノ言渡ニ立會シタル者ナルコトヲ要セス

(同主旨)

判決原本ニ署名捺印スヘキ書記ハ其事件ニ干與セシ者ナルヲ以テ足り必スシモ判決ノ言渡ニ立會シタル書記ナルコトヲ要セス

(反對)

判決原本ニ署名スヘキ裁判所書記ハ其判決言渡ニ立會シタル者ナルコトヲ要ス

○地方裁判所長カ裁判所構成法第二十五條ノ規定ニ依リ豫備判事ニ對シ

三一	三五	三七	三七	三六	三五
一	六	六	六	六	六
一	七七	七七	七七	七七	七七
一	七七	七七	七七	七七	七七

一ノ文書ナリ從テ始末書ニシテ不法ニ成立シタルトキハ其判決ノ當否ヲ認識スルニ由ナシ

○公判始末書ニ通常筆記スヘキ事項ヲ便宜上印刷ニ付シ筆記ニ代用スルモ不法ニ非ス

○公判手續ニ關スル評決ハ必スシモ公判始末書ニ記載スヘキモノニ非ス

○判決ヲ以テ公判始末書ニ於ケル記事ノ誤謬ヲ訂正スルコトヲ得

○訊問辯論ノ文字ニハ合議ヲ包含セス

○併合審理ノ事件ニ於ケル公判始末書ハ各件ヲ通シテ作成スルヲ以テ足レリトシ必スシモ各件毎ニ合綴スルヲ要セス

○罰金ニ該ルヘキ輕罪事件ニ付テハ公判始末書ニ被告ノ身體ニ拘束ヲ受ケタルコトナキ旨ノ記載ヲ要スヘキモノニ非ス

○合議ノ事實ハ公判始末書ニ記載スルノ必要ナシ

○公判開廷ノ都度各別ニ公判始末書ヲ作成シタルトキハ前回公判始末書ト後回公判始末書トノ間ニ契印ヲ押捺スルノ必要ナシ

○公判始末書ニ瑕瑾アリテ判決ノ當否ヲ審査スルニ由ナキトキト雖モ一件記録中判決原本存在シ且闕席判決ノ告知ニ依リ故障ヲ申立テタル事實アレハ判決ナキモノト云フヲ得ス

二九	二〇	二〇	三二	三二	三三	三四
九	一〇	一〇	二	二	一〇	五
一一	五七	一四	八五	四	一	四四

○公判始末書ニ要旨左ノ如シト記シ被告ノ陳述シタル事項ヲ一一記載シアリテ其問答ノ始末自ラ明瞭ナルトキハ不法ニ非ス

○被告ニシテ保釋中ノ者ナルトキハ公判始末書ニ特別ノ記載ナキ以上ハ公判廷ニ於テモ拘束ヲ受ケサリシモノナルコト明カナリトス

○公判始末書ハ現ニ實踐セラレタル公判ノ手續ヲ證明スヘキ具ナルカ故ニ事實ノ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ當該官吏ニ於テ之ヲ訂正スルヲ妨ケス

○公判ニ出廷シタル辯護人ノ氏名ハ之ヲ公判始末書ニ記載スヘシトノ規定アルコトナシ從テ單ニ辯護人出廷セリトノミ記載シ其氏名ヲ明記セサルモ違法ニ非ス

○公判ノ辯論並ニ判決ニ付キ一通ノ始末書ヲ作成シタル場合ニ於テハ其各部相共ニ一ノ始末書ヲ形成スルモノナレハ苟クモ其重要ナル部分ニ違法ノ點アルトキハ該始末書ノ全部ヲ無効タラシムルモノトス

○如上ノ場合ニ於テ其始末書ニ記載セラレタル鑑定ハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得ス

○書類ノ空白ニ關シテハ刑事訴訟法上別段ノ規定ナキヲ以テ空白ニ依リ離隔セラレル前後ノ記載ノ連絡ヲ表示スル爲メ特ニ外形的ノ符徴ヲ施

三四	三五	三六	三七	三七	三七
二	五	七	七	七	七
一	八	五	九	九	九

ササルモ書類上其記載カ互ニ相連續シテ一體ヲ爲スコトヲ認識シ得ル以上ハ之ヲ有效ト爲スヘキモノトス

(同三三)

刑事訴訟法中空白ヲ存シタル調書ハ當然無効ナル旨ノ特別規定アルコトナシ從テ公判始末書ニ空白アレハトテ爲メニ其調書ノ効ヲ失フモノニ非ス

○被告事件ニ付キ審理ヲ更新セル場合ニ其公判始末書ニ於テ前回公判始末書ノ記載ヲ引用シタルトキハ前回公判始末書ノ法律上ノ效力如何ヲ論セス現ニ引用事項ノ記載アル以上ハ後回ノ公判始末書中ニモ亦同一ノ記載アルモノト謂ハサルヘカラス

○裁判所カ刑事訴訟法第九十七條第二項ノ規定ニ違反シ退廷セル共同被告人ニ相被告ノ供述事項ヲ告知セサルハ不法ナレトモ公判始末書其モノハ之カ爲メ全然無効ニ歸スヘキモノニ非スシテ唯其退廷中相被告カ爲シタル供述ノ部分ノミ共同被告人ニ對シテ無効ナルニ過キス

○公判ニ立會ハサル裁判所書記カ作製整頓シタル始末書ハ無効ナリ

(反對)

公判ニ立會シタル書記ト公判始末書ヲ整頓シタル書記トハ必スシモ同一ナルヲ要セス公判

ニ立會シタル書記ト始末書ヲ整頓スル書記トハ必スシモ同一ナルコトヲ要セス

三七 七九四

三五 四一四三

三六 四九二

三六 五二七

三九 三二二

三二 九五七

三七 五二二

○公判始末書ハ公判ニ立會ヒタル裁判所書記ニ限り之ヲ作成スヘキ權限ヲ有スルモノトス從テ公判ニ立會ハサル書記カ作成シタル始末書ハ無効ナリ

(同三三)

始末書ヲ整頓シタル裁判所書記ノ署名アルモ書記カ辯論ニ立會ヒタルコトヲ記載セサル公判始末書ハ無効ナリ

○公判始末書ニ檢事ハ豫審終結決定書ノ記載ニ於ケルト同一ニ事實關係ヲ陳述シタル旨ノ記載アルモ豫審ヲ經サル事件ニシテ決定書存在セサルトキハ此記載ヲ以テ檢事カ被告事件ヲ陳述シタルノ證ト爲スコトヲ得ス

○刑事訴訟法第二百八條第二號ニ所謂被告人ノ供述トハ裁判長ノ訊問ニ對シテ爲シタル供述ヲ指示セルモノトス從テ同法第二百二十條第三項所定ノ辯論ニ關スル最終ノ供述ノ如キハ之ニ包含スルコトナシ而シテ此最終ノ供述ニ付テハ其内容ヲ記載スヘキコトヲ命シタル規定ナケレハ縱令公判始末書ニ該供述ノ内容ヲ記載セサルモ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百八條第二號ノ規定ハ必スシモ被告ニ對スル一問毎ニ一答ヲ明記スヘキ律意ニ非サレハ各訊問事項ニ對スル被告ノ供述ヲ總括シテ記載スルモ其問答ノ旨趣明瞭ナル以上ハ審理手續ニ違背シタル

四〇 二一六五

三四 二五四

三五 九八

三七 一四八五

モノト云フヲ得ス

○公判廷ニ於ケル證人ノ供述ハ公判始末書ニ記載スヘキモノニシテ特ニ調書ヲ作成スヘキモノニ非ス而シテ其供述ハ之ヲ證人ニ讀聞カスヲ要セス

○公判始末書ニ證人ニ宣誓ヲ爲サシメタル旨ノ記載ナキハ公判始末書作成ノ規定ニ違背シタルモノトス然レトモ公判始末書ニ宣誓書ノ添附アル以上ハ其記載ナキノ一事ヲ以テ直ニ證人ニ宣誓ヲ爲サシメサリシモノト云フヲ得ス

○公判ニ於ケル鑑定人ノ供述ハ公判始末書ニ之ヲ記載スヘキモノニシテ常ニ鑑定書ヲ作成スルノ必要ナキモノトス

(參照)

原院ノ公判始末書中其裁判言渡ノ日ハ明治二十七年六月二十五日トアリ而シテ原院ノ判決原本ニ記載スル其言渡ノ日ハ明治二十七年六月二十九日トアリ若シ六月二十五日ニ裁判ヲ言渡シタルモノトセン乎判決原本ナク六月二十九日ニ裁判ヲ言渡シタルモノトセン乎公判始末書ナキカ故ニ到底原判決ノ適否ヲ監査スルニ由ナキ不法ノ裁判ナルヲ以テ之ニ對スル上告ハ適法ノ理由アルモノトス(第二百五條二八年一卷一四八頁、三一年六卷七四頁、三一年七卷一頁參照)

(第二百九條)

『第二百九條』

三七	一九九〇
三五	四二〇
三六	九八五
三九	一四〇五
二七	三七〇

○公判始末書ニ立會檢事ノ氏名ヲ記載セサルトキハ原判決ハ破毀スヘキモノトス

○裁判所構成法(第二十六條第二號)ニ從ヒ地方裁判所判事カ控訴院判事ヲ代理シタル場合ニ於テ公判始末書等ニ代理ノ肩書ナキモ不法ニ非ス

○公判始末書ニ檢事ノ氏名記載ナキトキハ檢事ノ立會アリシヤ否ヤ明確ナラシテ受命判事ノ作リタル檢證調書ハ適法ニ構成セラレタル裁判所ニ於テ爲シタル決定ニ基キタルモノト認メ難シ從テ其檢證調書ハ違法ナリ

○刑事訴訟法第二百九條第一項ハ裁判長又ハ陪席判事ト爲リ裁判ニ干與セル判事ヲ明記スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ何人カ裁判長若クハ陪席判事タルヤノ文字ヲモ附記スルコトヲ要ストノ旨趣ニ非ス

○公判始末書ニ前回ト同一ナル判事ノ氏名ヲ掲ケ同判事ニ依リテ審理セラレタルコトヲ記載シタル以上ハ特ニ辯論數日ニ涉ル旨並ニ其間同一ノ判事出席シタルコトヲ明記セサルモ違法ニ非ス

(參照)

檢事ハ同一體ノ運用ヲ爲スモノナルカ故ニ公判始末書ト裁判書ト立會檢事ノ名ヲ異ニスルモ上告ノ理由トナラス(第二百五條三一年六卷七四頁參照)

三三	一〇二七
三四	二〇六二
三五	二九三
三七	八二一
三九	六六一
二四	一九五

(第二百十條)

『第二百十條』

○公判始末書ニ裁判長判事ノ署名ノミニテ捺印ナキトキハ法律ニ違背スル文書ナリ是ニシテ違法ナル上ハ正當ニ法則ヲ履行シタル公判ナルヤ否ヤヲ鑑定スルニ由シ無キヲ以テ破毀ノ原因ヲ免レサルモノトス(第二百八條二九年九卷一一一頁參照)

○公判始末書整頓ノ後之ヲ作成シタル書記契印ノ遺脱ヲ覺知スルモ其補足ヲ爲スヲ許サス

○公判ニ關與シタル裁判長ト公判始末書ニ署名捺印シタル裁判長ト異ナルトキハ其公判始末書ハ法律上效力ヲ有セス

○裁判長差支アリテ署名捺印スル能ハサル場合ニ於テ其審判ニ干與シタル上席ノ判事代テ署名捺印シタル公判始末書ハ有效ナリ

○華押ハ捺印ノ一種ナリ從テ刑事訴訟法第二百十條ニ所謂捺印中ニハ華押ヲ包含ス

○公判始末書ハ判決言渡後三日内ニ整頓スヘキモノトス從テ開廷數回ニ涉リ其都度立會書記ヲ異ニスルモ始末書ハ一通ヲ作ルヲ以テ足ル而シテ書記二名ニテ一通ノ始末書ヲ整頓シタル場合ニ在テハ二名共ニ其末葉ニ署名捺印スヘキモノトス

二六	二	二〇九
二六	五	七三
二九	九	一一一
三四	五	二二四
三五	五	五八
三五	一〇	九四

○公判ノ開廷數回ニ涉リ其都度立會書記ヲ異ニスルモ公判始末書ハ一通ヲ作成スレハ足ル而シテ書記二名ニテ一通ノ始末書ヲ整頓シタル場合ニ其一名ノ契印アルニ於テハ書類作成者ノ契印ヲ缺キタルモノト云フヲ得ス

(同三三三)

公判始末書ハ判決言渡後ニ整頓スヘキモノナレハ公判ノ開廷數度ニシテ立會書記ノ異ナル場合ト雖モ一通ノ始末書ヲ作ルヲ以テ足ル而シテ整頓者二名アルトキハ其一名ノ契印アルハ書類作成ノ要件ニ於テ欠ケル所ナシ

○同一ノ被告事件ニ付キ前後數回ノ公判始末書ヲ一括ト爲シ裁判長及ヒ裁判所書記ニ於テ其末尾ニ署名捺印スルハ違法ニ非ス

第二章 區裁判所公判

(第二百十二條)

『第二百十二條』

○豫審終結決定ニシテ確定シタル以上ハ豫審上ノ手續ニ違法ノ點アルモ之カ爲メニ決定ノ效力ヲ失ハス

『第二百十三條』

(第二百十三條)

○公判ヲ開廷スルニハ被告人ヲ呼出スヘキハ當然ナルヲ以テ既ニ檢事カ

三六	一	一九
三九	六	六一
三四	四	五一
三二	二	一

公判ノ開廷ヲ求メタル以上ハ公判請求書ニ特ニ其呼出ヲ求ムル旨ノ記載ナキモ呼出ヲ求メタルニ異ナルコトナシ從テ刑事訴訟法第二百三十三條ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

○控訴裁判所ハ第一審裁判所檢事又ハ訴訟關係人ノ控訴申立ニ依リテ事件ヲ受理シ之カ審理判決ヲ爲スヘキモノニシテ控訴裁判所檢事ノ請求ニ依リ被告人ヲ呼出シ公判ヲ開クヘキモノニ非ス從テ控訴裁判所檢事ハ刑事訴訟法第二百三十三條第一項ノ手續ヲ爲スノ要ナキモノトス

○刑事訴訟法第二百三十三條第一項ハ檢事ノ職務執行ニ關スル訓示的規定ニ外ナラスシテ受訴裁判所ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ被告人ヲ呼出スコトヲ得サルノ旨趣ニ非ス

(同第三項)

刑事訴訟法第二百三十三條第一項ハ檢事ニ對スル訓示的規定ナリトス故ニ事件ノ繫屬シタル後ハ裁判所ハ檢事ヨリ呼出ノ請求ナキモ被告人ヲ呼出シ審理スルコトヲ得

○刑事訴訟法第二百三十三條ハ檢事ノ職務ニ關スル訓示的規定ニシテ公判審理開始ノ必要條件ヲ定メタルモノニ非ス

○在監人ヲ呼出スニ呼出狀ヲ以テセサルモ被告人公廷ニ出頭シ異議ナキ事實ヲ陳述シタル上ハ不當ト爲スコトヲ得ス

三六	四三
三六	四二
三九	三七
三七	七一
四〇	五三九
二九	八〇

(第二百十四條)

○被告人ノ呼出狀ヲ受取リタル典獄ノ氏名ニシテ印刷ニ係ルコトアリトスルモ呼出狀ハ典獄自身ノ作成スヘキ文書ニ非サルヲ以テ之カ爲メニ呼出狀ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

『第二百十四條』

○罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ハ第一審第二審ニ限り代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘキモ第三審ニ於テハ辯護人及法律上代理人ノ外人ヲシテ上告ヲ爲スコトヲ認許セス

○辯護人ヨリ公判開廷ニ付テノ受書ヲ呈出シタル以上ハ更ニ呼出狀ヲ發スルコトナク開廷スルモ違法ニ非ス

○在監ノ被告人ニ對シテ發スル呼出狀ニハ特ニ其職業ヲ記載セサルモ不法ニ非ス(同一判例一九一九年一卷五〇頁)

○第一審裁判所ニ於テ處斷シタル罪名ト第二審裁判所ノ發シタル呼出狀記載ノ罪名トニ異ナル所アルモ之カ爲メ呼出狀ノ無效ヲ來スモノニ非ス

○罰金刑ニ該ル事件ニ付キ被告人ヨリ代人ヲ出ス場合ニハ法律上特ニ委任ニ關スル方式ノ定アルコトナシ故ニ被告人カ代人ヲ以テ審判ヲ受クルノ意思ヲ認メ得ヘキモノアレハ足レリトス

三四	九	八一
三二	三	四九
三三	八	一五
三四	二	四八
三五	九	九三
三七		四四四

○刑事訴訟法中代理委任ハ書面ニ依リテ之ヲ證スヘキ旨ノ規定ナケレハ事實代理委任アリタル以上ハ縱令其合意ニ關スル書面ニ多少不備誤謬ノ點アルモ之カ爲メ代理委任ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

〔第二百十五條〕

○公判開廷ノ當日辯護届ヲ提出シタル辯護人ニ對シテハ呼出狀ヲ發スルコトナク闕席ノ儘直ニ開廷スルモ不法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百十五條ノ猶豫期間ハ同法第二百二十七條第二項ノ規定ニ從ヒ猶豫ノ期間ヲ定メ其期間内ニ被告人出頭セサルトキハ闕席判決ヲ爲スヘキ告知書ヲ發スル場合ニ於テモ之ヲ與ヘサルヘカラス從テ此猶豫期間ヲ與ヘスシテ告知書ヲ送達シタル場合ニ於テハ縱令被告人出頭セサルモ闕席判決ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○刑事訴訟法第二百十五條ニ規定スル猶豫期間ハ訴訟關係人ヲシテ辯論ノ準備ヲ爲スコトヲ得セシムルカ爲メニ外ナラス從テ訴訟關係人カ直ニ審問ニ應シ得ヘキ地位ニ在リテ即時ノ審問ニ對シ異議ナキトキハ縱令此期間ヲ存セサルモ違法ニ非ス

○公判ニ於ケル辯論ノ準備ハ之ヲ爲スノ機會ヲ一回與フルノミニテ足レリトス從テ刑事訴訟法第二百十五條ノ規定ハ第二ノ公判及ヒ其以後ノ

四〇 二七九

三 四 五

三 二〇一

三 六

公判ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

〔第二百十七條〕

○證人カ訊問ヲ受クヘキ場所ニ現在スルトキハ之ニ對シテ呼出狀ヲ發スルノ必要ナク又證人カ即時ニ供述ヲ爲スコトヲ得ヘキ地位ニ在リテ即時ノ訊問ヲ甘諾シタルトキハ呼出ニ付テノ猶豫期間ヲ存スルノ必要ナシ

○刑事裁判所カ出頭シタル證人ニ對シテ直ニ訊問ヲ開始シ決定ノ言渡ヲ省畧スルモ之ヲ以テ被告ノ辯護權ヲ縮少シタルモノト云フヲ得ス

〔第二百十八條〕

○刑事訴訟法第二百十八條ノ氏名年齢身分等ノ訊問手續ハ代人ニ對シテハ委任狀等ニ就キ其人違ニ非サルコトヲ知り得ヘキヲ以テ被告人ニ準シ之ヲ踐行セサルモ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百十八條第一項ノ訊問事項ハ専ラ被告人ノ人違ナキコトヲ確保スル爲メニ規定セラレタルモノトス故ニ縱令受訴裁判所カ其全部若クハ一部ニ付キ訊問ヲ遺脱スルモ苟クモ被告人ノ人違ナキコトヲ調査確認シ事件ヲ審理判決セル以上ハ其公判手續ヲ目シテ無効ナリト云フヲ得ス

四〇 一〇一

三六 一〇五

四〇 九八

三七 四四

四〇 一四五

○刑事訴訟法第二百十八條ノ檢事ノ陳述ハ書面ノ朗讀ヲ以テ之ニ代フルモ毫モ法意ヲ害セス

○檢事カ公訴ヲ提起スルニハ起訴狀ヲ提出スルノミヲ以テ足レリトセス公判ニ於テ被告事件ヲ陳述スルコトヲ必要トシ且公判ノ起頭ニ於テスルヲ普通ノ順序トス

○檢事カ第一審判決ノ全部ニ對シテ控訴ヲ爲シタル場合ト雖モ控訴審ニ於テハ第一審ニ於ケルカ如ク被告事件ノ全體ニ付キ事實ノ陳述ヲ爲スコトヲ要セス唯其不服ナル點ヲ指摘スルヲ以テ足レリトス

○檢事カ公判ニ於テ被告事件ヲ陳述シタル事跡ナキトキハ其公判ニ於ケル被告ノ供述ハ全然無効タルヲ免レス

○第一審裁判所ノ無罪ノ判決ニ對シ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキト雖モ第二審裁判所檢事ハ必スシモ被告事件ノ全體ニ亘リ逐一事實ノ陳述ヲ爲スコトヲ要セス唯其控訴ヲ爲シタル旨趣ノ大要ヲ陳述スレハ足ルモノトス

○檢事ノ控訴ト共ニ被告ヨリ控訴ノ提起アリタル場合ニハ被告ノ控訴ニ基キ審理ヲ開始スルコトヲ妨ケス故ニ公判ノ起頭ニ於テ檢事ヨリ控訴旨趣ヲ陳述セサルモ之カ爲ニ其審理手續ヲ無効ナラシムルモノニ非ス

二六

四五九

三七

一六八

三七

三三七

三七

一三四

四〇

七九

四〇

一四五

(第二百十九條)

『第二百十九條』

○前後二回ニ公判ヲ開廷スルモ後回ノ公判ハ前回ノ續行ニ非スシテ審理ノ更新ニ係ル場合ニアリテハ前回ニ於ケル公判手續ノ瑕瑾ヲ鳴ラシ原判決ノ瑕瑾トナスヲ得ス

○私訴ト同一ノ事件カ民事裁判所ニ繫屬スル場合ト雖モ當事者ノ申立ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ調査スヘキモノニ非ス

○公廷ニ於テ判事カ被告人ニ對シテ其被告事件ヲ訊問スヘキハ法律ノ規定スル所ナリ然ルニ其事件ヲ訊問セスシテ判決ヲ爲シタルハ背法ノ裁判ナリ

○審問事項ノ順序ヲ定ムルハ裁判長ノ職權ニ屬ス

○新聞紙ノ發行所ハ新聞紙ニ掲記シアリテ顯著ナル事實ナルヲ以テ特ニ之ヲ訊問セサルモ不法ニ非ス

○被告事件ヲ訊問スルコトナクシテ之ヲ處罰シタルハ不法ナリ

○列席判事異動アルニ拘ハラス審理ヲ更新セスシテ訴訟手續ヲ進行シ單ニ前回ニ於ケル申立ノ相違アリヤ否ノ一事ヲ訊問シタルニ止マリ直ニ證據調ニ移リ依テ審理ヲ終了シタルハ刑事訴訟法第二百十九條ニ背反スル不法ノ處置ナリ

三〇

五

七

三三

六

六五

二六

二

二九四

二六

二

一一〇

三〇

〇

七

三六

一

三六九

三〇

二

三三

(同主旨)

列席判事異動アルニ拘ハラス審理ヲ更新セスシテ訴訟手續ヲ續行シタル處措ハ口頭審理ノ定則ニ背キタル不法アルモノトス

○檢事又ハ被告人ヨリ證人參考人訊問ノ請求アリタル場合其證人等裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ訊問ノ事ヲ他ノ裁判所ニ囑託スルヲ得ルカ故ニ縱令公判開廷以前ト雖モ其請求ヲ聽許シタルトキハ直ニ之ヲ囑託シ公判開廷ノ當時其調書ヲ朗讀シ被告ニ辯解セシメタル以上ハ公廷ニ於テ證人參考人ヲ訊問シタルト毫モ異ナラス

○公判廷ニ於テ訊問調書ハ讀聞カスヘキモノニシテ示スヘキモノニ非ス

○既決犯罪表ハ訴訟記録ノ一部ナリ

○刑事ノ公判ハ實體的眞實ノ發見ヲ以テ目的トスルモノナリ從テ裁判官ハ職權ヲ以テ必要ナル證據ヲ取調ヘ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得ヘク檢事若クハ被告ヨリ提出シタル證據ノミニ拘束セラルヘキモノニ非ス

○刑事訴訟法第二百十九條ノ規定ニ從ヒ朗讀スヘキ調書ノ必要ナルト否トヲ判別スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス

○法律ニ依リ作成シタル謄本ハ原本ト同一ナルヲ當然トス從テ其内容ヲ證據トスルニ方リ二者中何レヲ朗讀スルモ證據ノ取調手續ニ瑕瑾アル

三〇 二 七〇

二七 一 五二

二六 一 三〇

二九 一〇 一

三三 六 五九

三三 七 七

コトナシ

○證據ニ供シタル民事訴訟記録ハ單ニ被告カ民事訴訟ヲ提起シ其敗訴ニ歸シタル點ヲ示スニ止マル場合ニ在リテハ之ヲ示シテ證據調ヲ爲スヲ以テ足ル故ラニ書記ヲシテ該記録ヲ朗讀セシムルヲ要セス

○凡ソ證據ハ裁判所ニ顯出シタルモノニ非サレハ之ニ依據スルヲ得サルハ勿論トス從テ當事者カ朗讀ノ省畧ヲ承諾シタリトノ理由ニ基キ一モ朗讀セサル書類ヲ以テ之ヲ證據ニ供シタルハ口頭審理ノ原則ニ背反スルモノトス

(反對)

證據書類ノ朗讀ハ單ニ被告人ノ利益ノ爲メニスルモノナルヲ以テ被告人異議ナキトキハ之ヲ畧スルモ違法ニ非ス

書類ノ朗讀ハ被告人及訴訟關係人ノ承諾アルトキハ之ヲ省畧スルコトヲ得從テ其書類ナ證據ニ供シタル裁判ハ不法ニ非ス

調書竝ニ證據書類ノ朗讀ヲ爲スハ畢竟被告人ナシテ記載ノ事柄ヲ聞知セシムルニ在リ是故ニ既ニ其事柄ヲ熟知セル場合ニアリテハ承諾上之ヲ省畧スルハ不法ニ非ス

證據書類朗讀ノ法則(刑事訴訟法第九十八條第二十九條)ハ被告人ニ於テ之ヲ熟知シ且其省畧ニ異議ヲ挿マサル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

法定ノ場合ノ外審理手續ニ關シ特ニ檢事ノ意見ヲ徵スルヲ要セス

三四 四 二七

三四 一〇 三

三四 二 一三三

二四 一 一

二六 二 一七九

二六 三 一三二

二六 五 六三

書類朗讀ノ法則(刑事訴訟法第二百十九條)ハ畢竟被告人ノ意見辯解ヲ徵スルノ主趣タルニ外
ナラス從テ其省署ニ異議ナキ上ハ特ニ之ヲ朗讀スヘキ必要ナシ

書類朗讀ノ法則ハ不必要ナル場合ニ於テ之ヲ省署スルコトヲ是認ス

書類朗讀ノ法則ハ朗讀ノ省署ヲ以テ例外トセス

被告人ニ於テ記録ノ朗讀省署ニ對シ異議ナキトキハ訴訟記録全部ノ朗讀ヲ省署スルコトヲ得
ルモノニシテ第一審判決ニ援用シタル記録ノ朗讀省署ノミニ非ス

被告人ニ於テ書面ノ趣意ヲ熟知スルヲ以テ朗讀ヲ要セスト申立タルトキハ之ヲ省署スルモ刑
事訴訟法第二百十九條ノ精神ニ背戾セス

口頭審理ノ主眼トスル所ハ書面ニ依據スルコトナク口頭直接ノ申立ヲ審聽スルニアリ而シテ
證據調ノ手續ニ屬スル證據書類ノ朗讀ヲ省署スルト否ハ毫モ口頭審理ノ主義ニ關係ナ有セス

書類朗讀ノ省署ニ付テハ檢事ノ意見ヲ徵スルヲ要セス(同一判例二八年四卷五五頁同年同卷
九二頁)

朗讀省署ニ付キ被告人ノ承認ヲ得ス且讀聞クノ上辯解ヲ求メタルコトナキ文書ヲ斷罪ノ資料
ニ供シタル裁判ハ不法ナリ

證據書類ノ一部ヲ指示シテ朗讀ノ省署ヲ訊問シタルニ止マリ全部ニ及ハス而シテ其指示以外
ノ書類ヲ罪證ニ供シタル裁判ハ公延ニ顯出セサル證據ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アリ

被告人等ノ承諾アルトキハ書類ノ朗讀ヲ省署スルモ不法ニ非ス

○調書其他證據書類ノ朗讀(刑事訴訟法第二百十九條)ハ裁判長之ヲ爲ス
モ違法ニ非ス

○裁判長ハ鑑定ノ決定ヲ執行スルニ當リ特ニ其旨ヲ告知スルノ要ナシ

二六	二六	二六	二九	二九	二九	二九	三二	三二	三三	三五	三五
五	五	五	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	六	六	六	八	八	六	一	一

○部員ノ變更ニ因リ審理ヲ更新シタル後證據書類ヲ朗讀シタル形跡ナキ
ニ其朗讀セサル證據書類ヲ採用シ罪證ニ供シタルハ不法ナリ

○鑑定書ヲ朗讀スルト被告人ニ示ストハ其鑑定書ノ如何ニ因ルモノトス
從テ筆跡ニ關スル場合ニ於テ朗讀ヲ爲サスシテ之ヲ被告ニ示シタルハ
相當ナリ

○被告事件ニ於テ爭トナリタル法律上ノ問題ヲ解決スル爲メニ依據スヘ
キ資料ニ付テハ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ手續ヲ踐
行スヘキモノニ非ス

○刑事訴訟法第二百十九條ニ依リ朗讀スヘキ書類ノ必要ナルヤ否ヤヲ判
斷スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス故ニ事實裁判所カ或書類ヲ以テ犯罪
事實ノ有無ヲ確定スル爲メ必要ナキモノト認メ其朗讀ヲ省署スルモ不
法ニ非ス

○被告人ニ對シ證人トシテ訊問セラレタル者ノ調書ヲ讀聞ケタル以上ハ
縱令公判始末書ニ參考人ノ調書ヲ讀聞ケタリトアルモ之カ爲メニ被告
人ヲシテ其信憑力ニ誤信ヲ生セシメタルモノト云フヲ得ス

○公訴ノ審理ニ際シ刑事訴訟法第九十八條及ヒ第二百十九條ノ規定ニ
從ヒ既ニ證據調ノ手續ヲ踐ミタルモノハ私訴ノ審理ニ付キ別ニ證據調

三五	三五	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
三	三	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七

ヲ爲ササルモ之ヲ私訴判決ノ證據ト爲シ得ヘキモノトス
○苟クモ被告ニ對シ一應證人調書ヲ讀聞ケ其辯解ヲ求メタル以上ハ爾後
審理更新ノ際再ヒ之ヲ朗讀スルト否トハ裁判所ノ職權ニ屬スルモノト
ス從テ該調書ヲ證據ニ採用セサル限リハ縱令朗讀ヲ爲ササルモ不法ニ
非ス

三六 五九

○豫審調書ノ末尾ニ表記トシテ贓額等ヲ掲ケタル場合ニハ該表記ハ調書
ノ一部ナルヲ以テ苟クモ之ヲ讀聞ケタル以上ハ特ニ其部分ヲ被告人ニ
示ササルモ不法ニ非ス

三六 七六

○圖畫筆蹟若クハ印影等ノ如キ朗讀シ得ヘカラサルモノ又ハ朗讀スルモ
證據ノ旨趣ヲ了解シ得ヘカラサルモノハ之ヲ被告人ニ示スヲ以テ適當
ノ方法トス

三六 一六

○證據物タル證書ハ之ヲ被告ノ面前ニ提示シ被告ヲシテ自ラ閱讀セシメ
サルモ書記ノ朗讀ニ依リ其記載事項如何ヲ知ラシムレハ足ルモノトス
○刑事訴訟法ニ所謂證據書類トシテ朗讀ヲ要スルモノハ被告人證人ノ訊
問調書、公判始末書、檢證調書等其被告事件又ハ之ト密接ノ關係ヲ有ス
ル他事件ノ證據トシテ特ニ作成セラレ人ノ供述ヲ錄取シタル訴訟書類
ニ限ルモノトス

三六 六八

四〇 九八

○事實裁判所ハ被告人ノ自白ノミニ依據シ他ノ證憑ヲ取調ヘスシテ審理
ヲ終結スルコトヲ得ス(刑事訴訟法第二百二十九條)ト雖モ公訴ニ係ル
犯罪ノ成立ニ關セサル前科ノ如キハ被告ニ於テ之ヲ自白シ裁判所カ其
自白ノ信憑シ得ヘキモノナルコトヲ認メタル以上ハ他ノ證憑ヲ取調フ
ルノ職責ナシトス

三五 四二

(第二百二十條)

『第二百二十條』

○凡ソ訴訟ハ原被兩造ノ陳述ヲ聽キ斷案ヲ下スヲ以テ通則トス刑事ノ訴
訟ニ在リテモ被告ノ辯論ノミナラス原告官タル檢事ノ意見ヲ聽キテ判
決ヲ下ス可キハ勿論ナリ故ニ刑事訴訟法第二百二十條第一項ノ規定ア
リ

二七 三〇

○事實竝ニ法律適用ニ付キ檢事ノ意見ヲ聽カサル判決ハ不法ナリ

二六 一九

(同第三項)

法律適用ニ付キ檢事ノ意見ヲ聽カサル判決ハ不法ナリ(同一判例二八年五卷一〇八頁)

二六 二九

○檢事ノ意見ハ裁判所ヲ拘束セス

二六 三三

○檢事ハ法律ノ正條ヲ援引シテ其適用ヲ求ムルノ外仍ホ進ンテ刑期ノ長
短罰金ノ多寡ヲ指定シテ其適用ヲ求ムルノ權ヲ有ス

二六 四二

○法律適用ニ關スル檢事ノ意見ハ必スシモ法文ノ明示アルヲ要セス其意

二六 二二

思フ表明スルヲ以テ足レリトス

○法律適用ニ付キ裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ求メタル上ハ檢事其意見ヲ陳述セサルモ不法ニ非ス

○私訴ニ付テハ特ニ檢事ノ意見ヲ聽クヲ要セス

○裁判所カ事實及ヒ法律適用ニ付キ檢事ニ意見ヲ陳述スヘキ機會ヲ與ヘタル以上ハ縱令檢事ニ於テ陳述ヲ爲ササルモ之カ爲メニ其判決ヲ目シテ不法ナリト云フヲ得ス

(同三三)

證憑調濟ノ後檢事ニ於テ事實及ヒ法律適用ニ付キ意見ヲ陳述(刑事訴訟法第二百二十條)スルハ其職責ナリトス從テ裁判所ハ檢事ニ意見ヲ陳述スルノ機會ヲ與フルヲ以テ足ルヘキモノニシテ之ヲ強ユルノ要ナシ

○辯論ノ最終ニ被告人ヲシテ供述セシメヌ直ニ本案ノ裁判ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ

○判決ヲ爲スニ熟セサル場合ニ在リテ一旦終結ヲ告ケタル辯論ヲ再開スルハ相當ノ措置ナリトス

○辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシムヘシトノ規定(刑事訴訟法第二百二十條第三項)ハ公訴ノ辯論ニ關スル規定ニシテ私訴

二九 三 六

三〇 五 一六

三一 二 四九

三七 二〇三五

三五 五 一三六

二九 六 七三

三四 一〇 二七

(第二百二十一條)

ノ辯論ニ付テハ別ニ刑事訴訟法第二百二十一條ノ規定アリ從テ私訴ニ付テハ最終ニ被告ノ意見ヲ聽カサルモ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百二十條第三項但書ニ所謂辯論トハ被告人ノ罪ノ有無ヲ定ムル本案判決ノ基本トナルヘキ口頭辯論ヲ指稱スルモノニシテ中間ノ爭ニ關スル辯論ハ之ヲ包含セス

『第二百二十一條』

○公訴附帶ノ私訴ハ刑事訴訟法ニ從ヒ審判スヘキハ言ヲ俟タスト雖モ元來民事ニ屬スルモノナルヲ以テ刑事訴訟法ニ規定ナクシテ法理上已ムヲ得サル場合ニ於テハ民事訴訟法ノ手續ヲ準用スルヲ得ルモノトス
○法律上代理人ナキ未成年者ノ私訴ヲ受理審判シタル裁判ハ不法ナリ
○刑事訴訟法上私訴狀ヲ相手方ニ送達スヘキ規定ナシ
○刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ヲ審理判決スルニハ總テ民事訴訟法ニ則ルヘキモノニ非ス

(同三三)

刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ヲ審理判決スルニハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ則ルヲ要セス從テ其攻撃方法ニ對シ特ニ判定ノ理由ヲ付スルヲ要セス

○公訴ニ於テ證明セラレタル事實ハ自カラ附帶私訴ノ證據ト爲スコトヲ

三五 二 一一

三七 三三八

二六 二 二〇一

三一 一 三〇

三三 三 八二

三三 八 一九

二九 二 一〇二

得從テ反對ノ事實ナキ限りハ私訴當事者ノ申立ヲ俟タス之ヲ援用スヘキモノトス

〔第二百二十三條〕

○犯罪ヲ諭止シタルニ止ルヤ將タ之ヲ教唆シタルヤヲ判別スルハ事實裁判官ノ認定權内ニ屬ス

○犯罪ノ情狀ニ因リ相當ノ刑ヲ言渡スハ裁判官ノ職權ニ屬ス

(同前)

犯罪ノ情狀ニヨリ刑ノ輕重ヲ定ムルハ裁判官ノ職權ニ屬ス

○認定トハ既知ノ事實ヲ以テ未知ノ事實ヲ推定スルノ謂ナリ

○犯罪ノ日時場所ニ異動アルモ意思ノ繼續アル以上ハ一罪トシテ處斷スヘキモノトス而シテ其意思ノ繼續ヲ認定スルハ事實問題ニ屬ス

○其職ニアラスシテ擅ニ官ノ文書ヲ偽造シタル上ハ其目的權利ノ回復ニ在ルヲ口實トナシ惡意ナキ證據ト爲スヲ得ス

○檢事力起訴ノ事件ニ付シタル罪名ハ裁判所ヲ拘束ス可キモノニ非ス故ニ公判ニ於テ豫審終結ノ決定ニ基キ其事件ノ罪名ヲ變更スルモ違法ニ非ス

○死因ノ如何ハ事實ノ問題ニ屬ス從テ裁判官ハ醫師ノ檢按書ヲ憑據トセ

三	二四	二六	二六	二九	二九	二九
一	一	二	一	一	三	三
二六	一	一九四	二二〇	二二	二七	九六

ス諸般ノ證據ニ依リ之ヲ認定スルノ權ヲ有ス

○筆蹟鑑定ノ必要ナルト否トハ裁判官ニ於テ職權ヲ以テ定ムヘキ事項ニ屬ス而シテ其眞偽ヲ鑑定スルモ亦裁判官ノ職權ニアリ

○主タル物件ヲ沒收スルノ判決ハ從タル附屬物件ニ及フ

○偽造ニ係ル印類其物ノ實體ニシテ眞物ト誤認セシムルニ足ルヘキ程度ニ達シタリヤ否ヤノ判斷ハ事實ノ認定ニ屬ス

○意思ノ繼續ト行爲ノ繼續トハ併存スヘキモノニ非ス

○材木賣買ノ仲次營業者ヲ以テ刑法附則第五十五條ニ所謂公商ト認ムヘキモノナルヤ否ヤノ問題ハ事實上ノ判斷ニ屬スヘキモノトス

○偽造紙幣ナリヤ否ノ事實ヲ決定スルハ承審官ノ職權ニ屬ス

○一罪中ノ一部ニ屬シ分ツヘカラサル犯罪事實ニシテ豫審終結決定ニ遺漏アルトキト雖モ裁判所ハ自ラ進ンテ之ヲ裁判スヘキ職責ヲ有ス

○年齢ヲ認定スルハ承審官ノ職權ニ屬スルモノニシテ必スシモ戶籍ニ依テ定マルヘキモノニ非ス

○刑事裁判所ハ民事裁判所ニ於ケル破産宣告ヲ取消シ又ハ其宣告ヲ受ケタル者ヲ破産者ニ非スト判定スルノ權ナシ

○是非ノ辨別有無ハ各所爲ニ付キ之ヲ判定スヘキモノトス

二九	二九	二九	二九	三〇	三〇	三二	三三	三三
五	五	六	七	九	一〇	二	一	一
二	三	四	四	三六	一六	八五	三	六四

ヘキモノトス

○犯罪行為ニ依リ人ヲ死ニ致シタルトキハ其葬式費用ハ犯罪ヨリ生スル直接ノ損害ナルヲ以テ加害者ニ於テ賠償ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス

(同案旨)

意思ノ有無ヲ問ハス人ヲ死ニ致シタルトキハ致死者又ハ其民事擔當人ハ之カ葬式費用ノ賠償ヲ免カレルコトヲ得ス

○誹毀ノ所爲ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタル者ハ其名譽回復ノ方法ニ要スル費用ハ犯罪ニ因テ生シタル損害トシテ之ヲ請求スルノ權ヲ有ス而シテ加害者ハ當然其賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

○私訴請求ノ金額ヲ査定スルハ裁判官ノ職權ニ屬ス

○假差押ノ金圓ハ被差押人ノ所有ニ屬ス而シテ執達吏カ其假差押ニ係ル金圓ヲ占有スルハ職務上之ヲ監守スルニ外ナラス從テ其監守中竊取ノ所爲アルトキハ所有者ニ對シ損害ヲ加ヘタルモノニシテ賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス

○他人ヨリ委託セラレタル物品ヲ運搬スルニ當リ運搬人ノ撰擇宜シキヲ失シ爲メニ物品ヲ紛失シタルトキハ受託者ハ所有主ニ對シ賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス

○鑑定書ニ記載セラレタル事項ノ果シテ明確ナリヤ否ヤノ判斷ハ事實承審官ノ職權ニ屬ス

○甲者犯罪ニ因テ乙者ノ不動産ヲ自己ノ所有名義ニ變更シ之ヲ丙者ニ賣渡シタリ此場合ニ於テ乙者ハ犯罪者タル甲者ヲ經由スルコトナク現所有者タル丙者ニ對シ直接ニ所有名義書換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(同案旨)

贓物犯人ノ手裡ニ存在セザルトキハ犯人ニ關セス直ニ其贓物ヲ受取りタル第三者ニ對シ返還ノ私訴ヲ提起スルコトヲ得

贓物轉轉シテ他人ノ手ニ在ルトキハ其現時ノ占有者ニ對シ被害者之カ返還ヲ要求スルコトヲ得ルハ勿論ナルモ過去ノ占有者ニ對シテハ其要求ヲ爲スノ權利ヲ有セス何トナレハ被害者ト過去ノ占有者トノ間ニハ人權上ノ關係ナキノミナラス復タ物權上ノ關係ヲ有セザレハナリ贓物返還ノ請求ハ現占有者ニ對シ之ヲ爲スヘキモノトス
偽造證書ニ依リテ賣買セラレタル不動産ハ贓物ナリ而シテ既ニ贓物タル以上ハ其取得者ノ誰タルヲ問ハス現存スル所ヲ追跡シテ其還給ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス

○民事原告人私訴トシテ或ル實物ノ返還ヲ請求シ若シ實物存在セザルトキハ金圓ノ賠償ヲ請求スル旨ノ申立ヲ爲スモ不確定ノ請求ヲナシタルモノト云フヲ得ス

二七	二九	二四	二九	二九	二九
一〇	一	一	七	九	九
三五〇	七三	七六	一一一	七五	七五

二九	二七	二六	二九	二九	二九
一〇	六	一	二	九	六
三	三四六	一八	七九	一〇〇	一三

- 過失殺ヨリ直接ニ生シタル費用ハ被告人ヲシテ賠償セシムヘキモノトス
- 不法行爲ニ原因スル損害賠償ノ債權ハ損害ノアリタルトキヨリ發生ス從テ其當時ヨリ利子ヲ生ス
- 民事原告人ノ私訴ヲ裁判スルニ當リテハ民法ノ法則ニ遵據スヘキモノニシテ公訴判決ノ理由ニ拘束セラルヘキモノニ非ス
- 借主ノ故意若クハ過失ニ原因セサル借用物ノ喪失毀損ニ關スル賠償ノ責任ハ特約アルニ非サレハ借主ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノニ非ス
- 不法ノ契約ハ法律ノ保護ヲ受クヘキモノニ非スト雖モ其契約ヲ假裝シテ之ヲ欺罔ノ手段トナシ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ犯罪ナリ從テ之カ爲メニ生シタル損害ハ賠償ノ責アリ
- 公訴判決ニ於テ犯罪事實ノ明瞭ナラサル場合ト雖モ私訴ニ付テハ請求ノ多寡ニ拘ラス本案ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス
- 公正證書ハ契約ノ成立ニ付テハ完全ナル證據力ヲ有スルモ其事項ノ眞否ハ裁判所ニ於テ自由ニ之ヲ判斷ス

(同左)

公正證書ニ記載シタル事實ノ眞偽ヲ認定スルハ裁判所ノ職權ニ屬ス

三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
六	六	六	六	六	六	六
五九	五九	五九	五九	五九	五九	五九

- 村長ニシテ徵收シタル縣稅ヲ竊取シタルトキハ村ハ之ヲ辨償スルノ義務アリ
- 民事原告人ノ檢事廷ニ出頭シタルハ任意ニ出ツルトキト雖モ其出頭ニシテ公訴被告人ノ犯罪行爲ニ基ク場合ナルトキハ因テ生シタル損害ハ公訴被告人ニ於テ之ヲ賠償セサルヘカラス
- 公訴ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケ既ニ確定シタル事實ヲ犯罪ナリトシテ損害ノ賠償ヲ命シタル判決ハ不法ナリ
- 誣告ノ爲メ刑事被告人トナリタル者カ辯護人ニ支拂ヒタル辯護料ハ誣告罪ニ因リテ生シタル損害ニ外ナラス
- 誣告ノ爲メ第一審ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケ名譽ヲ毀損セラレタル場合ニ於テハ被誣告人ハ名譽回復ニ要スル費用ヲ請求スルコトヲ得
- 被告事件罪トナラサル場合ニ於テモ私訴ニ對シテ判決ヲ爲スヘキモノト定メタル以上ハ法律上私訴ニ付テハ原因ノ變更ヲ許シタルモノトス
- 私訴ノ原因ノ變更ハ公訴ノ取調ニ依リテ生スヘキモノナレハ特ニ民事原告人ヨリ變更ノ申立ヲ爲ササルモ裁判所ハ直チニ判決ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス
- 登録稅ノ收入ヲ終リタル登記印紙ト雖モ再ヒ之ヲ貼用シテ消印ヲ爲サ

三	三	三	三	三	三	三
五	五	五	五	五	五	五
四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二

サル以前ニ在リテハ依然額面ノ價值ヲ有ス從テ之ヲ竊取セラレタルト
 キハ同價額ノ損害ヲ受ケタルモノトス
 ○刑事裁判所ハ私訴ノ原因ヲ變更シテ犯罪タラサル事實ニ基キ裁判スル
 コトヲ得

(同主旨)

私訴ニ付テハ訴ノ原因ヲ變更スルヲ許ササルノ規定ナシ

- 誹毀事件ノ民事原告人カ廣告文ノ始ニ掲クヘキ廣告ナル文字ノ上ニ謝罪ノ二字ヲ冠スヘキ旨ヲ請求シタルコトナキ場合ニ謝罪廣告ト題シテ廣告スヘキコトヲ言渡スハ請求以外ニ涉リタル不法ノ判決ナリ
- 商標主カ商標侵害ノ犯罪ヲ原因ト爲シ損害賠償ノ私訴ヲ提起シタル場合ニ裁判所カ被告ニ商標公報ノ公示ヲ知ラサル過失アリトシ損害ノ賠償ヲ命スルモ之ヲ以テ請求ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス
- 數名ノ被告人ニ對シ連帶シテ贓物ヲ返還スヘキ旨ノ請求アリタル場合ト雖モ裁判所カ其事實關係ヲ以テ各自單獨ノ犯罪行爲ト認メタル以上ハ各被告人ニ對シ全部義務ノ履行ヲ命スルモ不法ニ非ス
- 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ト雖モ裁判所ハ尙ホ私訴ニ付キ裁判ヲ爲ササルヘカラス從テ裁判所ハ常ニ實體上ヨリ當事者相互間ノ權利

三四	九	七四
三六	六〇七	
三三	四	八五
三六	七三九	
三九	七二〇	
四〇	六七七	

關係ヲ審判シ民事原告人ニ訴ノ目的タル損害賠償其他ノ給付ヲ請求スルノ權利アリヤ否ヤヲ根本的ニ確定スヘキモノトス
 (同主旨)

犯罪ノ證據充分ナラスシテ無罪ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テモ民事原告人ノ請求ニ對シテハ本案ノ判決ヲ爲ササルヘカラス判決ヲ以テ私訴ヲ棄却スヘキモノニ非ス然ルニ第一審裁判所カ此場合ニ於テ無罪ノ言渡アル以上ハ私訴ニ就テハ犯罪ニ因テ生シタル被害ト認メ難シトシテ之ヲ棄却シ本案ノ判決ヲ爲ササルトキハ控訴院ハ之ヲ取消シ其事件ヲ其裁判所ニ差戻スヘキモノトス
 公訴ニ附帶シテ私訴ノ提起アリタルトキハ其公訴ニ係ル犯罪ノ有無ニ拘ラス私訴ニ對シ必ス相當ノ判決ヲ爲スヘキモノトス
 私訴ハ公訴ニ附帶シテ提起スルコトヲ得ヘキモノニシテ公訴以外單獨ニ其提起ヲ許サス然レトモ既ニ公訴ニ附帶シテ其提起アル以上ハ公訴ト運命ヲ同フスヘキモノニ非ス
 公訴ニ附帶シテ私訴ノ提起アリタルトキハ公訴ノ原因ニ變更チ來シタル場合ト雖モ私訴ニ付テハ相當ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス
 犯罪ノ證據十分ナラサル場合ト雖モ私訴ニ關スル請求權ノ有無ハ之ヲ裁判セサルヘカラス私訴提起ノ當時ニ於テ犯罪ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ目的トシタルモノナルトキハ縱令公訴ニ付無罪ノ言渡ヲナスモ私訴ノ適法ナルコトヲ認メタルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ相當ノ裁判ヲナスヘキモノトス
 公訴ニ附帶シテ被告人ノ犯罪行爲ヲ原因トシテ刑事裁判所ニ私訴ノ提起アリタル場合ニ裁判所ハ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキト雖モ此一事ヲ以テ私訴ノ請求ヲ理由ナシトシ直ニ

四〇	一三五八	
三六	二	一七四
二九	四	四七
二九	八	八七
三二	四	三五
三一	一一	五一
三三	四	八四

之ヲ却下スルヲ得ス從テ裁判所ハ私訴ヲ以テ主張シタル民事原告人ノ賠償又ハ返還ノ請求ハ民法上其理由アリヤ否ヤヲ審査シ其請求ノ當否ヲ判決セサルヘカラサルモノトス
公訴ニ附帶シ犯罪行為ヲ原因トシテ刑事裁判所ニ私訴ノ提起アリタル場合ニハ裁判所ハ公訴ニ付キ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキト雖モ此一事ヲ以テ直ニ私訴ノ請求ヲ却下スルコトヲ得ス
縱令原因ヲ變更スルモ依然私訴トシテ民法上其理由ノ有無ヲ審査シ請求ノ當否ヲ判決セサルヘカラサルモノトス

〔第二百二十六條〕

○被告人ニ於テ辯論ノ當日出廷シテ審理ヲ受ケタル以上ハ判決言渡ノ當日出廷セサルモ其判決ハ關席判決ニ非ス

(同至旨)

被告カ對審理ヲ受ケ辯論終結シタル上ハ裁判言渡ノ當日出廷セサルモ關席判決ヲ爲スヘキモノニ非ス故ニ裁判言渡シノ當日被告出廷セサルヨリ其辯護人ニ對シ對審裁判トシテ判決言渡ヲ爲シタルハ違法ニ非ス則チ關席裁判ニ關スル法條(刑訴二二六條、二〇七條)ノ規定ヲ適用セサルハ當然ナリ

○其代人公判ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽キ關席判決ヲ爲スヘシ(刑事訴訟法第二百二十六條)トノ法則ハ代人カ被告ニ代リテ公判廷ニ出頭セサリシトキハ被告ニ對シテ關席判決ヲ言渡スヘシトノ主旨ニ外ナラス從テ此法則アルカ爲メ故障ノ申立ヲ代人ニ許シタルモノ

三六 四三五

四〇 六七七

三三 二二五

二六 一五六

ト解釋スルヲ得ス

○裁判長ニ於テ民事訴訟上國ヲ代表スル檢事ニ對シ一般民事原告人ノ席ニ著キタル上陳述スルニ非サレハ民事原告人ノ陳述トシテ聽許セサル旨ノ宣言ヲナシタルニ拘ハラズ民事原告人タル檢事ニ於テ其宣言ニ從ハスシテナシタル陳述ハ民事原告人ノ陳述トシテ效力ナキモノトス從テ之ヲ以テ期日ニ出頭セサルモノト看做シ關席判決ヲ與ヘタル裁判ハ相當ナリ

〔第二百二十七條〕

○刑事訴訟法第二百二十七條ハ被告本人ヲシテ事件カ某裁判所ノ公判ニ付セラレタルコトヲ確知セシムルノ旨趣ナリトス從テ控訴裁判所カ關席判決ヲ爲スニハ豫審終結決定書ノ本人送達アリタルトキト雖モ更ニ呼出狀ノ本人送達ヲ爲シタルコトヲ要ス而シテ被告カ第二審ノ公判ニ付セラレタルコトヲ確知セル場合ニ於テハ特ニ其必要ナシ

〔第二百二十八條〕

○權義ノ基本タル證書カ刑事裁判所ニ於テ偽造ノ判決ヲ爲シ確定シタルトキハ民事裁判所ハ此證書ニ依テ債務者ノ義務ヲ認ムルコトヲ得ス然レトモ刑事ノ判決關席判決ナルトキハ未確定ナルヲ以テ民事裁判所ニ

三五 三九

三〇 二七

三五 五五

於テ該判決ニ依ラサルモ不法ニ非ス

○闕席判決ハ故障ニ依リ不服ヲ申立ルヲ以テ一般ノ原則トス從テ故障ヲ爲サスシテ直チニ上告ヲ爲スヲ許サス但控訴ノ場合ハ此限ニ在ラス

○故障ハ上訴ニ非サルヲ以テ(刑法第五十一條ニ關シ)故障ニ要シタル日時ハ刑期計算ニ入ルヘキモノニ非ス

○其代人公判ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽キ闕席判決ヲ爲スヘシ(刑事訴訟法第二百二十六條)トノ法則ハ代人カ被告ニ代リテ公判廷ニ出頭セサリシトキハ被告ニ對シテ闕席判決ヲ言渡スヘシトノ主旨ニ外ナラス從テ此法則アルカ爲メ故障ノ申立ヲ代人ニ許シタルモノト解釋スルヲ得ス

〔第二百二十九條〕

○刑ノ言渡ヲ受ケタル判決ニ對スル控訴ノ棄却セラレタル場合ニ於テハ其對審タルト闕席タルトヲ問ハス刑ノ言渡ヲ是認シタルモノナレハ該判決ハ刑事訴訟法第二百二十九條ニ所謂刑ヲ言渡シタル判決ナリ

○刑事訴訟法第二百二十九條後段ノ規定ハ闕席判決ニ依リ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ自ラ判決ノ送達ヲ受クルカ又ハ判決執行ニ依リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル場合ニ非サレハ縱令被告人ニ於テ他ノ原

二四 一 二〇二

二六 三 四〇

三〇 九 二四

三五 三 九

三三 二 四

由ニ依リ闕席判決アリタルコトヲ知ルモ故障申立ノ期間ヲ進行セシメストノ旨趣ニシテ被告人自ラ判決ノ送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ依リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル場合ニ非サレハ故障申立ノ權ナシトノ法意ニ非ス

(同主旨)

刑事訴訟法第二百二十九條末段ノ規定ハ被告人自ラ受ケタル送達又ハ判決ノ執行以外ノ原由ニ因リ闕席判決アリタルコトヲ知ルモ故障申立ノ期間ヲ進行セシメス

刑事訴訟法第二百二十九條末段ノ規定ハ被告人自ラ受ケタル送達又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル場合ニ非サレハ故障申立ノ權ナシト云フニ非ス

刑事訴訟法第二百二十九條末段ノ規定ハ闕席判決ニ依リ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ自ラ其判決ノ送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル場合ニ非サレハ故障申立ノ期間ヲ進行セシメストノ法意ニシテ右ノ場合ニ非サレハ故障申立ノ權ナシトノ旨趣ニ非ス

○故障申立ノ始期ニ付テハ法律上毫モ限定スル所ナキヲ以テ苟クモ闕席判決ノ言渡アリタル以上ハ其送達ヲ竣タスシテ直ニ故障ノ申立ヲ爲シ得ルモノトス

(同主旨)

刑事訴訟法第二百二十九條前段ノ規定ハ私訴ノ闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シ其送達ナキ以上ハ縱令其者カ他ノ原由ニ由リ闕席判決アリタルコトヲ知ルモ故障申立ノ期間ヲ進行セシメス

三七 八八六

三二 六 三九

三〇 九 七四

三〇 九 七四

三三 三 七二

第二百三十二條

トノ法意ニシテ其送達アリタル場合ニ非サレハ故障申立ノ權ナシトシタルモノニ非ス

『第二百三十二條』

- 闕席判決原本ノ有無ヲ以テ故障ノ受理不受理ヲ判スヘキモノニ非ス
- 闕席判決ヲ受ケタル者ニシテ刑ノ期滿免除ヲ得タルトキハ之ト同時ニ故障申立ノ權ヲ失フモノトス

(同三三)

刑法第六十一條二期滿免除ハ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算ス云云闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ストアリ然ラハ其闕席判決ヲ受ケタル日ヨリ同法第五十九條ニ規定スル年限ヲ經過シタルニ於テハ其闕席判決ハ確定シ己二期滿免除ヲ得タルモノニ付キ其闕席判決ヲ受ケタル者ヨリ故障ノ申立ヲ爲スモ之ヲ受理スヘキモノニ非サルナリ

- 被告人カ故障申立ノ書面中ニ闕席判決ヲ爲シタル裁判所ヲ記載セルニ止マリ之ヲ其裁判所宛ト爲ササルトキ若クハ全ク其裁判所ノ表示ヲ缺クトキト雖モ書面ノ記載ニ徴シテ故障ノ申立ナルコトヲ認ムルニ足ル場合ニ於テハ無効ナリト云フヲ得ス

第二百三十三條

『第二百三十三條』

- 故障ヲ適法トシテ受理シタル以上ハ前闕席判決ハ當然消滅ニ歸ス從テ更ニ其判決ヲ爲スニ方リ前闕席判決ヲ廢棄スルノ要ナシ

(同三三)

三五	二九	三七	二六	三七	二六
九	五				
一五	五五	二八九	二二〇	九二〇	二五

闕席判決ハ故障ノ受理ニ依リテ消滅ス(同一判例二九年三卷七七頁)

- 故障ハ一旦之ヲ受理シタル以上ハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘキモノトス從テ被告ニシテ故障ノ申立ヲ取消シタル場合ト雖モ裁判所ノ審理權ヲ妨クルモノニ非ス
- 闕席判決ニ對シ適法ナル故障ノ申立アリタルトキハ其判決ハ當然消滅ス從テ故障後ノ判決主文ニハ闕席判決ヲ廢棄ストノ宣言ヲ爲スヘキモノニ非ス
- 一旦故障ノ申立アリタルニ裁判所カ其取下ヲ聽許シタルハ不法ナリトスルモ訴訟記録中裁判所カ故障ノ申立ヲ受理シタル事蹟ノ見ルヘキモノナキ以上ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
- 再度ノ闕席判決ニ對シ故障ノ申立ヲ許ササル法則(刑事訴訟法第二百三十三條第二項)ハ故障ノ申立ヲ受理シ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ本案ノ辯論ヲ開始セサル前故障申立人ノ闕席シタルトキニ限ル

第三章 地方裁判所公判

第二百三十五條

『第二百三十五條』

刑事訴訟法 公判 地方裁判所公判

三〇	三六	三六	三五	三六	三一
二			九		一
六七	九二	五七九	二		二

○ 検事カ同時ニ豫審ヲ求メタル事件ト雖モ豫審終結決定ヲ以テ公判ニ付セラレサル以上ハ實質上ノ一罪トシテ處分スヘキ犯罪行為ヲ除ク外公判判事ハ之カ裁判ヲ爲スノ權限ナキモノトス

【第二百三十七條】

○ 重罪事件ノ公判ヲ開廷スルニ當リテハ控訴ノ成立セシト否トニ拘ハラズ渾テ刑事訴訟法第二百三十七條ノ法則ヲ履踐シ公判前裁判長又ハ受命判事ニ於テ一應被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選定シタリヤ否ヲ問フヘキモノトス

○ 重罪事件ノ公判ニ於テハ其辯護人ハ開廷ノ初ヨリ立會フコトヲ要ス
○ 重罪事件ニ付キ被告數名ニ對シ一名ノ辯護人ヲ選定スルモ不法ニ非ス
○ 公判下調調書ニハ被告人ニ於テ身體ノ拘束ヲ受ケスシテ出廷シタル旨ヲ記載スルヲ要セス

○ 受命判事ノ訊問調書ニ刑事第二部休暇第二部ト記載シ何レノ部ニ於テ訊問シタルヤ判明セサルモ爲メニ其調書全體ヲ無効ニ歸セシムヘキモノニ非ス

○ 重罪事件ノ下調調書ニ付テハ被告人ニ之ヲ讀聞ケ署名捺印セシムヘシトノ規定ナシ

三九	二九	三〇	三〇	三二	三三
一三三	八九	一〇	一〇	二	八
三三	三七	七八	七	七	三
三六	三五	六五	四五	四五	三五

（同主旨）

刑事訴訟法第二百三十七條ニハ被告人ニ讀聞ケ署名捺印セシムルノ法規ナキノミナラス同條ニ從ヒ作ルヘキ調書ハ豫審調書ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ同法第九十五條ノ式ヲ履行セサルモ違法ニ非ス

重罪公判ノ下調調書ニハ被告人ノ署名捺印アルヲ必要トセス

○ 重罪事件下調ノ受命判事ノ報告ハ必スシモ書面ヲ以テスルヲ要セス

○ 重罪事件下調訊問調書ニハ判事ノ署名捺印ヲ必要トセス

○ 詐欺取財ヲ爲スニ因テ公文書ヲ偽造行使シタルトノ公訴事實ナリトスルモ第一審ニ於テ公文書偽造行使ノ點ニ對シ無罪ヲ言渡シ第二審ニ繋屬スルモノハ被告ノ控訴ニ係ル委託金費消ノ點ノミナル場合ニ於テハ第二審裁判所ハ重罪事件トシテ審理スヘキモノニ非ス

○ 重罪事件トシテ豫審ヲ終結シタルモノナルモ第一審ニ於テ輕罪トシテ判決シタルカ爲メ特ニ下調ヲ爲スノ要ナキ事件ニ對シ下調ヲ爲シタリトテ之ヲ不法ナリト云フヲ得ス

○ 刑事訴訟法第二百三十七條ニハ受命判事ヲ部員ニ限ルヘキ旨ノ規定アルコトナシ從テ重罪事件ノ下調ヲ爲シタル受命判事カ判決裁判所ヲ構成シタル部員ニ非サルモ不法ニ非ス

（同主旨）

二七	三〇	三〇	三三	三五	三六
二〇三	一〇	一〇	二	一〇	一三
三三	一〇	一〇	二	七九	九五
三六	一〇	一〇	二	七九	九五
三六	一〇	一〇	二	七九	九五
三六	一〇	一〇	二	七九	九五

下調ヲ爲シタル受命判事公判廷ニ立會ハサルモ裁判ノ構成ニ瑕瑾アリト云フヲ得ス
 重罪公判ノ下調ハ其事件ヲ裁判スル裁判長又ハ受命判事ニ於テ爲スヘキモノトス然レトモ其
 判事ニシテ疾病事故アリテ公判ニ參座スルコト能ハサルカ爲メ他ノ判事之ニ代リテ參座スル
 コトアルモ其下調ハ不法ニ非ス
 重罪事件ノ公判下調ハ公判開廷前ノ手續ナリ從テ公判中判事ニ異動アリシ爲メ審理ヲ更新ス
 ルモ下調ノ手續ヲ更新スルヲ要セス
 重罪事件ノ下調ハ必スモ其事件ノ判決ニ干與シタル判事ニ於テ之ヲ爲スヲ要セス其下調ヲ
 爲シタル當時ニ於ケル裁判長若クハ受命判事ニ於テ爲スヲ以テ足ル

- 受命判事トハ裁判所ノ部員ニシテ裁判長ヨリ或事項ノ取調ヲ命セラレ
 タル判事ノ謂ナリトス從テ刑事訴訟法第二百三十七條ニ所謂受命判事
 モ亦其事件ヲ裁判スヘキ裁判所ノ部員ナラサルヘカラス
- 重罪事件ノ下調ハ公判ノ準備手續ニシテ公判ノ一部ヲ爲スモノニ非ス
 從テ爾後部員ニ變更ヲ生シ其下調ヲ爲シタル判事カ公判及ヒ判決ニ干
 與セサリシトテ之カ爲メ既ニ有效ニ成立シタル下調ノ無効ニ歸スヘキ
 謂レナシトス
- 重罪事件ノ下調調書ニハ公判始末書ニ於ケルカ如ク一切ノ手續ヲ記載
 スヘキモノニ非サレハ該調書ニ被告人カ拘束ヲ受ケサル旨ノ記載ナキ
 ヲ以テ直ニ拘束ヲ受ケタルモノト爲スコトヲ得ス

二六	二	二七六
三〇	一〇	一〇
三二	一〇	三五
三四	九	六四
三六		二七四
三七		四四七

- 重罪事件ニ於テ第一回ノ公判開廷後始メテ下調ヲ爲シ爾後公判ノ手續
 ヲ更新スルコトナク引續キ審理ヲ遂ケタルトキハ重要ナル訴訟手續ニ
 違背セルモノニシテ其手續ニ基キタル判決ハ違法ナリ
- 重罪事件ノ下調ハ各被告人別個ニ之ヲ爲スヘシトノ規定ナシ故ニ共犯
 者ヲ同一ノ法廷ニ於テ訊問シ其問答ヲ同一ノ調書ニ記載スルモ不法ニ
 非ス

- 刑事訴訟法第二百三十七條所定ノ訊問ハ公判準備ノ爲メニスルモノナ
 レハ其準備ニ必要ナル程度ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ足レリトス而シテ其
 程度ハ裁判長又ハ受命判事ノ定ムヘキ所ナリ
- 刑事訴訟法第二百三十七條ニハ書記ハ重罪事件ノ下調ニ付キ調書ヲ作
 ルヘキ旨ノ規定アルモ供述者ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘキ規定ナシ
 從テ該調書ニ供述者ノ署名捺印ナキモ違法ニ非ス
- 重罪事件ノ下調手續ノ遺漏ハ公判手續ヲ無効ナラシメ且其手續ニ基キ
 テ宣告セラレタル判決ヲ違法ナラシムルモノトス
- 公訴裁判所ニ繫屬スル被告事件カ刑事訴訟法第二百三十七條ノ意義ニ
 於テ重罪事件ナルヤ否ヤハ公訴ノ目的タル被告ノ犯罪行爲カ重罪ヲ構
 成スルヤ否ヤニ依リテ定マルヘキモノニシテ被告カ重罪ノ刑ニ處セラ

三七	五	五四
三七		二四五
三七		二二六
三六		三六〇
三六		五九五

レタルヤ否ヤニ據リテ定マルヘキモノニ非ス
○重罪公判ニ付スル豫審終結決定ノ抗告期間内ニ於テ公判ノ豫備訊問ヲ爲スハ違法ニ非ス

○豫審判事カ輕罪公判ニ付スルノ決定ヲ爲シタル事件ト雖モ第一審裁判所ニ於テ檢事ヨリ更ニ之ヲ重罪ナリトシテ訴追シタル以上ハ其事件ハ重罪事件トシテ裁判所ニ擊屬セルモノトス從テ第一審裁判所カ被告人ノ所爲ヲ輕罪ナリト判決スルモ第二審裁判所ハ之ヲ重罪事件トシテ取調ヘサルヘカラス

○辯護人ハ官選ニ係ルモノト雖モ裁判所構成員ニ非ス

○官選辯護人ニハ代理ヲ許サストスルノ理ナキカ故ニ辯護士ニシテ辯論ニ與ル者アル以上ハ被選任者タルト其代理人タルトヲ問ハス重罪事件ノ裁判手續ヲ踐行シタルモノトス

○重罪事件ニ付キ裁判長カ辯護人ヲ選定シタル後被告人ニ於テ辯護人ヲ自選スルモ之カ爲メニ官選辯護人ノ辯護權ハ當然消滅スヘキモノニ非ス

○被告ノ官選辯護人カ期日ヲ懈怠シタル場合ト雖モ被告自選ノ辯護人出廷シテ審理ヲ結了セル以上ハ其公判ヲ目シテ不合法ニ行ハレタルモノ

三六	三五	四〇	三七	三七	四〇	三六
五九五	二〇一	二二	二〇	八九	二三〇	八八

ト云フヲ得ス

(參照)

自首減輕ニ依リ輕罪ノ刑ニ處セラルルモ罪質重罪ナル上ハ重罪事件ノ手續ヲ履踐シテ審判スヘキモノトス

裁判上重罪輕罪ヲ區別スルハ罪質ニ依ル

第二百三十八條

○刑事訴訟法第二百六十四條及ヒ同第二百三十八條ノ場合ニ非スシテ計算調ノ如キ場合ニ於テ控訴院カ公判開廷ノ上其公判ヲ止メ受命判事ヲシテ被告及ヒ參考人等ヲ訊問シテ調書ヲ作り報告ヲ爲サシメタルハ違法ノ處分ナリ

○裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトシ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲スコトヲ許シタル以上(刑事訴訟法第二百三十八條)ハ其臨檢處分ノ必要上證人ヲ訊問スルハ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百三十八條ノ場合ニ於テハ受命判事ハ臨檢ノ上證人ヲ訊問シ鑑定ヲ爲サシメ若クハ證據物ヲ差押フル等必要ナル處分ヲ爲シ得ヘキモノトス從テ公判始末書ニ特ニ右等證據調ノ決定ヲ爲シタル旨ノ記載ナキモ之カ爲メニ受命判事ノ爲シタル處分ヲ不法ナリト云フヲ

三九	二九	二九	三五	二六	二六	三九
一三七	二六	二六	二六	二六	二六	二六

得ス

○實地臨檢ノ場所ニ於テ證人ヲ訊問シ鑑定ヲ命スルカ如キハ臨檢處分上必要ノ行爲ナルヲ以テ其證據調ハ臨檢ノ決定中ニ包含スルモノトス從テ受命判事カ臨檢ノ場所ニ於テ證人ヲ訊問シタルハ不法ニ非ス

○公判裁判所ハ受命判事ヲシテ檢證處分ヲ爲サシムルコトヲ得故ニ檢證ノ場所ニ於テ鑑定又ハ證人訊問ヲ必要トスル場合ニハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルモ違法ニ非ス

(同主旨)

裁判所ハ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得ルト同時ニ臨檢ノ場所ニ於テ證人又ハ參考人ノ訊問ヲ必要トスルトキハ受命判事ヲシテ其訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

○當該裁判官全部カ臨檢處分ヲ爲スハ受命判事之ヲ行フ場合ト同シク公判ニ於ケル證據調ノ準備手續タルニ過キサレハ公判審理ノ手續規定ヲ履踐スルノ要ナキモノトス

『第二百三十九條』

(第二百三十九條)

○裁判所ニ於テハ被告人其罪ヲ自白シタルトキト雖モ仍ホ證據ヲ取調ヘサルヘカラス(刑事訴訟法第二百二十九條)トノ法則ハ裁判所ノ審理手續ヲ規定シタルニ止マリ證據ノ取捨ニ關スル裁判所ノ職權ヲ制限シタ

ルモノニ非ス從テ事實裁判所ハ被告人ノ自白ノミヲ採テ犯罪事實ヲ認定スルモ不法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百二十九條ノ規定ハ被告人カ公訴ノ原因タル犯罪事實ヲ自白セル場合ト雖モ尙ホ證據ヲ取調フヘキ旨ヲ命シタルニ過キスシテ前科其他ノ事實ニ關シ既ニ被告人ノ自白アルニ拘ハラズ仍ホ他ノ證據ヲ取調フルコトヲ命スルノ趣意ニ非ス

(同主旨)

事實裁判所ハ被告人ノ自白ノミニ依據シ他ノ證據ヲ取調ヘスシテ審理ヲ終結スルコトヲ得ス(刑事訴訟法第二百二十九條)ト雖モ公訴ニ係ル犯罪ノ成立ニ關セサル前科ノ如キハ被告ニ於テ之ヲ自白シ裁判所カ其自白ノ信憑ヲ得ヘキモノナルコトヲ認メタル以上ハ他ノ證據ヲ取調フルノ職責ナシトス

『第二百四十一條』

(第二百四十一條)

○刑事訴訟法第二百四十一條ノ場合ニ於テ輕罪ナリトシテ受理シタル裁判所カ之ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事カ更ニ重罪ナリトシテ訴追スルコトヲ申立タルトキハ法律上當然重罪公判ノ手續ニ從テ審判セサルヘカラス

○強盜罪ヲ構成スルモノト思料スルヲ以テ地方裁判所刑事部ニ移付ストノ支部ノ決定ハ事件移付ノ決定ニ過キス從テ重罪事件トシテ裁判スヘ

三六 五三六

三六 一五五八

三九 二三八

三五 七 六一

四〇 六三五

三五 三 二八

三九 七六〇

三五 四 二二一

三六 四〇五

キ旨ノ決定ナリト云フヲ得ス

○受命判事ノ證人訊問ハ之ヲ被告人及ヒ辯護人ニ通知シ及ヒ立會ハシムルコトヲ必要トセス

○地方裁判所カ支部ノ移送ヲ受ケタル事件ニ付キ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲サスシテ直ニ受命判事ヲシテ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシメタルハ訴訟手續ヲ誤リタルモノトス然レトモ之カ爲メ檢事ノ提起シタル公訴ニ何等ノ影響ナキヲ以テ控訴裁判所ハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スノ要ナシ

○刑事訴訟法第二百四十一條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ受命判事ヨリ適法ナル報告ヲ受ケタル後ニ非サレハ中止セル公判ノ審理ヲ續行シ得サルモノトス從テ其報告ナキニ拘ハラス審理ヲ續行スルトキハ該手續ニ於ケル證據調其他裁判所ノ行爲ハ總テ無効ニ歸スヘシ

第五編 上訴

第一章 通則

(民)

○刑事附帶ノ私訴ハ刑事裁判所ニ上告スルモノトス

○檢事被告事件ヲ陳述スヘシトノ規定ハ上訴ノ場合ニ適用スヘキモノニ

非ス

○上訴ハ訴訟關係人各自ノ利益ノ爲メ前裁判ノ不當ヲ矯正スルコトヲ得セシムルノ旨趣ニ出テタルモノナレハ縱令前裁判ニ不當ノ點アルモ之カ矯正ヲ求ムルニ付キ利益ヲ有スル者ノ外上訴ヲ爲シ得サルモノトス

○上訴權ハ公益ニ關スルモノナレハ其發生前豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得サルモ既ニ發生シタル以上ハ隨意ニ拋棄シ得ルモノトス而シテ其明示タルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

○未成年者カ刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ニ關スル行爲ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

(民) ○被害者カ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ刑事裁判所ニ提起シ該裁判所ノ判決ヲ受ケタル以上ハ其判決ニ對スル上訴ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ之ヲ上級裁判所ノ刑事部ニ提起セサルヘカラス而シテ公訴判決ニ對シ上訴アルト否トハ固ヨリ問フ所ニ非ス

○一罪ヲ構成スヘキ所爲ノ一部ヲ有罪ト認メ他ノ部分ヲ無罪ト認メタル判決ニ對シ檢事又ハ被告人ヨリ上訴ヲ爲シタルトキハ公訴ニ係ル犯罪事實ノ全部上訴審ニ繫屬スルモノトス從テ上訴裁判所ハ公訴事實ノ全部ニ付キ審判ヲ爲ササルヘカラス

三五 八 七

三九 二四

三五 八 六七

三六 二三

二五 二 三

二六 二 五

三七 一四六

三八 八〇

三九 一三七

三九 三三六

四〇 六七二

○裁判所カ一罪ヲ構成スル所爲ヲ分割シ特ニ其一部ニ對シテ免訴又ハ無罪ノ裁判ヲ與ヘタル場合ニ在リテハ其判定ノ當否ニ拘ハラズ二箇獨立セル裁判ノ主文ヲ生シ甲主文ニ對スル上訴ハ之ヲ乙主文ニ及ホスコトヲ得ス從テ上訴裁判所ハ上訴人ヨリ攻撃セシ主文ニ關スル公訴事實ニ非サレハ之ヲ審判スルノ權ナシ

『第二百四十二條』

○民事原告人ノ代表者ニ指定シタル上ハ其訴訟委任ノ範圍ハ上訴ニ及フ
 ○懲治處分ハ裁判權ニ付セラレタル特別ノ處分ニシテ刑ヲ言渡シタル公訴判決ト其性質ヲ異ニス從テ該處分ニ對シテ上訴スルヲ得ス
 ○被告ハ公訴不受理ノ判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
 ○前審ニ於テ單ニ被告ノ代理人ト爲リタル者ハ被告ニ代リテ上訴ヲ爲スノ權限ヲ有セス

(同旨)

第一審ノ訴訟行爲ノミチ委任セラレタル代人ハ上訴提起ノ權限ヲ有セス從テ其代人ノ提出シタル控訴申立書ハ無効ナリ
 刑事訴訟法ハ代人ヲ以テ上訴ヲ爲スコトヲ許ササルヲ以テ定則トス故ニ縱令罰金刑ニ處セラレタル場合ト雖モ上訴ノ申立ハ特ニ之ヲ許スノ明文ナキヲ以テ代理人ニ依リテ爲サレタル控訴ノ申立ハ不適法ナリ

四〇	二九	三三	三三	三三	二九	四〇
六七二	一五〇	二七〇	九七	二四〇六	九六	一七

(第二百四十三條)

○檢事局ノ事務分配上上訴ハ檢事正ノ名ヲ以テ之ヲ爲スヘキコトヲ定メタル場合ニ在テハ檢事正ノ缺員若クハ不在ノ時他ノ檢事カ其代理ノ名義ヲ以テ上訴ヲ申立ツルモ違法ニ非ス

『第二百四十二條』

○辯護人ノ上告申立ハ法定ノ期間内(三日)ナルモ既ニ被告人自ラ其前日上告申立ヲ爲シタルトキハ辯護人ノ資格ニ於テ獨立シテ再度申立ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ辯護人ノ申立ハ其效ナキモノトス故ニ此場合ニ在テ辯護人ノ上告申立ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ被告ノ趣意書差出シノ日ハ未タ法定ノ期間(五日)ヲ經過セサルモノト爲スコトヲ得ス
 ○辯護人ニシテ被告人ニ代リ控訴ノ申立ヲナスモ辯護届ヲ差出ササルトキハ公廷ニ召喚スルノ必要ナシ
 ○被告人及ヒ辯護人雙方ヨリ上告申立ヲナスモ辯護人ノ申立ニシテ被告人ノ明言シタル意思ニ反セサル限りハ二者毫モ抵觸スル所ナキヲ以テ

三四	三六	四〇	三〇	二六	三〇
一〇	四	二九〇	一一	二	五一
五九				七〇	

共ニ有效ナリトス從テ其申立ノ一ニシテ法定期間内ニ提出セラレ次テ被告人又ハ辯護人ヨリ上告趣意書ヲ差出シタルトキハ其上告ハ適法ニ成立シタルモノトス

(反對)

被告人自ラ上告ヲ爲シタルトキハ辯護人其依頼ヲ俟タズ獨立シテ之レカ上告ヲ爲スコトヲ得ス

辯護人ヨリ上告申立ヲ爲シタル後被告人ヨリ同シク上告申立ヲ爲シタルトキハ辯護人ノ上告申立ハ無効ニ歸ス從テ被告人ニ於テ定期内趣意書ヲ差出ササルトキハ縱令辯護人ヨリ趣意書ノ呈出ヲ爲スモ其上告ハ成立セス

○被告人並ニ辯護人ヨリ上訴ヲ爲シタルトキハ辯護人ノ上訴ハ被告ノ上訴ニ合併セラレ當然其中ニ包含セラルルモノトス從テ被告ノ控訴ニ對シテ審理判決ヲ爲シタル以上ハ辯護人ノ控訴ニ對シテモ亦審理判決ヲ爲シタルモノトス

○被告ニ代リテ爲シタル辯護人ノ上訴ハ被告ノ上訴トシテ被告事件ヲ上級審ニ繫屬セシムルニ止マリ獨立シタル辯護人ノ上訴トシテ特ニ上級審ノ審理判決ヲ受クルノ效力ヲ發生スルモノニ非ス從テ辯護人ノ控訴申立ニ對シテ單ニ被告ヨリ控訴申立ヲ爲シタルモノトシテ審理判決シタルハ相當ナリトス

三二	二	九
二五	三	九四
三〇	九	八八
三五	五	四二
三五	五	二六〇

(同主旨)

辯護人ハ獨立シテ上告ノ申立ヲ爲スノ權ナシ〔同一判例二八年五卷一〇六頁同年同卷一二五頁〕

辯護人ノ上訴ハ被告人ニ代リテナスモノニシテ辯護人ノ獨立シタル上訴ニ非ス

○被告人ハ公訴判決ノミニ對シテ控訴ヲ爲シ私訴判決ニ對シテハ辯護人ヨリ控訴ヲ爲シタル場合ニ被告人ニ於テ私訴判決ニ對シテ控訴ヲ申立テサル事實ノミニ依據シ辯護人ノ控訴ヲ以テ被告人ノ意思ニ反スルモノト爲シ不適法トシテ之ヲ棄却シタルハ不法ナリ

○刑事訴訟法ハ其第二百四十三條及ヒ第二百四十四條ヲ以テ特ニ規定シタルモノノ外代理人ニ依リテ上訴ヲ爲スコトヲ認許セス故ニ上告趣意書ト雖モ代理人ノ名義ヲ以テ提出シタルモノハ趣意書タルノ效ナシ

○刑事訴訟法ハ其第二百四十三條及ヒ第二百四十四條ヲ以テ特ニ規定シタル者ノ外代人ニ依リテ上訴ヲ爲スコトヲ認許セス故ニ代人ノ名義ヲ以テシタル上告申立ハ不適法ナリ

(同主旨)

罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ハ第一審第二審ニ限り代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘキモ第三審ニ於テハ辯護人及法律上代理人ノ外代人ヲシテ上告ヲ爲スコトヲ認許セス罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニ付テハ被告ハ第一、二審ニ於テハ代人ヲ差出スコトヲ得ヘキ

二六	三	四六
二五	二	四六
三六	五	五二
三七	七	九四五
三九	二	二二六
三二	三	四九

モ上告審ニ於テハ代人ヲ以テ上告ヲ爲スコトヲ認許シタル法條ナシ
刑事事件ニ付キ上訴ヲ爲スコトヲ得ルモノハ檢察其他訴訟關係人辯護人又ハ被告人ノ法律上
代理人ナリトス而シテ刑事訴訟法中罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ノ公判ニ付テハ被告人ハ代
理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ル旨ノ規定アルモ上訴ヲ爲スニ付キ代理人ヲシテ之ヲ爲サ
シムルヲ得ル旨ノ規定アルコトナシ

○刑事訴訟法第二百四十三條ノ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル辯護
人ハ原審ニ於テ被告事件ノ辯論ヲ爲シタル者ナルコトヲ要ス〔同一判
例三六年五六三頁〕

(同主旨)

被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ辯護人(刑事訴訟法第二百四十三條)ハ前審ニ於テ選
定セラレタルモノナルヲ要ス

第一審裁判所ニ於テ辯護人タリシ者ニ非サレハ被告人ニ代リテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

(第二百四十四條)

『第二百四十四條』

○法律上代理人ハ訴訟ニ關係シタル場合ナルト否トヲ問ハス上訴ヲ爲ス
コトヲ得然レトモ其上訴ハ一ノ代理行為ニ外ナラス從テ被告人ニ與ヘ
タル上訴期間經過後ハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○刑事訴訟法ハ其第二百四十三條及ヒ第二百四十四條ヲ以テ特ニ規定シ
タルモノノ外代理人ニ依リテ上訴ヲ爲スコトヲ認許セス故ニ上告趣意

三四六二九

三六一八〇四

三九一二六

三三二二二二

三三九三四

(第二百四十五條)

『第二百四十五條』

書ト雖モ代理人ノ名義ヲ以テ提出シタルモノハ趣意書タルノ効ナシ
○上訴ノ提起ハ期限内其申立書ヲ監獄署長ニ提出スルヲ以テ其效力ヲ生
ス

(同主旨)

監獄署長ハ被告人ノ代理者ト同視スヘキモノニ非サルヲ以テ被告人ニ於テ現ニ法律ノ規定ニ
從ヒ期間内上訴申立書ヲ監獄署長ニ差出シタル上ハ其後該署長ノ行為ニ依テ被告人ノ權利ヲ
失却スルモノニ非ス

○勾留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ監獄署長ニ差出スヘ
キ旨ノ規定(刑事訴訟法第二百四十五條)アルモ忌避ノ申請ニ付テハ其
規定アルコトナシ從テ忌避申請提起ノ效力ハ申請書カ裁判所ニ到達シ
タル時ニ生スルモノトス

○勾留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲ス場合ニ於ケル申立書提出ニ關スル法
則(刑事訴訟法第二百四十五條)ハ上告趣意書提出ノ場合ニ在リテモ仍
ホ適用セラルヘキモノナリトス從テ勾留ヲ受ケタル被告人ニシテ上告
申立ヲ爲シタルヨリ五日ノ期間内ニ上告趣意書ヲ監獄署長ニ差出シタ
ル以上ハ該趣意書ノ裁判所ニ到達シタルト否トニ拘ハラズ提出ノ效力

三七九四五

二九六二六

二七四九九

三五二四三

(第二百四十六條)

『第二百四十六條』

○控訴者判決前ニ控訴ヲ取下ケタルトキハ控訴期間外ニ爲シタル檢事ノ附帶控訴ハ成立セス

○上訴ノ取下ハ當事者ノ特權ニ屬シ一旦當事者ヨリ其取下ノ旨ヲ公言シタル上ハ當然其時ヨリ取下ノ效力ヲ生シ前ノ上訴申立ハ全ク無効ニ歸スルヲ以テ其後取下願ノ引戻願ヲ爲スト雖モ上訴權ハ業既ニ喪失シタル故ニ其引戻願ニ對シ書記誤テ允許ノ旨ヲ附記シタルモ喪失シタル上訴權ヲ回復スルコトヲ得ス

○甲控訴院檢事ノ職權ヲ以テ爲シタル附帶控訴ハ大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シ乙控訴院ニ移送シタル場合ニアリテモ依然トシテ其效ヲ有シ同院檢事ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ヘキモノニ非ス

○檢事ハ一旦提起シタル附帶公訴ヲ取消スコトヲ得ス
○數罪俱發ニ付キ刑法第百條ヲ適用セラレ其數罪中一ノ重キニ從ヒ處斷セラレタル場合ニ在リテハ其判決ハ常ニ不可分ノモノナリトス從テ之ニ對スル控訴ニ於テ其一罪ノミノ取下ハ許スヘカラサルモノトス
○控訴申立人カ公判以外ニ於テ書面ニ依リ控訴取下ノ意思ヲ表示シタル

三五 五 七一

二四 一 二四二

二五 二 五九

三〇 二 六

三五 一 二五

トキハ其書面カ當該裁判所ニ到達シタル時ヲ以テ該被告事件ハ當然控訴審ヲ離脱シ全ク終局ヲ告クルモノトス而シテ裁判所ヲ構成スル判事ノ全員カ其書面ヲ認知シタルヤ否ヤハ控訴取下ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

(同三三)

上訴ノ取下ハ取下書ノ裁判所ニ到達スルヲ以テ其效力ヲ生ス
控訴ノ取下ハ控訴取下書ノ控訴裁判所ニ到達シタル時ヲ以テ效力ヲ生スルモノトス

○控訴ノ取下ハ控訴權ノ拋棄ニ外ナラサレハ被告人ニ於テ一タヒ控訴ノ取下ヲ爲シタル以上ハ法定ノ控訴期間内ト雖モ之ヲ取消シ更ニ控訴權ヲ行フコトヲ得ス

○控訴ノ取下ハ控訴裁判所カ取下ノ事實ヲ知リタル時始メテ其效力ヲ生スルモノトス從テ被告人ヨリ控訴取下ノ書面ヲ監獄署ニ提出シ又ハ其書面カ控訴裁判所ノ檢事ニ到達シタルノミヲ以テ其效アリト謂フヲ得ス

(第二百四十八條)

『第二百四十八條』

○抗告者カ原裁判所ヘ爲シタル上告申立ハ尋常期間ヲ經過スルモ特別ノ場合ニ適スルトキハ原裁判所ハ之ヲ決定スル權ヲ有セス上訴ヲ裁判ス

三六 五九一

三六 三四九

三三 一〇 二六 五九

三七 四〇

可キ裁判所ニ於テ之ヲ決定スヘキモノトス

第二章 控訴

○第二審ハ覆審ヲ爲ス裁判所ナルヲ以テ第一審裁判所ノ認メタル罪名ニ拘束セラルルコトナク被告事件ノ事實中犯罪ヲ構成スヘシト認定シタル點ニ對シ事實及ヒ法律ニ依リ理由ヲ付シテ刑ヲ適用スヘク第一審裁判所ノ認定シタル犯罪ノ有無ヲ斷定スルニ止マルヘキモノニ非ス又第一審ト意見ヲ異ニスル場合ニ於テモ特ニ第一審判決ノ不當ナル理由ヲ明示スルヲ要セス

○二個ノ被告事件ニ付キ第一審裁判所ニ於テ各別ニ判決ヲ受ケ其二個ノ判決ニ對シ控訴アリタルトキハ第二審裁判所ハ併合シテ審理スルコトヲ得ヘシト雖モ此場合ニアリテハ數罪俱發例ニ照シ一ノ重キニ從テ處斷スヘク各罪各自ニ本刑ヲ科スルヲ得ス

○被告事件ノ控訴アリタルトキハ之ヲ覆審シテ更ニ相當ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス而シテ爭點ヲ判斷シ其理由ヲ明示スルノ必要ナシ

(同主旨)

訴ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ與ヘタルト法律ニ背キ受理スヘカラサル公訴ヲ受理シタルト

二五 一

二六 二四二

二九 五 六〇

二九 六 七五

ハ全然別個ノ事ナルカ故ニ檢事ヲ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ與ヘタルモノナリトノ申立ハ明カニ控訴ノ一理由ト爲シタルニ過キサル以上ハ控訴ハ第一審判決ノ全部ニ對シ覆審ヲ爲スモノナレハ其控訴ノ理由ニ付キ逐一之方當否ヲ判定スルコトヲ要セス

○一ノ犯罪カ數箇ノ所爲ヲ包含シ第一審裁判所ニ於テハ其所爲ノ全部ヲ認メ控訴審ニ於テハ其一部ノミヲ認メタル場合ハ控訴裁判所ハ其認メタル所爲ノ限度ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スヲ以テ足ル從テ其認メサル所爲ニ對シ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スノ要ナシ

○謀殺ノ目的ヲ以テ家宅ニ侵入シタリト一ノ公訴事實ニ對シ第一審裁判所ハ謀殺ノ點ハ豫備ニ止マリ未タ犯罪ヲ構成セストシテ無罪ヲ言渡シ家宅侵入ノ點ノミヲ處罰シタル爲メ被告ハ有罪ノ闕席判決ニ對シ故障ヲ申立テ檢事ハ無罪ノ點ニ對シ控訴ヲ申立テタル場合ニ於テ縱令檢事ノ控訴申立ハ謀殺未遂ノ罪ニ付キ云ト指示シ特ニ家宅侵入ニ付キ明言スル所ナキモ同一ノ公訴事實ナルヲ以テ控訴裁判所ハ公訴事實ノ全體ニ付キ審理スヘキモノトス而シテ第一審ニ於テ被告ノ故障ヲ受理シ審判ノ末言渡シタル判決カ檢事ノ控訴申立後ニアリトスルモ既ニ事件全體ニ對シ控訴アリタル以上ハ其判決ハ確定スヘキモノニ非ス

○第二審裁判所ハ控訴カ適法ニ成立シタルヤ否ヤヲ調査スル職責ヲ有ス

二六 二三五

三五 九 四七

三五 二 七七

從テ先ツ其成立如何ヲ調査シ有效ニ控訴ヲ爲シ得サル者ノ爲シタル控訴ハ第一審判決ノ當否如何ヲ問ハス直ニ之ヲ棄却スヘキモノトス

○適法ノ起訴ニ依リ被告事件ノ全部カ豫審終結決定ヲ以テ公判ニ付セラレタル以上ハ縱令其一部ニ付キ第一審ニ於テ判決ヲ遺脱スルモ該事件ニ付テ控訴ヲ受ケタル裁判所ハ其遺脱セシ一部ニ對シテモ亦判決ヲ爲ササルヘカラス

三五二 一八八

○甲者カ同時ニ乙丙二人ニ對シ森林竊盜ノ教唆ヲ爲シタル所爲ハ各箇獨立セル別事件ヲ成スモノニ非スシテ一事件ニ包含セララルモノトス故ニ檢事ニ於テ其乙者ニ對スル教唆ノ點ヲ舉ケテ控訴シタル以上ハ特ニ丙者ヲモ教唆シタルトノ點ヲ舉ケサリシトテ控訴裁判所ハ進ンテ之ヲ審判スルノ權ヲ失フモノニ非ス

三七 二七二

○詐欺取財ヲ爲スニ因リ私文書ヲ變造行使シタル場合ニ於テ既ニ私文書變造行使ノ所爲ニ付キ起訴アリタル以上ハ縱令第一審裁判所カ詐欺取財ヲ爲ス目的ニ出テシモノナルコトヲ認メサルモ第二審裁判所ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ檢事ノ附帶控訴アルト否トニ拘ハラズ詐欺取財ヲ爲スニ因ル私文書變造行使罪トシテ處分スルヲ妨ケス

三七 二六八

○第一審裁判所カ同一ノ被告ニ對スル重輕罪ヲ併合審理シ一ノ判決ヲ以

三七 二四七

テ刑ヲ言渡シタルトキハ縱令被告ヨリ特ニ不服ノ點ヲ指摘シ控訴ノ申立ヲ局限セル場合ト雖モ其控訴ハ被告事件ノ全部ヲ第二審ニ繫屬セシムルノ效力ヲ有ス

三七 一七七〇

○公訴不受理ノ申立ハ各審級ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナレハ縱令第一審ニ於テ其申立ヲ爲シタルモ控訴審ニ至リ更ニ之ヲ申立テサル以上ハ裁判所ハ此點ニ付キ判示スルノ責ナシ

三七 一八八〇

○森林法違反ノ數所爲ハ同法ノ規定ニ從ヒ各別ニ刑ヲ科スヘキ別箇獨立ノ犯罪ニシテ數罪俱發例ニ依ルヘキモノニ非サレハ之ニ對スル判決ハ同一ノ判決書中ニ併合セラレタル場合ト雖モ互ニ相獨立スル裁判ニシテ其間何等共通ノ關係ヲ有セス從テ被告カ一ノ控訴申立書ヲ提出シテ包括的ニ不服ノ申立ヲ爲スモ其申立ハ數箇ノ別異ナル判決ニ付キ別異ナル控訴ノ申立ヲ包含セルモノトス

三六 二〇九

○第一審裁判所カ一ノ公訴ニ對シ終局判決ヲ與ヘタルトキハ縱令其公訴ニ包含スル事實ノ一箇又ハ數箇ニ付キ裁判ヲ遺脱スルモ補充判決ヲ爲スノ職權ヲ有セサルヲ以テ茲ニ公訴全部ノ繫屬ヲ離ルルモノトス從テ第二審裁判所ハ該判決ニ對スル控訴ニ依リ其公訴事實ノ全部ニ付キ審判ヲ爲ササルヘカラス

三六 八四九

(參照)

辯護人ヨリ控訴ヲ申立タル場合ニアリテハ辯護人ニ對シ其趣意ヲ訊問スヘキモノトス(第二百六十六條三〇年五卷六七頁參照)

當初重罪控訴豫納金免除ノ請求ヲ爲スモ其後ニ至リ豫納金ヲ納付シタルトキハ其免除ノ請求ハ當然之ヲ取消シタルモノトス而シテ該豫納金上納ノ日附控訴ノ期間後ニ係ルトキハ其控訴ハ成立セス(明治三十三年法律第二十五號參照)

輕罪ノ控訴豫納金ハ控訴成立ノ條件ナリ(明治三十三年法律第二十五號參照)

(第二百五十條)

『第二百五十條』

○刑事訴訟法第二百五十條ニ所謂判決ニハ主文ノ外其理由ヲモ包含ス

○刑期輕キニ失ストノ檢事ノ附帶控訴ハ控訴ノ一理由ニシテ第一審判決ノ全部ニ對スル攻撃ナリ從テ第一審判決ノ全部ニ對スル被告ノ控訴ト其理由由相一致スルモノトス

(同旨)

刑ノ輕重權衡ヲ得サルハ判決其當ヲ得サルモノトス從テ之ヲ以テ控訴ノ理由トシ一審判決ノ變更ヲ請求スルヲ得

檢事ハ刑輕キニ失スト思料スルトキハ情法相匹敵セサルヲ理由トシ其判決ニ對シ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ其變更ヲ求ムルコトヲ得

○私訴ノ請求ノ原因ノミニ付キ裁判ヲ爲シ其原因アリトシタル裁判ハ刑事訴訟法第二百五十條ニ所謂本案ノ判決ニ非ス

三	元	元	三	三	三	元
五	四	四	四	六	六	三
二	一	二	九	七	五	四

(第二百五十一條)

『第二百五十一條』

○公訴不受理ノ判決ハ本案ノ判決ナリ從テ檢事ハ公訴不受理ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲スコトヲ得

○控訴申立書ニ不服ノ程度ヲ限リテ記載スルモ公判始末書ニ依リ罪ヲ犯シタルコトナシトノ申立ヲ爲シタルコト明ナルトキハ其申立ハ一審判決ノ全部ニ對スル控訴ノ申立ナリトス

○全部ノ控訴ハ主刑附加刑ノ總體ヲ包含ス

○控訴裁判所ハ控訴ノ範圍不明ナルトキハ被告人ヲ審問シテ其範圍ヲ定ムルノ職權ヲ有ス

(同旨)

控訴申立書ニ主刑ノミナ不服トスル旨ノ記載アルモ審判ニ際シ全部不服ノ申立アリタルトキハ其申立ヲ參酌シ全部ニ對スル控訴アリタルモノト解釋ス

○全部控訴ノ場合ニ於テ其一部ニ對シテ理由アリ他ノ部ニ對シテ理由ナキトキハ當然二個ノ判決ヲ爲スヘキモノトス

○二罪併科セシ事件ニ付キ控訴セサル所爲ヲ併セテ審判シタル判決ハ不法ナリ

○二個ノ犯罪行爲中無罪ノ判決ヲ爲シタル一行爲ニ付キ檢事ノ控訴アリ

三	元	元	三	三	三	元
五	四	四	四	六	六	三
二	一	二	九	七	五	四

テ控訴裁判所ニ於テ此點ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲ストキハ刑法第百條ヲ適用スヘキモノニ非スシテ同法第百二條ヲ適用スヘキモノナルヲ以テ檢事ノ控訴ノ目的ハ一部控訴ニシテ全部控訴ニ非ス

○控訴ノ旨趣ヲ判決ノ一部ニ限ラサルトキハ全部ニ對スルモノト看做スヘキモノトス

○控訴ヲ受理シタル第二審裁判所ハ控訴ヲ以テ主張セラレタル不服ノ理由ノ當否ヲ判定スルニ必要ナル範圍内ニ審理ヲ制限スルコトナク第一審ト等シク起訴ニ係ル被告事件全體ノ事實關係ニ付キ審理ヲ爲スコトヲ必要トス

○判決ハ被告事件全體ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス從テ其事件中一部判決ヲ受ケサル點アルモ之ニ對スル控訴ハ被告事件ノ全部ニ涉ルヘキモノトス

(同主旨)

判決ハ被告事件全體ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス從テ一部判決ヲ受ケサル點アルモ該事件ニ付キ既ニ終局判決アリタル場合ニ於テハ之ニ對スル控訴ハ被告事件ノ全部ニ涉ルモノトス
第二審裁判所ニ於テ被告カ未タ第一審ノ判決ヲ經サル罪ヲ處罰シタルハ所謂請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタルモノニテ不法ノ裁判ナリ

(反對)

第二審裁判所ニ於テ被告カ未タ第一審ノ判決ヲ經サル罪ヲ處罰シタルハ所謂請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタルモノニテ不法ノ裁判ナリ

三四	三六	三五	三五	三五	三五
二七	二二	三五	五	一四五	一四
二七	二二	三五	五	一四五	一四

○第一審判決ノ無罪ノ部分ノミニ對シ檢事ノ控訴アリタル場合ニ於テ第二審裁判所カ其審判ヲ無罪ノ點即チ控訴ノ部分ニ限定セスシテ既ニ確定シタル有罪ノ點ヲモ審判シタルハ違法ナリ

○第一審裁判所カ同一ノ被告ニ對スル重輕罪ヲ併合審理シ一ノ判決ヲ以テ刑ヲ言渡シタルトキハ縱令被告ヨリ特ニ不服ノ點ヲ指摘シ控訴ノ申立ヲ局限セル場合ト雖モ其控訴ハ被告事件ノ全部ヲ第二審ニ繫屬セシムルノ效力ヲ有ス

(同主旨)

詐欺取財ヲ爲スニ因リ文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實質上ノ一罪ナリトス從テ一罪ノ一部ニ對シ上訴アリタル場合ト雖モ其一罪ノ全部確定セサルモノナルヲ以テ全部ニ對シ相當ノ判決ヲ與ヘサルヘカラス

第一審裁判所ニ於テ數罪俱發一ノ重キニ從テ處斷シタル場合ニ於テハ俱發シタル數罪全部ニ對シ單一刑ヲ言渡シタルモノニシテ其言渡ハ不可分ナリ從テ其中ノ一罪ニ對シテノミ控訴シタル場合ト雖モ第二審裁判所ハ全部ニ付キ審理スヘキモノトス
數罪俱發例ニ依リ處斷シタル數罪中ノ一罪ニ對シ控訴セシ場合ト雖モ控訴裁判所ハ全部ニ付キ審理スヘキモノトス
數罪俱發一ノ重キニ從テ處斷シタル場合ニ於テハ一罪ニ對シテ控訴スルモ其審理ハ全部ニ及ホスヘキモノトス

三〇	三六	三七	三六	三七	三七
三二	一一	三二	一一	三二	一一
三三	一三	三三	一三	三三	一三
三三	一三	三三	一三	三三	一三

數罪俱發例ヲ適用スヘキ犯罪ニ在テハ縱令一罪ニ付キ不服ノ點アリテ控訴ヲ爲スモ其控訴ハ總テノ犯罪事件ニ關スル第一審判決ノ全部ニ及ブモノトス
刑法第百條ニ依リ一ノ重キニ從テ處斷スヘキ場合ニハ數罪中ノ一罪ニ對シ控訴アリタルトキト雖モ其控訴ハ一部控訴ニ非スシテ全部控訴タルノ效力ヲ有ス從テ裁判所ハ全部ノ犯罪ニ付キ審判セサルヘカラス

○強盜及ヒ詐欺取財ノ二箇ノ公訴ニ對シ第一審裁判所カ無罪ノ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ檢事ハ詐欺取財事件又ハ強盜事件ノ判決ノミニ對シテ控訴ヲ爲スコトヲ得而シテ其控訴ノ爲メ不服ノ申立ナキ他ノ部分モ亦覆審ノ目的ト爲ルモノニ非ス

○共犯人ノ一名カ犯罪實行ノ爲メ使用シタル物件ニ付テハ該共犯人全員ニ對シ沒收ノ言渡ヲ爲スヘキモノニシテ其判決ハ不可分の性質ヲ有ス從テ共犯人ノ一名カ控訴ヲ爲シタル場合ニ縱令沒收ノ言渡ニ對シテハ不服ヲ申立ツルノ意ナシトスルモ其控訴ハ第一審判決ノ全部ニ付キ覆審ヲ爲サシムルノ效アルモノトス

〔第二百五十二條〕

○故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テ故障申立人闕席シ其闕席判決ニ對シ控訴ヲ爲スノ期間ハ判決書ノ送達ヨリ五日內トス
○數個ノ所爲中幾部ハ無罪幾部ハ有罪ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シ被告

三七 三七

三七 六九四

三七 二三〇八

三九 二五三

二九 七 三

〔第二百五十三條〕

(參照)

ハ有罪ノ部分ニ付キ檢事ハ全部ニ付キ各控訴申立ヲ爲シタル場合ニ於テ檢事ノ控訴申立ハ法定ノ期限經過後ナルニモ拘ハラズ之ヲ受理シ被告ノ控訴ト共ニ審判シタル處措ハ不法ナリ
○第一審ニ於テ闕席判決ヲ言渡スヘカラサル場合ニ闕席判決ヲ言渡シタルトキト雖モ形式上闕席判決ナレハ其判決ノ送達ヨリ三日以内ニ申立タル控訴ハ有效ナリ依テ第一審判決ハ對席判決ナルヲ以テ其言渡ヨリ五日以内ニ控訴ノ申立ヲ爲ササルハ不合法ナリトシテ控訴ヲ棄却シタル第二審判決ハ不法ナリ

○控訴申立書記載ノ日附ハ期間經過後ナルモ其申立ニシテ期間内ニ係ルコト一件記録ニ徵シ明カナル以上ハ其控訴申立ハ有效ナリ

○闕席判決ニ對シ故障ヲ申立テスシテ爲シタル上告ハ不合法ナリ

控訴申立ト同時ニ保證金ノ免除ヲ請求シタル場合ニ於テ第一審ノ判決ノ執行ヲ停止スルハ控訴申立ノ成否ノ未確定ナルカ故ニシテ控訴ノ成立シタルカ故ニ非ス(明治三十三年法律第二十五號參照)

前項保證金ノ免除ヲ與フヘカラサルモノト決定シタルトキハ裁判所ハ期間外ノ附帶控訴ニ對シ其成立セサルコトヲ裁判セサルヘカラス然レトモ保證金免除ノ請求ニ對スル決定ト同時ニ

三四 一 一〇

三四 二 四

三五 一 七

三五 二 七

二四 一 三

〔第二百五十四條〕

爲スコトヲ要セス(明治三十三年法律第二十五號參照)

○控訴申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘキ法則(刑事訴訟法第二百五十四條)ハ主タル控訴ニ適用スヘキモノニシテ附帶控訴ニ適用スヘキモノニ非ス

○控訴申立書ハ監獄署長又ハ第一審裁判所ヘ差出スヘキモノニシテ第二審裁判所ニ差出スヘキモノニ非ス從テ其申立書ヲ第二審裁判所ヘ差出シタルニ依リ二審裁判所ヨリ一審裁判所ヘ回送シタル場合ニ於テ五日ノ期間經過後ニ係ルトキハ其控訴ハ無効ナリ

○控訴申立書ニ被告人ノ署名捺印ナキトキハ「縦合控訴豫納金ヲ被告人ヨリ納付シタル事實アリトスルモ」該控訴ハ被告人ノ自ラ爲シタルモノト謂フヲ得ス

○檢事正ハ裁判所構成法第三十三條ノ司法行政ニ關スル事務ヲ取扱フノミナラス同法第八十三條ニ依リ檢事ニ關スル一般ノ職務ヲ自ラ取扱フノ權限ヲ有ス從テ檢事正ノ爲シタル控訴申立ハ適法ナリ

○被告カ辯護士ニ依頼シタリトスルモ被告ニ於テ署名捺印ヲモ爲サス又一見タモセサル控訴申立書ハ被告本人ヨリ提出シタルモノト認ムルヲ得ス

得ス從テ其申立書ハ無効ナリ

○控訴裁判所ノ公判始末書ニ被告カ裁判長ノ訊問ニ對シ第一審判決ニ不服ナル點ヲ指摘シテ答辯ヲ爲シタル旨ノ記載アル以上ハ縦合審理ノ起頭ニ於テ被告ヨリ控訴ヲ爲ス旨ノ申立並ニ控訴旨趣ノ陳述ヲ爲シタル事ノ明記ナキモ之ヲ以テ口頭辯論主義ノ定則ニ違背セルモノト云フヲ得ス

○公廷ニ於ケル附帶控訴ノ申立ハ相手方ニ於テ之ヲ知悉スルヲ以テ特ニ申立書ヲ提出セシメ通知スルノ必要ナシ

〔第二百五十七條〕

○公判開廷ノ當日辯護届ヲ提出シタル辯護人ニ對シテハ呼出狀ヲ發スルコトナク闕席ノ儘直ニ開廷スルモ不法ニ非ス

○重罪事件ニ付キ辯護人ノ一名ヲ呼出サスシテ公判ヲ開廷スルモ他ノ辯護人ニ於テ出廷シタルトキハ辯護人ナクシテ重罪ノ公判ヲ開キタル不法アリト謂フヲ得ス

○重罪事件ニ付キ辯護人ノ一名ヲ呼出サスシテ審理ヲ結了シタル判決ハ不法ナリ

○作成者タル官吏ノ署名捺印ヲ闕キタル呼出狀ハ效力ナシ

二四 一 一三

二六 四 八七

三 一〇 二三

三五 五 二三

三五 六 九三

三五 九 一五

三九 一〇八〇

三三 一〇 一

三三 四 六五

三三 五 八三

三三 五 八三

三三 五 八六

- 辯護人ヨリ公判開廷ニ付テノ受書ヲ呈出シタル以上ハ更ニ呼出狀ヲ發スルコトナク開廷スルモ違法ニ非ス
- 辯護人ニ發シタル呼出狀ハ被告ノ受取ルヘキモノニ非スシテ辯護人自ラ受取ルヘキモノナルヲ以テ其辯護人ノ委任ニ基キ呼出狀ヲ受取リタル者アルトキハ被告ノ委任アルヲ要セスシテ其送達ハ有效ナリトス
- 午後零時ニ出頭スヘキ旨ノ呼出狀ヲ發シタル後公判開廷期日ノ日ヲ變更セスシテ同日午後零時三十分ニ開廷シタルハ刑事訴訟法第二百五十七條ニ違背スルモノニ非ス
- 辯護人ニ對シテ呼出狀ヲ送達スルハ辯論期日ヲ確知セシムルノ方法ニ外ナラサルヲ以テ辯護人自ラ期日ニ出頭スヘキ旨ノ請書ヲ差出シタル以上ハ別ニ呼出狀ヲ送達セサルモ刑事訴訟法第二百五十七條ニ背反スルモノニ非ス
- 辯護人ニ對シ適法ノ呼出狀ヲ送達セスシテ公判ヲ開廷シ辯護人ノ出廷ナキニ證人ノ訊問ヲ爲シタルハ違法ナリ
- 刑事訴訟法第二百五十七條ニ所謂訴訟關係人トハ呼出狀ヲ發スル當時ノ訴訟關係人ヲ指シタルモノニシテ其後ニ關係人ト爲リタル者ハ之ニ包含セサルモノトス

三	八	一五
三	二	一六
三	四	二
三	四	一七
三	六	一七五
三	六	一六四

- 被告人ニ於テ公判期日前辯護人ヲ選定シ之ニ呼出狀ヲ發セラレンコトノ上申書ヲ提出シタルモ其辯護ノ届出カ該期日以後ニ屬スルトキハ呼出ナキハ當然ニシテ刑事訴訟法第二百五十七條ニ違背シタルモノト云フヲ得ス
- 辯護人ニ對シ午前十時ニ出廷スヘキ呼出狀ヲ發シタルニ拘ハラス其時刻ヲ繰上ケテ開廷シ辯護人闕席ノ儘審理ヲ遂ケタルハ不法ナリ
- 辯護士ヲ以テ辯護人ト爲シタル場合ニ公判期日前辯護士タル資格消滅セシトキハ更ニ裁判所ノ許可ヲ經テ之ヲ辯護人ニ選定セサル以上ハ期日ノ呼出ヲ爲スヘキモノニ非ス
- 訴訟關係人ニ對シ成規ノ手續ニ從ヒ公判期日ノ呼出狀ヲ發シタル以上ハ其後ニ辯護人ト爲リタル者ニ對シテハ特ニ期日呼出ヲ爲スノ要ナシ
- 裁判所ノ所在地ニ住セサル辯護人カ假住所ノ届出ヲ爲ササルトキハ縱令裁判所ノ發送セシ期日呼出狀ニ日時ヲ誤記シタルカ爲メ辯護人ノ出廷ナキニ拘ハラス公判ヲ開キ被告人ヲ訊問スルモ其審理手續ヲ目シテ不法ナリト云フヲ得ス
- 裁判所カ公判期日ニ辯護人ヲ呼出サスシテ審理ヲ終結シタルトキハ其審理ニ於ケル被告人ノ供述ハ證據タルノ效力ヲ有セス從テ其供述ニ依

三	七	二一〇
三	七	一八七
三	七	一九〇
三	七	一九四
三	六	二七

リ犯罪事實ヲ認定スルハ違法ナリトス

○辯護人カ被告ニ代リ控訴ノ申立ヲ爲シタル場合ト雖モ辯護届ヲ爲ササル以上ハ刑事訴訟法第二百五十七條ノ所謂訴訟關係人ニ非ス

○呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニ二日ノ猶豫ヲ存スヘキ法則（刑事訴訟法第二百五十七條第二項）ハ被告人ニ辯論ノ準備ヲ與フルカ爲メナリ從テ法定ノ猶豫ヲ與ヘスシテ公判ヲ開廷スルコトアルモ被告人ニ於テ異議ナク出廷シテ辯論ヲ爲シタルトキハ其公判ハ有效ナリ

○附帶控訴ニ付テハ呼出狀ト出頭トノ間ニ於ケル猶豫期間ノ法則ヲ適用セス

○辯護人ニ對シ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニ二日ノ猶豫ヲ與ヘス且其出廷ナキニ拘ハラズ公判ヲ開キ記録取寄ノ決定ヲ爲シタルハ違法ナリ然レトモ其後公判ヲ開クニ當リ判事ニ異動アリタル爲メ審理ヲ更新シ既ニ取寄セアリタル該記録ハ之ヲ被告ニ示シ其豫審調書ハ之ヲ朗讀シタル以上ハ其證據調ハ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二百五十七條ニ所謂訴訟關係人ニハ辯護人ヲモ包含スルモノトス從テ辯護人ニ對シ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニ二日ノ猶豫ヲ與ヘサルハ違法ナリ

三六 一〇九六

四〇 五三三

三〇 二六

三三 一〇一

三六 二九二

三七 二〇二六

（同第三回）

辯護人ニ對スル呼出狀ノ送達ト其出頭トノ間ニ二日ノ猶豫ヲ存セスシテ公判ヲ開廷シタル措置ハ不法ナリ

法定ノ猶豫ヲ存セサル呼出ハ無効ニシテ呼出ナキモノト同一ナリ故ニ其呼出狀ヲ送達セラレタル辯護人ノ出頭ナキニ拘ハラズ辯論ヲ開キタルトキハ被告ニ於テ任意ニ辯護權ヲ拋棄シタル場合ノ外其公判手續ハ不法ナリトス

○刑事訴訟法第二百五十七條第二項ノ規定ハ第一回ノ公判ヲ開ク時ニ適用セラルヘキモノニシテ第二回以上ノ公判ヲ開ク場合ニ適用セラルヘキモノニ非ス

（第二百五十八條）

『第二百五十八條』

○控訴ノ取下ニ依リテ公訴ハ消滅スルモ附帶ノ私訴ニ付テハ相當ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス

○檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シトノ法則（刑事訴訟法第二百十八條第二項）ハ第一審公判ニ適用スヘキモノニシテ第二審公判ニ適用スヘキモノニ非ス

（同第三回）

刑事訴訟法第二百十八條第二項ノ檢事カ被告事件ヲ陳述スルコトハ第一審裁判所ニ適用スヘキモノニテ第二審裁判所ニ適用スヘキモノニ非ス

三〇 二四

三六 一九六四

三六 四三

二九 八七

三三 二九

二七 一一二

被告ノ控訴ニ係ルトキハ被告ヨリ先ツ控訴ノ趣意ヲ申立ツヘキモノナルヲ以テ刑事訴訟法第二百十八條第二項(檢事ノ陳述)ヲ適用スヘキモノニ非ス

○部員ノ變更ニ因リ審理ヲ更新シタル後證據書類ヲ朗讀シタル形跡ナキ

ニ其朗讀セサル證據書類ヲ採用シ罪證ニ供シタルハ不法ナリ

○檢事カ第一審判決ニ對シ控訴ノ申立ヲ爲スニハ申立書ヲ提出スルノミ

ヲ以テ足レリトセス公判ニ於テ其旨趣ヲ演述スルヲ要シ且公判ノ起頭

ニ於テスルヲ普通ノ順序トス

○檢事ノ控訴ト共ニ被告ヨリ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ被告ノ控

訴ニ基キ審理ヲ開始スルヲ妨ケス從テ公判ノ初ニ當リ檢事ヨリ控訴旨

趣ノ演述ナカリシ一事ヲ以テ其審理手續ヲ無効ナリト云フヲ得ス

○豫審終結決定ヲ以テ重罪公判ニ付セラレタル事件ハ縱令第一審判決カ

輕罪ノ刑ヲ言渡シタルトキト雖モ更ニ第二審ニ繫屬シタル場合ニ於テ

ハ輕罪公判ニ付セラレタルモノト爲スヲ得ス從テ重罪事件ニ關スル手

續ヲ踐行スヘキモノトス

○重罪事件トシテ豫審ヲ終結シタルモノナルモ第一審ニ於テ輕罪トシテ

判決シタルカ爲メ特ニ下調ヲ爲スノ要ナキ事件ニ對シ下調ヲ爲シタリ

トテ之ヲ以テ不法ナリト云フヲ得ス

二七 三七六

三五 三 五

三五 五 一四

三五 五 一四

三五 五 一四

三五 六 二六

三五 六 二六

三六 九五九

○控訴裁判所ニ於テ辯護人カ私訴ニ付キ控訴ノ旨趣ヲ申立ツルニ當リ在

廷ノ被告人ヨリ何等ノ異議ヲ主張セザリシ場合ニ於テハ被告人ハ辯護

人カ被告人ニ代リテ其申立ヲ爲スコトヲ默諾シタルモノトス

○檢事カ第一審判決ノ全部ニ對シテ控訴ヲ爲シタル場合ト雖モ控訴審ニ

於テハ第一審ニ於ケルカ如ク被告事件ノ全體ニ付キ事實ノ陳述ヲ爲ス

コトヲ要セス唯其不服ナル點ヲ指摘スルヲ以テ足レリトス

○第二審裁判所カ檢事ノ控訴ニ基キ事件ノ審理ヲ爲ス場合ニ於テ檢事ヨ

リ控訴旨趣ノ陳述ナキニ拘ハラヌ審理ヲ遂ケ判決ヲ言渡シタルハ不法

ナリ

(同旨)

第二審裁判所カ檢事ノ控訴ノミニ基キ事件ノ審理ヲ爲ス場合ニ於テ檢事ヨリ其趣意ノ申立ナ

キニ拘ハラヌ審理ニ著手スルハ口頭審理ノ原則ニ反ス從テ其公判手續ハ無効ナリ

第二審裁判所カ檢事ノ控訴ノミニ基キ事件ノ審理ヲ爲ス場合ニ於テ檢事ヨリ被告事件ノ陳述

ナキニ拘ハラヌ審理ヲ爲スハ口頭審理ノ原則ニ反ス從テ其公判手續ハ無効ナリ

(第二百五十九條)

『第二百五十九條』

○控訴期間外ト雖モ特別ニ附帶控訴ヲ爲スコトヲ許スハ主タル控訴ノ成

立スル爲メナルヲ以テ其主タル控訴有效ニ成立セサレハ附帶控訴モ亦

存立セス

二四 一 二四二

三五 九 八

三五 五 一四

三七 一九七

三七 三三七

三七 二八二

(同主旨)

期間外ノ附帶控訴ハ附帶スヘキ控訴ノ有效ニ成立シタルトキニ非サレハ成立セズ

○附帶控訴ハ某事件ニ對スル主タル控訴アル場合ニ於テ之ニ附帶シテ提起スヘキモノナレハ其對手人及ヒ其事件ハ必ス同一ナラサルヘカラス若シ其一ヲ異ニスルニ於テハ附帶控訴トシテ提起スルヲ得サルモノトス

○檢事ニ於テ刑期輕キニ失セリトノ附帶控訴ヲ爲スハ職權上法律適用ノ不當ヲ訴フルモノナレハ違法ニ非ス

○檢事ヨリ情狀酌量ノ請求ヲナスモ特ニ附帶控訴タルコトヲ明言セサルトキハ直ニ其請求ヲ以テ附帶控訴ト認ムルヲ得ス

○檢事ハ事實訊問終結後ト雖モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

○法律適用ニ關スル檢事ノ辯論ハ其意見ニシテ附帶控訴ニ非ス

○附帶控訴ヲ爲スニハ必スシモ附帶控訴ナル法律語ヲ明言スルヲ要セス其趣意ヲ認メ得ヘキ陳述アルヲ以テ足レリトス

○控訴裁判所ノ檢事ハ第一審裁判所檢事ノ控訴ニ對シ仍ホ附帶控訴ヲ爲スノ權ヲ有ス

(同主旨)

二四 一 一一三

二六 二 二四九

二六 一 二五

二六 二 四七

二九 二 一一

二九 二 九〇

三一 四 二六

第一審裁判所檢事ノ控訴アリタル場合ト雖モ控訴裁判所檢事ハ其相手方ニ非サルモ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

○附帶控訴ニ關シテハ別ニ其申立ノ方式ヲ限定シタル法則ナシ從テ附帶控訴ヲ爲サントスル控訴ノ相手方又ハ檢事ハ公判廷ニ於テ口頭ヲ以テ其申立ヲ爲スヲ以テ足レリトス

(同主旨)

檢事公廷内ニ於テ附帶控訴ヲ爲ス場合ニアリテハ特ニ控訴申立書ヲ提出スルノ要ナク又相手方ニ對シ之ヲ通知ヲ爲スヲ要セス
附帶控訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナレハ公廷ニ於テ直ニ其申立ヲ爲シ通常控訴ノ手續ヲ履踐スルヲ要セス

○刑事訴訟法第二百五十九條ニ依レハ附帶控訴ハ判決アルマテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ事實審理結了ノ前後ヲ區別スルコトナシ從テ事實及ヒ證據取調ノ後ト雖モ附帶控訴ヲ爲スヲ妨ケス而シテ其附帶控訴ニシテ新ナル事實ニ非サル以上ハ更ニ事實及ヒ證據ノ取調ヲ爲スノ要ナシトス

○上告審ニ於テ控訴審ノ判決ヲ破毀シ事件ヲ他ノ控訴院ニ移送シタル場合ニ於テハ其破毀ノ效力ハ原判決ノミニ止マリ被告人ノ控訴及ヒ檢事ノ附帶控訴ハ尙ホ移送セラレタル控訴審ニ繼存スヘキモノトス然レト

二六 二 八三

三五 五 二六九

二六 四 二二

二九 一〇 四〇

三五 二 二二九

モ移送後ノ第二審公廷ニ其附帶控訴ヲ顯出セシムルニハ口頭審理ノ原則ニ依リ附帶控訴人タル檢事ニ於テ更ニ其控訴ノ旨趣ヲ陳述スルコトヲ要ス

○公訴裁判所ニ於テ受理シタル附帶控訴ハ部員變更ノ爲メニ消滅スルモノニ非ス從テ部員變更ノ爲メ審理ヲ更新シタル場合ニ於テモ其附帶控訴ニ付キ審理判決ヲ爲スヘキハ當然ナリ

〔第二百六十條〕

○裁判長カ控訴期間經過シタルモノト認ムル場合ニハ被告ノ辯論ヲ要セス職權ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘキモノトス刑事訴訟法第九十八條ノ規定ニ依リ其利益ト爲ルヘキ證據ヲ差出スヲ得ヘキコトノ告知ヲ爲スヘキモノニ非ス

○期限後ニ係ル控訴ノ處分ニ付テハ刑事訴訟法第二百六十條ノ規定アリ此處分ニ於テ公訴受理スヘカラサル事項ニ係ル規定ヲ適施スヘキモノニ非ス

〔第二百六十一條〕

○控訴裁判所ニ於テ控訴事件ヲ審判スルニハ其訴旨ノ如何ヲ問ハス必ス判決ヲ以テセサルヘカラス決定ヲ以テスヘキモノニ非ス

○被告ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却スルトキハ第一審判決ノ一部ト雖モ之ヲ變更スルコトヲ得ス

○控訴院ハ第一審判決中被告人ノ反訴ニ係ル部分ヲ違法ナリトシテ取消シタルモ其控訴ニ係ラサル部分ハ第一審ノ判決確定スルヲ以テ更ニ之カ理由ヲ附シ金額ノ異同ヲ訂正シテ判決スヘキモノニ非ス

○第一審裁判カ甲者ニ對スル被告事件ノ判決理由中ニ甲者ト乙者トノ犯罪行為ヲ列記シ且ツ其證人ノ豫審調書ヲモ採用シタル場合ニ該調書カ全ク乙者ノ犯罪證據ニ供シタルモノニシテ甲者ノ被告事件ニ無關係ナルコト明瞭ナル以上ハ第一審判決ニハ瑕瑾ナク從テ原院カ控訴ヲ棄却シタルハ相當ナリトス

○非現行犯ノ場合ニ於テ司法警察官ノ作りタル無効ノ調書ヲ證據ニ採用シタル第一審判決ヲ取消ササルハ違法ナリ

○一事再訴ノ理由ヲ以テ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタル第一審判決ニ對シ控訴アリタルトキハ先ツ公訴受理スヘキヤ否ヲ判決スヘク同時ニ本案ノ判決ヲ爲スヘカラス

○第一審廷ニ於ケル訴訟手續ノ瑕瑾ハ第二審判決ノ當否ニ影響ヲ及サス

(同(三))

三六	三七	三七	三七	三七
二	二	二	二	二
五〇	四九	三九	七三	五六

二五	二六	二六	二六	二六
二	二	二	二	二
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二六	二六	二六	二六	二六
一	一	一	一	一
四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
一	一	一	一	一
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇

上告人ハ第一審判決ハ本件記録中ニ存セサル虚無ノ物件ヲ證憑ニ供シタル不法ノ判決ナルニ
 原院カ之ヲ認可シタルハ失當ナリト論告スレトモ第一審公判始末書ヲ閱スルニ本件記録中ニ
 存セサル豫審調書ニ付テハ孰レモ其要旨ヲ摘讀シテ辯解ヲ爲サシメ且ツ右等豫審調書ノ存セ
 ル某等被告事件ノ記録ハ一審延ニ提出セラレ居リタルコト明白ナレハ原院カ右等豫審調書ヲ
 證據ニ供シタル第一審判決ニ對シ單ニ此點ヲ訂正シテ其豫審調書ノ存立セル記録ヲ明示スル
 ニ止メ該判決ヲ取消ササリシハ不法ノ判決ニ非ス

○第二審裁判所ニ於テ第一審ノ判決ト無罪ノ理由ヲ異ニスルトキハ其判
 決ヲ取消シテ更ニ判決ヲ爲ササルヘカラス

○第一審判決ハ口頭審理ノ定則ニ背キタル不法アルモ第二審ニ於テ適式
 ノ公廷ヲ開キ其判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲シタルトキハ第二審
 ノ裁判ハ正當ニシテ間然スヘキナシ從テ上告審ニ至リ再ヒ一審判決ノ
 批難ヲ試ムルヲ許サス

○第一審ニ於テ沒收スヘカラサル物件ヲ沒收シタル不法ヲ觀過シ原判決
 ノ取消ヲ爲サス反テ被告ノ控訴ヲ棄却シタル裁判ハ不法ナリトス

○辯論終結ノ後合議ヲナサスシテ直ニ言渡シタル第一審裁判ヲ取消ササ
 ル第二審判決ハ不法ナリ

○豫審終結決定書ト第一審判決ト犯罪ノ日時ヲ異ニスルモ公訴ノ時効等
 ニ關係ヲ及ホササル場合ニアリテハ第一審判決ヲ取消スノ必要ナシ

三〇	二	二四七
二六	三	二二
二九	三	三
三〇	六	五五
三〇	七	四二

○判決主文ノ生シタル基因ニシテ不法ノ點アルトキハ之ヲ攻撃シテ控訴
 ノ理由トナスコトヲ得

○控訴審ニ於テ第一審裁判ノ事實認定ヲ訂正スルハ被告人ノ控訴ニ依リ
 テ爲スコトヲ得ヘシ檢事ノ附帶控訴アルヲ要セス

○第一審裁判所ノ爲シタル判決ノ罪質ヲ變更スルト否トハ第二審裁判所
 ノ職權ナリトス

○第二審ニ於テ控訴ノ棄却又ハ一審判決ノ取消ヲ言渡ササル裁判ハ刑事
 訴訟法第二百六十一條ノ法則ヲ適用セサル不法アリ

○還給ノ贓額ニ付キ第一審判決ト認定ヲ異ニシナカラ控訴ヲ棄却シタル
 私訴ノ判決ハ不法ナリ

○第一審裁判所ニ於テ被告人ニ對シ裁判費用ノ平分負擔ヲ命シタルヲ不
 當トシテ連帶負擔ヲ命シナカラ控訴ヲ棄却シタル第二審判決ハ不法ナ
 リ

○檢事及被告人共ニ全部ノ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ控訴審カ第一審判
 決ノ事實ヲ變更シタルトキハ檢事及ヒ被告人ノ控訴ハ共ニ其理由アリ

○罪トシテ論スヘキ所爲ニ關シ第一審ト第二審ト其認定ヲ異ニスルトキ
 ハ被告ノ控訴ハ理由アルモノトス

三〇	二	三九
三〇	二	九二
三二	二	六
三三	四	三七
三三	六	六二
三三	二	六
三三	二	六
三三	二	六

○審理ノ始メニ於テ立會檢事ヲシテ被告事件ノ陳述ヲナサシメサル第一審判決ヲ是認シタル裁判ハ不法ナリ

(同三三)

○第二審ニ於テ第一審判決ノ認メサル前科ヲ認ムルハ不利益ノ變更ニ非ス

立會檢事ヲシテ被告事件ヲ陳述セシメサル第一審判決ヲ是認シタル判決ハ不法ナリ

○第一審判決ノ時ハ餘罪ト云フヘカラサルモ第二審判決ノ時ニ至リテハ餘罪ト云フヘキ場合ニ在テハ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ刑法第百二條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス

○第二審判決ニ於テ第一審判決カ犯罪ノ事實ヲ認メナカラ擬律ヲナササル不法アルコトヲ明示スルニ拘ラス檢事ノ附帶控訴ナシトノ理由ヲ以テ其更正ヲナササルハ不法ナリ

(同三三)

擬律ニ錯誤アルコトヲ認メタルニ拘ハラズ被告人ノミノ控訴ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第百六十五條ノ法則ニ基キ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ得サルヲ理由トシテ控訴ヲ棄却シタル判決ハ不法ナリ

○同一ノ被告人ニ對スル二個ノ犯罪ヲ第一審ニ於テ各別ニ判決シ第二審ニ於テ之ヲ同時ニ判決スヘキトキハ第一審判決自體ノ當否ニ關セス常

三二 一〇九

三四 五四

三二 一一一

三三 四

三三 一〇〇

三二 三〇

ニ之ヲ取消シ刑法第百條ヲ適用シテ判決ヲ爲スヘキヲ以テ此場合ニ於テハ第一審ニ於テ併發ナリシヤ否ハ控訴ノ當否ニ關係ナシ

三二 四 三九

○第一審判決ニ於テ謀殺及死屍毀棄ノ二罪トナシタル事實ヲ以テ故殺ノ一罪ヲ構成スルモノト認メテ爲シタル第二審判決ハ被告事件全部ニ對スル裁判ナリ從テ第一審判決ノ一部タル死屍毀棄ノ點ニ付キ重ネテ判決ヲ爲スヘキモノニ非ス(第二百五十一條三四年一卷三五頁參照)

三三 五 五三

○檢事ノ附帶控訴ニ基キ第一審判決ノ瑕疵ヲ認メテ之ヲ取消ス以上ハ其瑕疵ト認ムヘキ點ニ付キ被告ノ主張アリタルト否トニ拘ラス第一審判決ノ全部ニ對スル被告ノ控訴モ亦理由アルモノトス

三三 五 八六

(同三三)

二罪併發ニ係リ刑法第百條ヲ適用シテ處斷セシ場合ニ於テ被告ハ一罪ニ對シテ控訴ヲ爲シ檢事モ亦他ノ一罪ニ對シテ控訴ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ事件全部ヲ審理セサルヘカラス從テ何レノ控訴ニ依ルモ第一審判決ノ不法ヲ認メタル以上ハ各控訴ハ共ニ其理由アルモノトス

○私訴ニ關スル控訴ノ理由アルヤ否ヤヲ判決スルハ刑事訴訟法第二百六十一條ニ據ルヘキモノトス

三三 五 八一
三三 九 四四
三三 九 四五

○私訴第一審判決ノ理由ニシテ不當ナルトキハ控訴ハ理由アルモノトス

於テ甲者ニ共犯ノ事實ナシトシテ無罪ヲ言渡スモ乙者ノ控訴ニシテ理由ナキトキハ之ヲ棄却スヘキモノトス

(同三三三)

第一審ニ於テ共犯者ノ一人トシテ判決シタル者ヲ第二審ニ於テ無罪ト爲ストキハ唯判決ノ其部分ヲ取消スニ止マリ之カ全部ヲ取消スヘキモノニ非ス

共犯事件ノ控訴ニ對シ甲者ノ控訴ヲ理由アリトシテ第一審判決ヲ取消シ無罪ノ判決ヲ言渡スモ其認定ノ事實ニ異同ヲ生セサル以上ハ乙者ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却スルハ當然ナリ

○控訴棄却ヲ爲スニ付キ法條ヲ明示スヘキ規定ナキヲ以テ之ヲ示ササルモ違法ニ非ス

(同三五)

控訴棄却ノ判決ニハ之ニ適用シタル法條ノ明示ヲ要スル規定ナキヲ以テ其法條ヲ明示セサルモ不法ニ非ス

○主タル控訴ニ付キ第一審判決ノ不當ヲ認メ其理由ヲ明示シタル以上ハ附帶控訴ニ付テモ理由アルコト自カラ明カナルヲ以テ更ニ其理由アルコトヲ説明スルノ必要ナシ

(同三五)

檢事ノ附帶控訴ヲ採用シテ第一審判決ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ト雖モ被告ノ抗擊理由ニシテ正當ノ點アルトキハ其控訴モ亦理由アルモノトス

控訴ハ事件全體ニ對シテ覆審ヲ求ムルモノナレハ或點ニ於テ控訴理由アリト判示シタル以上

三	三	二六	三	二九	二六	三
〇	二		九	八	二	九
三	四		九	九	三	〇
九	六	二	七	五	六	

ハ縱令他ノ點ニ於テ控訴理由ナキモ其點ニ對シ別ニ控訴棄却ノ判定ヲナスヲ要セス
被告ノ控訴並ニ檢事ノ附帶控訴共ニ第一審判決ノ全部ニ對スル場合ニ於テ第一審判決ヲ取消ストキハ彼此ノ控訴共ニ理由アルモノトス

第一審判決ヲ不當トシテ取消ス場合ニアリテハ被告人ニ不利益ナル檢事ノ附帶控訴ニ反スル判決ヲナスモ其附帶控訴ニシテ第一審判決全部ノ更正ヲ求ムル旨趣ナルトキハ其附帶控訴モ亦理由アルモノトス

第二審ニ於テ第一審判決ノ不當ヲ認メ之ヲ取消シタル以上ハ縱令其取消ノ理由ニシテ被告ノ主張セシ理由ト異ナル場合ト雖モ判決ノ全部ニ對スル控訴ナルトキハ其控訴ハ理由アルモノトス

控訴ハ第一審判決ノ更正ヲ求ムルモノナレハ被告ノ爲シタル主タル控訴ヲ理由アリトシテ第一審判決ヲ取消ス以上ハ檢事ノ附帶控訴モ亦理由アルモノトス

(反對)

第一審判決ヲ不當ナリトシテ其事實上ノ誤認ヲ是正シナカラ一面ニハ被告ノ控訴ヲ理由ナキモノトシテ棄却ノ言渡ヲ爲シ又一面ニハ檢事ノ控訴ヲ理由アリトテ取消ノ裁判ヲ爲シタルハ理由齟齬ノ瑕疵アリトス(第二百三條三二年一〇卷六頁參照)

第一審判決ニ對シ檢事ノ爲シタル刑期輕キニ失ストノ附帶控訴ト被告ノ控訴トハ其理由ニ於テ一致スヘキ道理ナシ

第一審判決ノ刑期輕キニ失ストノ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シタル場合ニ於テ被告ノ控訴モ亦理由アリト説明シタル判決ハ不法ナリ
檢事ノ附帶控訴ニ基キ三犯ヲ初犯ト誤認シタル第一審判決ヲ取消シ更ニ加重ノ刑ヲ言渡シタ

三	三	三	三	二九	三〇	三〇
二	二	二	二	二	四	四
三	二	二	二	二	四	四
一	一	一	一	五	九	九
〇	〇	〇	〇	五	九	九

ル裁判ニ於テ被告ノ控訴モ亦理由アリト説明シタルハ不法ナリ
第一審判決ノ刑期輕キニ失ストノ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトシテ第一審判決ヲ取消シタル
場合ニ於テ被告ノ控訴モ亦理由アリト説明シタル判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法アルモ
ノトス

被告人ヨリ主タル控訴ヲ爲シ檢事ヨリ刑期重キニ失ストノ附帶控訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ
兩者ノ控訴各適法ナリ然ルニ被告人ヨリ控訴アリタル以上ハ刑ノ輕重ハ自ラ審査ヲ受クヘキ
事項ニ屬スルヲ以テ檢事ノ附帶控訴ハ成立セスト説明シタル判決ハ法則ヲ不當ニ適用シタル
モノナリ

○第一審ニ於テ被告ニ示ササル養子縁組届書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルヲ
不法ナリトシテ第一審公訴判決ヲ取消シタル場合ニ於テハ其公訴判決
ニ基キタル私訴判決モ亦之ヲ取消スヘキモノトス
(同三三三)

公訴判決ニ付キ探證上違法ノ點アリテ其判決全部ヲ取消シタル上ハ之ニ基キタル私訴判決モ
亦共ニ取消ササルヘカラス

○第一審判決ヲ取消シタル理由カ法律ノ見解ヲ誤リタルニ出ツルトキハ
其取消ヲ爲シタル第二審判決ハ失當ナリ

○第一審判決ニ於テ證書騙取ト認メタル事實ニ對シ財物騙取ト認メタル
ニ拘ハラズ第一審判決ヲ取消ササル判決ハ不法ナリ
○併科スヘキ二個ノ犯罪ハ各別ニ確定ス從テ控訴ニ係ル判決中不法ノ廉

三〇	三〇	三〇	三三	三三	三三
四	九	一一	四	四	四
二五	六	九〇	三六	三三	三三
				二二	二二
				六四	六四
				二二	二二

ナシト認メタル部分ハ之ヲ確定セシメ不法ノ部分ヲ更正スルハ不法ニ
非ス

○裁判費用ノ點ニ付キ第一審判決ヲ變更シタルトキト雖モ原判決ハ之ヲ
取消スヘキモノトス

○控訴裁判所ハ第一審裁判所又ハ檢事ノ下シタル罪名ニ羈束セラルヘキ
モノニ非ス從テ第一審裁判所カ幼者誘拐罪トシテ處斷シタル所爲ヲ以
テ移民保護法違反ノ罪ナリトシ其法則ヲ擬スルハ不法ニ非ス
(同三三三)

同一ノ事實ニ對シ罪名ヲ變更スルハ裁判所ノ職權ニ屬ス從テ第二審ニ於テ第一審ト罪名ヲ異
ニスル裁判ヲ爲スハ不法ニ非ス

○第一審判決ニ於テ文書偽造罪ト詐欺取財罪トヲ比較シ詐欺取財ノ點ヲ
重シトシタルニ對シ第二審判決ニ於テ之ヲ變更シ文書偽造ノ點ヲ重シ
トシタルニ拘ハラズ一審判決ノ取消ヲ爲ササルハ不法ナリ

○第一審判決カ共犯者ノ氏名ヲ明記シタルヲ第二審判決ニ於テ氏名不詳
者トシタルモ二名共犯タル事實ニ異動ナキ以上ハ犯罪ノ構成ニ影響ナ
キヲ以テ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ
(同三三三)

日附等ノ事ハ犯罪ノ構成及ヒ狀情等ニ關係ナキヲ以テ第一審ト第二審トノ裁判ノ認定ヲ異ニ

三三	三三	三〇	三四	三四	三四
六	六	四	六	九	九
四二	四二	三〇	七一	二〇	八四

スルモ原判決ヲ取消スヲ要セス

私印私書偽造罪ハ使用行使ニ依リテ成立ス其結局ノ目的ヲ明示スルト否トハ判決ノ適否ニ關係ナシ從テ其明示ナキテ理由トシテ一審判決ヲ取消スノ必要ヲ見ス

事實上ノ理由ニ於テ第一審及第二審ノ判決互ニ精疎詳畧ノ別アルモ犯罪ノ構成ニ影響ナキ以上ハ之ヲ取消シ更ニ判決スルノ要ナシ

第二審ニ於テ證據力ノ輕重ニ對シ第一審ト意見ヲ異ニスルモ其判決ヲ取消スノ理由トナラス〔同一判例二九年六卷四五頁〕

第一二審ノ判決互ニ事實ノ認定ヲ異ニスルモ犯罪ノ構成並ニ時効等ニ關係ヲ及ボササル以上ハ第一審判決ヲ取消スヲ要セス

(反對)

第一二審ノ判決互ニ其認定ヲ異ニシタルトキハ控訴ハ棄却セラレヘキモノニ非ス〔同一判例二九年二卷四九頁〕

詐欺取財事件ニ付キ騙取金額ノ多寡ハ犯情ノ輕重ニ影響アリ

○第一審裁判所カ無罪ノ言渡ヲ爲シタルヲ不當トシ第二審裁判所カ其判決ヲ取消スニ當リ判文ニ第一審裁判所カ罪トナラストシテ無罪ヲ言渡シタルモノヲ證據不十分ナリトシテ無罪ヲ言渡シタルモノノ如ク掲載スルモ第一審判決ヲ取消ス上ニ於テ何等ノ影響ナシ

○前科ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱ヲ異ニスルモ再犯加重ノ法律適用トシテハ何等ノ影響ヲ有セス從テ第一審ニ於テ其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ

二元 二七

二元 二六

二元 二四

二元 二三

二元 一九

二元 一八

二元 一五

二元 一三

二元 一〇

二元 〇八

名稱ヲ誤記シタルニ對シ第二審ニ於テ之ヲ更正スルモ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ

○第一審裁判所カ爲シタル證據ノ判斷ニシテ其當ヲ得サルコトアルモ其證據ニシテ不法ノモノニ非サル以上ハ之カ爲メニ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ

○控訴審ハ第一審ノ事實認定ノ如何ニ拘ハラズ自由ナル心證ヲ以テ犯罪事實ヲ認定スルノ全權ヲ有ス

○第一審判決カ刑ノ併科ヲ規定シタル法條(森林法第五十一條)ヲ適用セサル不適法ヲ認メ第二審判決ニ於テ之ヲ適用シタルニ拘ハラズ第一審判決ヲ取消ササルハ不法ナリ

(同主旨)

第一審ノ認メタル二所爲ノ中一所爲ヲ以テ事後ノ所爲トナシ犯罪成立セサルモノト認メナカ

ラ第一審判決ヲ取消ササルハ不法ノ裁判ナリ

第一審判決ノ不當ニシテ控訴ノ理由アルコトヲ認メタルニ拘ハラズ之ヲ取消ササルハ不法ナ

○第一審判決カ犯罪ノ日時ニ關シ其認定ヲ誤リタルモ其誤認ニシテ犯罪ノ成否並ニ時効ノ成否等ニ何等ノ影響ナキトキハ第一審判決ヲ取消ス

三五 一 五

三五 二 一

三五 二 四

三五 二 七

三五 二 〇

三五 一 七

三五 一 〇

三五 〇 七

三五 〇 〇

ノ要ナシ
○前科有期徒期十二年ナルヲ十五年ト判示スルモ此誤認ハ刑ノ適用ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

○第一審公判手續ノ瑕瑾ハ第二審ニ於テ之ヲ更正スルヲ以テ足ル從テ第一審判決ヲ取消スヘキモノニ非ス

(同前)

或ル點ニ於テ一審判決ノ違法ヲ認メ之ヲ取消スノ理由ヲ明示シタル以上ハ原判決ノ違法ナル點ヲ悉ク列掲スルヲ要セス
控訴裁判所ニ於テ第一審判決ニ數多ノ瑕瑾アルヲ認メ之ヲ取消ス場合ニ於テハ其一ヲ摘示スルヲ以テ足レリトス

○一所爲ナル公訴事實ニ付キ其一部ヲ有罪トシ他ノ一部ニ對シ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲シタル第一審判決ニ對シ檢事ヨリ全部ノ控訴ヲ爲シ控訴審ニ於テ一審判決ノ不法ヲ認メタル場合ニ於テハ檢事ノ控訴ヲ理由アリトシ一審判決ノ全部ヲ取消スヘキモノトス從テ單一審判決ノ有罪ノ部分ノミヲ取消シ無罪ノ部分ニ付キ檢事ノ控訴ヲ棄却シタルハ違法ナリ

○第一二審兩級ニ於ケル主文ノ判定竝ニ其基本タル犯罪事實及ヒ刑ノ適用ニシテ全然符合スル場合ニ於テハ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ認可

三五	二	一四五
三五	二	一五七
三五	六	三六
二九	九	八九
三三	五	一七
三五	九	三九

シ控訴ヲ棄却スヘキモノトス而シテ第一審判決ノ憑據トナリタル證據ハ適法ナリヤ否ヤ又其證據ハ果シテ犯罪事實ノ確定ニ適切ナリヤ否ヤノ如キハ之ヲ問フノ要ナシ

○第二審裁判所ハ控訴カ適法ニ成立シタルヤ否ヤヲ調査スル職責ヲ有ス從テ先ツ其成立如何ヲ調査シ有效ニ控訴ヲ爲シ得サル者ノ爲シタル控訴ハ第一審判決ノ當否如何ヲ問ハス直ニ之ヲ棄却スヘキモノトス

○起訴ノ適法ナルヤ否ヤハ各審級共ニ職權上調査スヘキ事項ニ屬スルヲ以テ各自ラ相當ナリトスル理由ニ基キ之ヲ受理スヘキモノトス從テ偶其受理ノ理由ヲ異ニスルモ之カ爲メ前審ノ判決ヲ取消スノ必要ナシ
○一箇ノ判決ナリト雖モ數箇ノ犯罪ヲ包含シ各別ニ刑ヲ科シタルトキ又ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル結果各箇ノ公訴事實全ク獨立シ互ニ牽聯スル所ナキニ至リタル場合ニ於テハ其判決ハ之ヲ分割スルコトヲ得從テ縱令其全部ニ對シテ控訴アリタルトキト雖モ控訴裁判所ハ一審判決ヲ分割シ其不當ナル部分ノミヲ取消スコトヲ妨ケス

○第一審判文中金額ヲ表示シタル數字ニ誤謬アルモ其判文殊ニ證據理由ノ部ニ參照シ其誤脫タルコト明白ナル以上ハ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ取消スノ要ナシトス

三五	二〇	三九
三五	二	一八八
三六		四六三
三六		一〇六四
三六		一二五五

○騙取ノ金額ヲ變更スルカ如キハ犯罪構成ノ要素ヲ變更スルモノニ非ス
從テ第二審裁判所カ第一審裁判所ニ於テ被告ノ騙取セリト認定シタル
金額ヲ變更スルモ第一審判決ハ之ヲ取消スヘキモノニ非ス

三六

二五五

○贓額ノ多寡ハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナシ從テ第二審裁判所カ
第一審裁判所ト其贓額ノ認定ヲ異ニスルモ必スシモ第一審判決ヲ取消
ササルヘカラサルモノニ非ス

三六

二七九

○第一審ニ於テ證據調ノ申請ニ付キ決定ヲ爲ササルノ違法アルモ第二審
ニ於テ其第一審判決ヲ取消スヘキモノニ非ス

三七

八六

○苟クモ第一審判決ニ違法ノ點アルカ爲メ之ヲ取消ストキハ其違法ノ廉
カ控訴人ノ不服ヲ唱フル點ニ符合スルト否トヲ論セス控訴ハ其理由ア
ルモノトス

三七

三七

○第一審裁判所ニ於テ兇徒嘯集ノ首魁ヲ教唆者ト判定シタルハ其當ヲ得
タルモノニ非スト雖モ教唆者ト云ヒ首魁ト云ヒ共ニ刑法第三百二十七條
前段ノ適用ヲ受クヘキモノナルヲ以テ縱令其判定ヲ異ニスルモ法律上
何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ從テ控訴裁判所ハ其第一審判決ヲ取消スノ
要ナキモノトス

三七

二二五

○第一審裁判所カ各別ニ審判セル同一ノ被告ニ對スル數箇ノ被告事件ノ

判決ニ對シ檢事及ヒ被告ヨリ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ控訴裁判所カ
其事件ヲ併合審理シ檢事ノミ控訴ヲ爲シタル甲事件ニ付テハ無罪ナリ

トシ又乙事件ニ付テハ有罪ナリトシ被告ノミヨリ控訴ヲ爲シタル丙事
件ニ付キ亦之ヲ有罪ナリトスルトキハ乙丙事件ノ第一審判決ハ共ニ之
ヲ取消シ甲事件ノ控訴ハ之ヲ棄却スヘキモノトス

三七

二六九

○第二審裁判所ハ刑事訴訟法第二百六十二條第二項ノ場合ヲ除ク外原判
決カ本案ノ事實ニ付キ審判シタルト將タ形式上ノ論點ニ對シテ審判シ
タルトヲ問ハス控訴ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却スヘク又其理由
アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ自ラ判決ヲ爲ササルヘカラス

三六

三〇

○繼續犯タル公訴事實ニ付キ第一審裁判所ニ於テ無罪ノ判決ヲ爲シ檢事
ヨリ控訴シタル場合ニ第二審裁判所カ該事實ヲ縮少シ有罪ノ判決ヲ爲
スニ當リテハ其證據十分ナラストセル一部ノ事實ニ付キ特ニ控訴棄却
ノ判決ヲ爲スヘキモノニ非ス

三六

一三五

○民事原告人カ私訴ノ判決ニ對シ控訴ヲ提起シタル場合ニ於テ第二審裁
判所カ第一審裁判所ト事實ノ認定ヲ異ニスルモ同シク其請求ヲ理由ナ
シトスルトキハ控訴ヲ棄却スヘキモノトス

三六

三二六

○人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルト人ヲ恐喝シテ財物ヲ騙取スルトハ其手

段方法ヲ同ウセサルニ過キスシテ共ニ刑法第三百九十條第一項ノ適用ヲ受クヘキモノトス從テ第一審判決カ恐喝取財ト判定シタル所爲ニ對シ第二審ニ於テ詐欺取財ト變更スルモ之カ爲メニ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ

三

一三四

○恐喝取財ヲ爲スニ因リ私文書ヲ偽造行使シタル場合ニ於テ恐喝取財罪ヲ重シトシテ處斷スルト私文書偽造行使罪ヲ重シトシテ處斷スルトハ判決主文ノ刑ノ由テ生スル法律ノ正條ヲ同ウセス從テ控訴裁判所カ此點ニ付キ第一審裁判所ト其判定ヲ異ニスルニ於テハ縱令主文ノ刑期罰金額等ニ變更ヲ生セサルモ必スヤ第一審判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲ササルヘカラス

三

一三四

○押收物ノ還付ニ付キ第一審判決ト第二審判決ト相符合セサルトキハ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲ササルヘカラス
○起訴ノ事實カ二罪ヲ構成スヘキ場合ニ於テ第一審裁判所カ其一罪ノミニ付キ判決ヲ爲シ他ノ一罪ニ對シテ何等ノ裁判ヲ爲ササリシトキハ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ取消シ更ニ起訴事實ノ全部ニ付キ相當ノ判決ヲ爲ササルヘカラス

三

六五三

○豫審ニ於テ免訴トナリタル事實ト雖モ第一審裁判所檢事カ公判廷ニ於

テ更ニ訴追ヲ爲シ裁判所ハ有罪ノ判決ヲ下シ該判決ニ對シテ控訴アリタルトキハ第二審裁判所ハ判決主文ヲ以テ其起訴ニ對シ判斷ヲ爲ササルヘカラス

四〇

一三

○第二審裁判所カ第一審裁判所ト事實ノ認定法律ノ適用ヲ異ニスル以上ハ判決主文ニ何等ノ變更ナキ場合ト雖モ尙ホ第一審判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲ササルヘカラス

四〇

二四六

○森林竊盜ノ贓物ニシテ森林主事ヨリ裁判所ニ差出シタルモノハ之ヲ差出人ニ還付スルモ將タ被害者ニ還付スルモ共ニ同一ノ結果ニ歸著シ何人ノ利害ニモ影響セザルヲ以テ縱令第二審裁判所カ此點ニ付キ第一審裁判所ト判定ヲ異ニスレハトテ第一審判決ヲ取消スノ要ナキモノトス
○強姦罪ハ被害者ヨリ告訴スルモ將タ親屬ヨリ之ヲ告訴スルモ均シク其罪ヲ論スルコトヲ得ヘキモノトス從テ第一審ニ於テハ被害者ノ告訴アリタルモノトシ第二審ニ於テハ親屬ヨリ告訴シタルモノト認ムルモ控訴裁判所ハ之カ爲メニ第一審判決ヲ取消スヘキモノニ非ス
○私訴ニ付テハ法律上訴ノ原因ヲ變更シ得ルモノトス故ニ第一二審兩級ノ判決ニシテ主文ノ合致スル以上ハ單ニ事實理由ヲ同ウセサルノ故ヲ以テ第一審判決ヲ取消スヘキモノニ非ス

四〇

六六六

四〇

六七八

○第一二審兩級ノ判決カ犯罪ノ構成條件タル主要ノ事實ニ於テ相一致スル以上ハ縱令枝葉ノ點ニ於テ其認定ヲ同ウセサルモ第一審判決ヲ認可スルニ妨ナシ

○第二審判決カ刑ノ點ニ於テ第一審判決ト合致セサルニ拘ハラヌ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリ

○第一審ニ於ケル訴訟手續ノ瑕瑾ハ第二審ニ於テ之ヲ補正スレハ足ル從テ第一審判決ハ之ヲ取消スヘキモノニ非ス

(同主旨)

二審裁判所カ一審判決ニ一ノ瑕瑾アルコトヲ指摘シ該判決ヲ取消シタル以上ハ其他ノ瑕瑾ヲ指摘セサルモ不當ニ非ス

○第二審裁判所カ前科ノ事實ニ付キ第一審裁判所ト多少認定ヲ同ウセサルモ結局第一審判決ノ事實ノ認定法律ノ適用及ヒ科刑ノ量定ヲ相當トスルトキハ之ヲ取消スヘキモノニ非ス

(同主旨)

被告ノ前科ニ付キ第一審ト第二審トノ裁判ノ認定ヲ異ニスルモ本案ノ裁判ニ何等ノ影響ヲ生セサル場合ニハ第一審判決ヲ相當トシ控訴ヲ棄却スルモ不法ニ非ス

(參照)

原判文ニ第一審判決ハ相當ニシテ本案控訴ハ其理由ナシト説明シタルニモ拘ハラヌ控訴ヲ理

四〇	九四五
四〇	一〇五
四〇	一四四〇
三五	七五〇
四〇	一四四八
二六	二八一

(第二百六十二條)

○刑事訴訟法第二百六十二條ハ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキノ處分法ニシテ控訴ヲ理由アリトシテ原判決ヲ取消スノ場合ニ適用スヘキ法條ニ非ス

『第二百六十二條』

由アリトスルトキニ適用スヘキ刑事訴訟法第二百六十一條末項ヲ適用シ棄却ノ言渡ヲ爲シタルハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナリ(第二百六十九條三年一〇卷二三頁參照)
數罪俱發一ノ重キニ從テ處分シタル第一審判決ノ一部ノ控訴ヲ受理審判スルニ當リ第一審判決カ刑法第二百二條ヲ適用セサルヲ不法トシテ其判決ヲ取消シタル第二審判決ハ不法ナリ(第二百五十一條三年一〇卷一二頁參照)

○區裁判所檢察事カ地方裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スル事件ヲ同裁判所檢察事ノ移付ニ因リ其裁判所ニ起訴シタル場合ニ區裁判所カ本案ノ判決ヲ與ヘタルトキト雖モ控訴審タル地方裁判所ニ於テ裁判所構成法第十六條第三號二ノ前段ノ事由アリトスルトキハ原裁判所ノ管轄違ナルコトヲ理由トシテ其判決ヲ取消スヘキモノトス而シテ此場合モ亦刑事訴訟法第二百六十二條第一項ノ規定ニ該當ス

○刑事訴訟法第二百八十七條ハ管轄問題ニ關シ何等ノ文字ヲ示ササルモ管轄違ノ判決ヲ爲スヘキ場合ヲ除外シタルモノト認ムヘキ規定ナケレハ上告裁判所カ第一審裁判所ノ管轄違ナリトスル判決ヲ以テ相當ト認

三七	二二九九
二六	二七九
三三	三五九
二七	二八七

ムル場合ニ之ニ對スル第二審判決ヲ破毀スルトキハ同法第二百六十二條第一項ニ從ヒ管轄ニ關シ直ニ其判決ヲ爲スヘキモノトス

○第一審裁判所ニ於テ不當ニ公訴不受理ヲ言渡シタルトキハ第二審裁判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻サス自ラ審理判決スヘキモノトス

(同主旨)

公訴ヲ受理スヘキモノト判決スルモ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノト非ス

(反對)

第一審裁判所ニ於テ不當ニ公訴不受理ヲ言渡シタルトキハ第二審裁判所ハ刑事訴訟法第二百六十二條第二項ヲ準用シ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス

○管轄違ノ言渡ハ普通裁判所相互ノ管轄ニ付テノ規定ニ違背シタル場合ハ勿論普通裁判所ト特別裁判所トノ管轄ニ付テノ規定ニ違背シタル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スヘキモノトス

○刑事訴訟法中第一審裁判所カ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキノ外第二審裁判所ニ於テ控訴ニ係ル事件ヲ第一審ニ差戻スヘキ規定アルコトナシ從テ第一審ニシテ判決裁判所ヲ構成セサル違法ノ判決言渡ニ係ル場合ト雖モ第二審裁判所ハ之ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲スヲ以テ足り事件ヲ第一審ニ差戻スヘキモノト非ス

三六	三二	二六	三五
六八三	二〇	一	二〇
一七	一〇	五〇	二四
二七	七	二	二
二二	二	八	二

(第二百六十三條)

○第一審裁判所カ管轄權ヲ有セストノ判決ヲ第二審裁判所ニ於テ是認シ控訴ヲ棄却シタル場合ニ上告審ハ第一審裁判所ニ管轄權アリトシ第二審判決ヲ破毀シ事件ヲ第二審裁判所ニ移シタルトキハ第二審裁判所ハ更ニ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス

『第二百六十三條』

○刑事訴訟法第二百六十三條ニ更ニ其事件ニ付キ判決ヲ爲スヘシトアルハ原判決ヲ取消スニ止マラス直チニ本案ノ判決ヲ爲スヘシトノ意ニシテ原判決取消ノ判決ト本案ノ判決ト二通ノ判決書ヲ作ルヘシトノ意ニ非ス

○刑事訴訟法第二百六十三條ノ規定ヲ適用スヘキ場合ハ管轄違ノ效力ニ對スル特例ニ屬シ管轄違ナル裁判所ノ審理判決ノ外ハ檢事ノ起訴等總テ其效力ヲ保有セシムルモノトス

(第二百六十四條)

『第二百六十四條』

三六	二六	三七
二七	五	八
二〇	三〇	八

○第一審ニ於テ輕罪トシテ審理シタル事件ヲ第二審ニ於テ重罪トシテ審理スル旨ノ決定ヲ爲シタルニ拘ハラヌ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシメサルハ不法ナリ

○重罪事件下調ノ受命判事ノ報告ハ必スシモ書面ヲ以テスルヲ要セス

○刑事訴訟法第二百六十四條第一項後段ノ規定ハ輕罪トシテ起訴ノ手續ヲ爲シ一審ニ於テ輕罪トシテ審理判決シタル事件ニ付キ重罪トシテ控訴又ハ附帶控訴アリタル場合ニ適用スヘキモノニシテ初メヨリ重罪事件トシテ起訴ノ手續ヲ爲シタル事件ニ關シテハ一審ニ於テ輕罪ナリトシテ判決シタル場合ト雖モ適用スヘキ規定ニ非ス

(同三三)

第二審裁判所ニ於テ第一審裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ檢事カ重罪ナリトシテ控訴ヲ爲シタルトキハ更ニ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ且ツ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムル等ノ手續ヲ履行セサルヘカラス然ルニ原院カ此等ノ手續ヲ爲サシメテ重罪事件トシテ審理シタルハ違法ナリ

刑事訴訟法第二百六十四條ハ第一審ニ於テ輕罪トシテ審理シタル事件ヲ第二審ニ於テ重罪ナリトスル場合ニ適用スヘキ規定ナリ從テ第一審ニ於テ輕罪ナリト判決シタルモ重罪事件トシテ審理シタル場合ニアリテハ第二審ニ於テ同條ノ手續ヲ履行スルヲ必要トセス

○刑事訴訟法第二百六十四條「控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判

三	二	三	三
五	二	二	一
八	二	一	四
	二	一	四
	二	一	四
	二	一	四
	二	一	四
	二	一	四
	二	一	四
	二	一	四

決シタル事件ヲ重罪ナリトスルト云云」ノ規定ハ地方裁判所カ輕罪事件トシテ輕罪ニ關スル手續ニ依リ審理シタル事件ヲ控訴院ニ於テ初メテ重罪ナリトスル場合ニ適用スヘキモノトス從テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ト雖モ既ニ地方裁判所カ重罪事件トシテ重罪ニ關スル手續ヲ履行シ審理シタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

三五	八	七
三五	八	七
三五	八	七
三五	八	七
三五	八	七
三五	八	七
三五	八	七
三五	八	七
三五	八	七
三五	八	七

○重罪事件ノ下調ニ關スル受命判事ノ報告ハ必スシモ書面ヲ要セス口頭ヲ以テ之ヲ爲スモ妨ナシト雖モ既ニ報告書ヲ差出シタル以上ハ別ニ口頭ノ報告ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス

三七	一八七	二
三七	一八七	二
三七	一八七	二
三七	一八七	二
三七	一八七	二
三七	一八七	二
三七	一八七	二
三七	一八七	二
三七	一八七	二
三七	一八七	二

○第一審裁判所カ重罪トシテ審理ヲ遂ケタル事件ニ付テハ縱令檢事ヨリ重罪事件トシテ附帶控訴アルモ控訴裁判所ハ更ニ重罪事件トシテ取調フル旨ノ決定ヲ爲スノ要ナシ

三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三

○重罪事件ニ付キ第一審裁判所ノ受命判事ノ報告書ニ不完備ノ點アル場合ニ於テ控訴裁判所カ其補正ノ爲メ更ニ受命判事ヲシテ取調ヲ爲シ報

三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三
三九	七	三

告ヲ爲サシメタルハ適法ナリ

○重罪事件ニ付キ第一審裁判所ニ於ケル受命判事ノ報告書中不完備ノ點アル場合ニ控訴裁判所カ一度受命判事ヲ定メテ事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシメ其報告書ノ存スル以上ハ爾後審理ヲ更新スルモ之カ爲メニ再ヒ右ノ手續ヲ履行スルノ要ナシ

○裁判所ニ於テ一タヒ刑事訴訟法第二百六十四條ノ決定ヲ爲シタル以上ハ爾後審理ヲ更新スルモ重ネテ其決定ヲ爲スノ必要ナキモノトス

○刑事訴訟法第二百六十四條ニ依ル受命判事ノ報告書ハ公判ニ現出セシメサルヘカラサルモノニ非ス

○刑事訴訟法第二百六十四條第一項ハ控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル被告ノ所爲自體ヲ重罪ニ該當スルモノトシ又ハ檢事ヨリ同一旨趣ノ控訴若クハ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ減刑ノ原因存スル爲メ事實上輕罪ノ刑ヲ科スヘキ場合ナルト否トニ拘ハラズ常ニ同條ノ手續ヲ履踐セシムルノ法意ナリトス

【第二百六十五條】

○被告人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スヲ許サズ

三九	七二
三九	七二
三九	七二
三九	七二
三九	七二
二八	二二二
三九	二二二
三九	二二二
三九	二二二
三九	二二二
三九	二二二
二八	二二二

○第二審裁判所ハ第一審判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ得サルニ止マリ事實ノ認定ヲ爲スハ其自由ニ任ズ

○第二審裁判所ニ於テ第一審裁判所カ重シト認メタルモノヲ無罪トシ同一ノ刑ヲ殘餘ノ罪ニ科スルモ不利益ノ變更ニ非ス

【同(三)】

第二審ニ於テ第一審カ制裁ノ基本トナシタル犯情重キ所爲ヲ無罪トナシ犯情輕キ所爲ニ對シ重キ犯情ニ科シタルト同一ノ刑ヲ科スルモ之ヲ以テ不利益ノ變更ト云フヲ得ズ

○刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストノ法則ハ判決主文ノ刑ヲ重キニ變更スルコトヲ許ササルノ旨趣ナリ

【同(三)】

原院ニ於テ第一審裁判所カ被告ノ所爲ヲ證書騙取罪ト爲シタルヲ不當ナリト認メ之ヲ私書偽造罪ナリト爲スモ其刑第一審ト同一ナル上ハ毫モ被告ノ不利益トナルコトナキヲ以テ第一審判決ヲ變更シテ私書偽造罪トナシ處斷スヘキヲ當然トス然ルニ原院カ之ヲ刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ依リ被告人ノ不利益ニ變更セシメテ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ依リ處斷シ云ト判決シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ
第一審判決ハ被告ヲ謀殺罪ニ間擬シ第二審判決ハ強盜殺人罪ヲ以テ處斷シタルモ本件ハ被告ノ控訴ナルニ原院カ第一審判決ニ認メサル強盜罪ノ事實ヲ附加シ以テ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルハ違法ナリト論告スレトモ原判決ハ第一審判決ト事實ノ認定ヲ異ニシタル

二九	三三
三〇	三七
三〇	三七
三〇	三七
三〇	三七
二七	五〇四
二七	五〇四
二七	五〇四
二七	五〇四
二七	五〇四
二七	五〇四
二七	五〇四
二七	五〇四

ノミニテ新ニ事實ヲ増加シタルニ非ス而シテ其科シタル刑ハ彼此同一ナルヲ以テ原判決ハ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノト謂フヘカラス故ニ上告論旨ハ其理由ナシ
第一審ニ於テ監視六月ニ處シタルヲ變更シ第二審ニ於テ監視七月ニ處シタルハ被告人ニ不利益ナル變更ヲ爲シタル判決ナリトス

(反對)

原裁判ヲ取消更正スルトキハ刑期計算上被告人ニ利益アルヘキ場合ト雖モ現ニ言渡スヘキ刑・原裁判ノ科シタル刑ヨリ重カルヘキトキハ刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂ユル被告人ニ不利益ナル場合ナリ

第一審裁判所カ被告人ノ罪ヲ一個ノ罪ト爲シタルトキ被告人ノミ爲シタル控訴ニ對シ第二審裁判所ハ之ヲ二個ノ罪ト爲シ刑法第百條ヲ適用シテ處斷シタルハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲シタルモノニシテ刑事訴訟法第二百六十五條ノ法則ヲ適用セサル違法ノ裁判ナリ

原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストノ法則ハ判事ノ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ得ヘキ公訴費用等ノ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

被告人ノミノ控訴ニ對シ第一審ニ於テ一罪ト認メタル事件ヲ二罪トシテ處斷シタル判決ハ被告ノ不利益ニ變更シタル不法ノ裁判ナリ

第一審ニ於テ一罪トシテ處斷シタル所爲ヲ數罪トナシ數罪俱發例ヲ適用シ重キニ從テ處斷シタルハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナシタルモノトス

刑期ヲ加重セサルモ第一審ニ於テ二罪ト認メタル所爲ヲ變更シテ四罪ト認メタル判決ハ原判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更シタル不法ノ裁判ナリ

二六	二六	二六	二六	二六	二四	二六	二六
一三	一三	一三	一三	一三	一	三	一三
一三	一三	一三	一三	一三	一	一五	一三
一三	一三	一三	一三	一三	一	一七	一三
一三	一三	一三	一三	一三	一	一七	一三
一三	一三	一三	一三	一三	一	一七	一三
一三	一三	一三	一三	一三	一	一七	一三
一三	一三	一三	一三	一三	一	一七	一三
一三	一三	一三	一三	一三	一	一七	一三
一三	一三	一三	一三	一三	一	一七	一三

委任狀偽造行使ノ所爲ハ刑法第二百十條第一項ニ依リ處斷スヘキ其第二項ニ依リ處斷スヘキモノニ非ス然レトモ被告人ノミノ控訴ヲ裁判スルニ當リ第二審判決ノ適用シタル第二項ヲ更正シテ第一項ヲ適用シテ處罰シタル裁判ハ被告人ノミノ控訴ニ對シ不利益ノ變更ヲ爲シタル不法アリ

事實ノ理由ニ於テ六個ノ所爲アルコトヲ認メナカラ法律ノ適用ニ至リ三罪トシテ處斷シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ然レトモ此場合ハ被告ノ不利益ニ歸スルヲ以テ破毀變更スルコトヲ得ス

刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ原判決ヲ變更シテ其刑ヲ重クシ又ハ原判決ノ認メサル罪ヲ認ムルコトヲ許サストノ法意ナリ

原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ許サス(刑事訴訟法第二百六十五條第一項)トノ法則ハ原審ノ裁判ヨリ重キ刑ヲ科シ又ハ其認メサル罪ヲ罰スルコトヲ許サストノ旨趣ニシテ罪實ノ變更ノ如キハ固ヨリ包含スル所ニ非ス

○刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストノ法則ハ判決主文ノ刑ヲ重キニ變更スルコトヲ許ササルノ旨趣ナリ從テ第一審ニ於テ一罪ト認メタル事件ヲ第二審ニ於テ數罪ト認定スルコトアルモ判決主文ノ刑ヲ重ク變更セサル以上ハ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノト謂フヲ得ス

○第一審判決ニ於テ公訴裁判費用ノ全部ヲ被告三名ニテ連帶負擔スヘキ

二九	二九	二九	二九	二九	三〇	三〇	二九
一六	一六	一六	一六	一六	一〇	一〇	一六
一六	一六	一六	一六	一六	一〇	一〇	一六
一六	一六	一六	一六	一六	一〇	一〇	一六
一六	一六	一六	一六	一六	一〇	一〇	一六
一六	一六	一六	一六	一六	一〇	一〇	一六
一六	一六	一六	一六	一六	一〇	一〇	一六
一六	一六	一六	一六	一六	一〇	一〇	一六
一六	一六	一六	一六	一六	一〇	一〇	一六
一六	一六	一六	一六	一六	一〇	一〇	一六

コトヲ言渡シタルニ之ヲ變更シテ其一部ヲ被告二名ニテ連帶負擔スヘキ旨ヲ言渡シタル判決ハ原判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノトス

○裁判費用負擔ニ關スル判決ノ變更カ被告ニ不利益ヲ來シタルヤモ知ルヘカラストノミ論シ果シテ如何ナル不利益ヲ來シタルヤヲ説明セサル論旨ハ上告ノ理由ト爲ラス

○重懲役十二年ニ處スト言渡シタル第一審判決ヲ取消シ更ニ有期徒刑十二年ニ處スト言渡シタル裁判ハ刑期ニ差異ナシト雖モ一審判決ヲ變更シテ被告ノ不利益ニ歸シタルモノトス

○刑ノ輕重ハ主刑ヲ以テ標準トス從テ第一審判決ニ於テ附加セサリシ罰金ヲ附加スルモ主刑ニシテ第一審判決ヨリ輕キトキハ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノニ非ス

○控訴審ニ於テ新ナル一罪ヲ認メタルモ刑ヲ加重セサリシトキハ刑事訴訟法(第二百六十五條)ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告ノ不利益ト爲シタルモノニ非ス

○沒收ノ理由ノ説明ニ失當ノ點アリトスルモ第一審判決ニ於テ沒收ヲ言渡ササルニ因リ刑事訴訟法第二百六十五條ニ則リ第二審判決ニ於テモ

三五	三四	三四	三四	三三
二	二	八	七	三
四九	四	九	一	二六

亦沒收ノ言渡ヲ爲ササリシ場合ハ結局沒收ノ刑ナキヲ以テ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○一審判決ニ於テ認メタル六箇ノ犯罪行爲ヲ二審判決ニ於テハ十二箇ノ犯罪行爲ナリト認定スルモ其事實ニシテ公訴事實ノ範圍内ナルトキハ之ヲ以テ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シ若クハ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

○第一審裁判所カ相被告四名ヲシテ負擔セシムヘキ公訴費用ヲ三名ノ連帶負擔ト爲シタルハ不當ナリト雖モ第二審裁判所ハ被告ノミノ控訴ニ係ル場合ニ於テハ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更スルヲ得サルカ故ニ之カ更正ヲ爲ササルハ相當ナリ而シテ公訴費用ハ元來相被告各自ニ於テ其全部ヲ負擔スヘキモノナルヲ以テ第二審裁判所カ第一審判決ノ如ク被告ノ中一名ヲ除キ他ノ三名ニ連帶負擔ヲ命シタレハトテ被告等ノ不利益ナリト云フヲ得ス

○檢事ノ控訴ニシテ特ニ被告人ノ利益ノ爲メ爲シタルモノニ非サルトキハ控訴裁判所ハ第一審判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更シ得ルハ勿論其利益ニモ亦之ヲ變更シ得ルモノトス

○第一審判決ヲ變更シタル結果被告人ニ未必ノ不利益ヲ生スヘキトキハ

三五	三六	三五	三七
五	一	六	四
七四	一九二	二六	

刑事訴訟法第二百六十五條ノ不利益變更ニ非ス

三七

四二六

○控訴審ノ確定判決カ再審ノ訴ニ因リ破毀セラレタル場合ニ其事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ該確定判決ノ科刑ノ範圍内ニ於テ判決ヲ爲シ得ヘク毫モ第一審判決ノ科刑如何ヲ顧ミルノ要ナシ

三七

四七〇

○刑事訴訟法第二百六十三條ノ規定ヲ適用スヘキ場合ニ於テハ裁判所ハ管轄違ナリトシテ原判決ヲ取消シ自ラ第一審トシテ審理判決ヲ爲スモノナレハ恰モ管轄違ヲ言渡シ事件ヲ檢事ニ交付シ檢事ヨリ更ニ起訴ヲ爲シタルト同一ニシテ變更スヘキ判決アルコトナシ從テ同法第二百六十五條ノ制限ヲ受クルノ限ニ在ラス

三七

八四六

○第一審ニ於テ被告ニ二箇ノ犯罪行爲アリトシ其各所爲ニ對シ罰金二十圓ヲ言渡シタル場合ニ第二審カ之ヲ變更シテ單一ノ犯罪行爲ナリトシ罰金三十圓ヲ言渡スモ刑事訴訟法第二百六十五條ノ不利益變更ニ非ス
○第一審判決ニ對シ被告及ヒ檢事ヨリ各控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ第二審裁判所カ檢事ノ控訴ニ基キ第一審判決ヲ取消シ更ニ其控訴申立ノ旨趣ニ從ヒ擬律ヲ爲シ而モ檢事ノ主張ニ係ル被告ノ所爲中其一ヲ重シトシテ刑ヲ科スヘキトキハ縱令第一審判決ヨリ重キ刑ヲ言渡スモ刑事訴訟法第二百六十五條ノ不利益變更ニ非ス

三六

四六

○連帶義務者ハ各自其義務ノ全部ヲ負擔スヘキモノナレハ縱令控訴判決ニ因リ求償額ノ割合ニ變更ヲ來スコトアルモ之ヲ以テ原判決ヲ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

三七

九三五

○沒收ハ其目的物ノ種類如何ニ拘ハラズ被告ニ對スル刑罰トシテ之ヲ宣告スヘキモノナレハ第一審裁判所カ應禁物ノ沒收ヲ爲ササル場合ニ第二審裁判所ニ於テ之ヲ宣告シタルトキハ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更セルモノトス
○控訴裁判所カ第一審判決ニ於テ附加セザリシ押收品ノ沒收ヲ言渡スモ其主刑ニシテ第一審判決ヨリ輕キトキハ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

三六

八六六

○刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決トハ上告裁判所カ第二審判決ヲ破毀シ事件ヲ他ニ移シタル場合ト雖モ不服ヲ申立テラレタル第一審判決ノミヲ指稱シ既ニ破毀セラレタル第二審判決ハ之ニ包含セス

三九

七五三

(同主旨)
原院カ大審院ノ移送ニ係ル確定判決ニ拘ラス原判決ヲ變更シ詐欺取財ノ所爲ニ刑ヲ科シタルハ刑事訴訟法第二百六十五條ニ違背シタル不法ノ判決ナリト被告論告スレトモ曩キノ大審院判決ハ詐欺取財未遂ノ點ヲ無罪ナリト判定セシニ非ス原院カ其判決ノ理由ニ於テ無罪ナリト説明シタルモ判決主文ニ之ヲ判示セサル點ニ付キ言渡ヲ爲ササリシチ不法トシタルモノナレ

四〇

六五三

○刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決トハ上告裁判所カ第二審判決ヲ破毀シ事件ヲ他ニ移シタル場合ト雖モ不服ヲ申立テラレタル第一審判決ノミヲ指稱シ既ニ破毀セラレタル第二審判決ハ之ニ包含セス

四〇

七八九

ハ本件詐欺取財未遂ノ點カ無罪ト確定シタリト云フヘカラス且大審院ハ前控訴院ノ第二審判決ノ全部ヲ破毀シタルモノナレハ原院ハ第一審判決ノ當否ヲ審判スヘキモノニシテ全部破毀セラレタル前控訴院ノ判決ニ羈束セラレルモノニ非ス

刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストアル原判決トハ第二審ノ場合ニ於テハ即チ第一審判決ヲ指スモノナレハ大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シ其事件ヲ乙控訴院ニ移シタル場合ノ如キハ甲控訴院ノ判決ハ原判決ナル法文中ニ包含スヘキモノニ非ス

刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サストハ第一審判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更スルコトヲ許ササルノ旨趣ニシテ上告裁判所ヨリ移送ヲ受ケタル控訴裁判所カ上告裁判所ノ破毀シタル第二審判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更スルヲ禁シタルモノニ非ス

○第一審裁判所カ意思繼續ノ一罪トシテ處罰シタル事實ヲ第二審裁判所ニ於テ二箇獨立ノ犯罪ナリト判斷シ罰金ヲ併科シタル場合ト雖モ其併科セル罰金ノ總額ニシテ第一審判決ノ罰金額ヲ超過セサル以上ハ該判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

【第二百六十六條】

○第一審辯護人ノ控訴ニ基キ開廷シタル第二審ニ於テ被告人ノ出頭セサルトキハ其判決ハ闕席判決ナリ

○控訴裁判所ニ於テ控訴申立人出頭セサルトキハ直チニ闕席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘキモノトス而シテ事實ノ審理ハ勿論公訴消滅ノ關係ノ如キモ一切之ヲ審理スヘキモノニ非ス

○刑事訴訟法第二百六十六條ニ所謂申立人ノ意見ヲ聽キトハ申立人カ請求スル所即チ事實上及ヒ法律上ノ意見ヲ聽クヘシトノ意義ナリトス

○控訴申立人タル被告カ公判期日ニ出廷セサルニ因リ控訴棄却ノ判決ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ事實ニ關スル證據調ヲ爲スヘキモノニ非サレハ被告ニ於テ證據調ノ申請ヲ爲スノ權ナキハ勿論縱令既ニ其申請ヲ爲シ且裁判所カ一旦之ヲ採用スル旨ノ決定ヲ與ヘタルトキト雖モ該申請及ヒ決定ハ被告ノ闕席ノ爲メ全然其效力ヲ喪失スルモノトス

○出席シタル控訴人ハ相手方カ闕席シタルト否トニ拘ハラズ常ニ對席判決ヲ受クヘキモノトス

○刑事訴訟法第二百六十六條後段ノ規定ハ被控訴人出頭セサルトキハ其闕席ノ儘控訴人ノ事實及ヒ法律ニ關スル意見ヲ聽取シ且被控訴人カ爲シタル主張ノ當否ニ付キ審理ヲ遂ケ相當ノ裁判ヲ爲スヘシトノ旨趣ニシテ被控訴人出頭セサルトキハ之ニ對シテ敗訴ノ言渡ヲ爲スヘシトノ法意ニ非ス

二七	四四二
二九	三二六
三三	二八九
四〇	二四五
三〇	二六七

三四	三三四
三四	二一〇
三六	一九
三九	六三
三九	一〇三

第三章 上告

○差押ヘタル物品ヲ所有者ニ非サル警察署ヘ還付スト言渡シヲ爲シタル第一審判決ヲ不當ナリト主張シタル控訴ノ趣意ニ對シ原裁判所カ何等ノ説明ヲ與ヘスシテ本案ノ控訴ヲ棄却シタルハ違法ナリト論告スレトモ該物品ハ其所有者分明ナラス即チ被告ノ所有ニ非スト云フニ依リ其還付言渡ノ當否ハ被告等ニ利害ノ影響ナキヲ以テ原裁判所カ特ニ此點ニ對シ説明ヲ爲ササリシハ其當否ニ論ナク被告ノ上告理由ト爲スヲ得ス

○相被告ノ判決ニ對シ上告スルヲ許サス

(同前旨)

他人ノ控訴ニ關スル事柄ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○沒收ノ言渡ナキヲ論難スルハ不利益ノ上訴ヲ爲スニ外ナラス

○自己ニ不利益ナル申立ハ上告ノ理由トナラス〔同一判例二五年二卷四一頁二七年二六〇頁二八年一卷一頁〕

○公訴不受理ノ判決ニ對シ受理審判ノ申立ヲ爲スハ被告人ノ不利益ニ歸スル論旨ナルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス

六	六	六	二五	六	六
三	二	一	二	一	
一七	六五	二三元	六	八	五〇

○偽造ノ借用證書ヲ禁制品ニ非ストシテ還付ノ言渡ヲナシタル裁判ハ擬律錯誤ノ不法アルヲ免カレス然レトモ其判決ヲ破毀シテ沒收ノ言渡ヲ

ナストキハ被告人ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス

○公訴不受理ノ言渡ニ對シテハ上告ヲ爲スヲ許サス

○第二審ノ闕席判決ニ對シテハ故障ヲ爲サスシテ直ニ上告スルヲ得ス

○偽造證書ヲ沒收セサルヲ非難スル論旨ハ自己ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告ノ理由トナラス

○郵便爲替證書ヲ偽造行使シタル所爲ヲ私文書偽造行使罪ニ問擬シタル

場合ニ於テ官文書偽造行使罪ニ問擬スヘキモノナリト主張スル被告人

ノ上告ハ結局被告ノ不利益ニ歸著スルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス

○一罪ト判決シタル事件ニ對シ數罪ナリト論争スルハ被告ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告ノ理由トナラス

○罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ト雖モ上告審ニ於テハ代人ヲ差出スコトヲ許サス

○裁判費用各自負擔ノ判決ニ對シ連帶負擔ト爲スヘシトノ論旨ハ被告人ノ不利益ニ歸著ス從テ上告ノ理由ト爲ラス

○上告裁判所ハ記録以外ノ書類ニ付キ取調ヲ爲スヘキモノニ非ス從テ新

三四	三三	三三	三三	三三	二元	二元
三	六	四	二	一	五	五
五四	二	七三	二	七	四〇	七

○ニ上告裁判所ニ提出シタル書類ニ付キ審査スルヲ得ス
○還付處分ニ付キ失當ノ點アリトスルモ自己ノ利害ニ關係ナキ被告ハ之ヲ論争スルヲ得ス

○上告裁判所ニ於テ被告事件犯罪ヲ構成セサルモノトシテ無罪ノ判決ヲ受クヘキ地位ニ在ル被告ノ上告論旨トシテ第二審裁判所ノ事實ノ認定ニ違法アリト主張スルハ被告ノ利益トナラサルモノトス

○裁判所ニ於テ管轄ヲ否認シ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其判決ハ結局被告人ニ利益ナル性質ヲ有ス從テ該判決ヲ不當ト爲シ其破毀ヲ求ムル被告人ノ上告ハ不法ナリトス

○第二回ノ闕席判決ニ對スル上告ハ原裁判所カ闕席判決ヲ言渡スヘカラサル場合ニ之ヲ言渡シタルコトヲ主張シ其判決ヲ破毀シテ更ニ本案ノ審理判決ヲ受クルコトヲ唯一ノ目的ト爲スヘキモノナレハ本案ニ關スル理由ニ基キテ原判決ヲ攻撃シ得サルモノトス

○控訴裁判所カ特許侵害ノ事實アリト判定シタル場合ニ苟クモ其認定ニシテ間然スル所ナキ以上ハ縱令其後ニ至リ特許無効ノ審決アルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
○民事原告人ノ請求ヲ却下シタル判決ニ對シテハ被告ニ於テ其理由ヲ不

三四	五九
三五	六七
三六	一六〇九
三七	一四一六
三七	一六〇八
三七	一八〇一

當トスルモ上告ヲ爲スコトヲ得ス

○控訴院カ二箇ノ別異ナル判決ヲ以テ第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ニ對シテ刑ヲ言渡シタルトキハ其取消ノ判決ハ本案判決ノ前提ニシテ之ト分離スヘカラサル關係ヲ有ス從テ被告カ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テノミ上告ノ申立ヲ爲スモ之カ爲メニ取消ノ判決ニ對シテ不服ノ申立ナキモノト云フヲ得ス

○公權ヲ剝奪セラレタル者カ證人トシテ供述ヲ爲シタル場合ト雖モ其事實カ第二審判決ノ當時記録又ハ公判ニ顯ハレサルトキハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

○民事被告人カ訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ該事件ノ第二審繫屬中ニ死亡シタルトキハ縱令委任消滅ノ通知ナキモ其訴訟手續ハ控訴判決ノ言渡以後中斷セラルルカ故ニ民事原告人ハ該判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○權利關係ノ合一ニノミ確定スヘキ私訴事件ニ於テ共同訴訟人ノ一名ニ中斷ノ原因ヲ生シタルトキハ其事件全體ニ付キ訴訟手續ヲ中斷スルモノトス
○權利關係ノ合一ニノミ確定スヘキ私訴事件ニ於テ共同訴訟人ノ一部ノ

三七	一九七七
三六	一七〇
三六	二五三
三六	一三〇〇
三六	一三〇〇